

平成27年度

高校生の政治・選挙に関する意識調査（報告書）

【平成28年3月】

さいたま市選挙管理委員会

は し が き

さいたま市選挙管理委員会では、若者の政治や選挙への関心を深めるための取組を行う参考とするために、公職選挙法改正後の平成 27 年 9 月に、さいたま市内の市立高校 4 校の生徒を対象に「高校生の政治・選挙に関する意識調査」を実施しました。

今回の調査結果は、今後の選挙事務の管理執行や選挙啓発の参考資料として大いに活用していきたいと考えています。

なお、本調査の企画、集計、分析及び本報告書の執筆に当たり、埼玉大学社会調査研究センター長の松本正生教授には、多大なる御尽力をいただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

最後になりましたが、本調査の実施に当たりまして、市立高校 4 校の先生・生徒の方をはじめ、御協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

平成 28 年 3 月

さいたま市選挙管理委員会
委員長 村井 勝美

【目次】

I. 調査の概要	1
はじめに	1
1. 調査目的	1
2. 調査対象	1
3. 調査方法	1
4. 回答者数	1
5. 調査期間	1
II. 調査結果の概要	2
1. 投票への志向性	2
2. 政治意識・政治的メンタリティの位相	4
3. 政治意識の脈絡	20
4. 投票の動機付け要素	26
まとめにかえて	30
III. 資料データ	32
1. 調査票と単純集計	34
2. 自由意見の具体的記述	42
3. 設問ごとの単純集計グラフと学年別集計グラフ	44
IV. 参考資料	70
年代別投票率の状況	71

※ 図、表及び文章中の NA は、無回答（No Answer 答えない）を示します。

※ 「II. 調査結果の概要」において分析に用いる比率は、回答者数を基数として百分率の小数第1位を四捨五入して算出しています。このため、すべての比率を合計しても100%にならないことがあります。また、2009年～2015年間の比較データに関しては、NAを含まない数値を総計として比率を算出していますが、属性別データについてはNAを含んだ数値を総計として比率を算出しています。このため、数値間には若干のズレが存在します。

※ 「III. 資料データ」のうち、単純集計結果及び単純集計グラフの比率は、回答者数を基数として百分率の小数第2位を四捨五入して算出しています。ただし、「3. 設問ごとの単純集計グラフと学年別集計グラフ」における学年別集計結果の比率は、回答者数を基数として百分率の小数第1位を四捨五入して算出しています。

このため、すべての比率を合計しても100.0%にならないことがあります。

なお、複数回答の設問では、すべての比率を合計すると100.0%を超えます。

※ 図や文章中の選択肢の表記は、場合によっては語句等を一部簡略化しています。

【 I . 調査の概要】

はじめに

2015年6月の公職選挙法改正により、日本における有権者年齢が従前の20歳から18歳へと引き下げられ、2016年7月（実施予定）の参議院議員通常選挙からは、高校生が投票する光景が現出することになった。

さいたま市選挙管理委員会では、公選法改正後の2015年9月に、さいたま市内の市立高校4校の生徒を対象に「高校生の政治・選挙に関する意識調査」（以下、〈さいたま高校生調査2015〉）を実施した^{（注1）}。同選挙管理委員会は、2009年10月にも同じく市立高校4校の高校生を対象に「さいたま市高校生政治意識調査」（以下、〈さいたま高校生調査2009〉）を実施している^{（注2）}。埼玉大学社会調査研究センターは、双方（2009年、2015年）の調査における質問票の設計、および、結果の集計・分析を担当した。

この報告書では、これら2つの調査結果に基づいて高校生の政治意識や政治的メンタリティを考察し、投票行動への動機付け要因を探求する。

1. 調査目的

公職選挙法の改正により、選挙権年齢が18歳に引き下げられることとなったことから、若者が選挙や政治への関心を深めるための取組を行う参考とするため、「高校生の政治・選挙に関する意識調査」を実施した。

2. 調査対象

さいたま市立高等学校4校（浦和高校、浦和南高校、大宮北高校、大宮西高校）に在籍する1～3年生の男女（概ね1,000名を抽出）

3. 調査方法

教室単位で調査票を配布し、記入後に回収する集合調査法

4. 回答者数

有効回答者数：925名

男性：373名 女性：552名

1年生：313名 2年生：312名 3年生：300名

5. 調査期間

平成27年9月7日～平成27年9月30日

【Ⅱ. 調査結果の概要】

1. 投票への志向性

1—1. 投票に行くか・行かないか？

まず、リアルになった選挙での投票について、彼らはどう対応するつもりなのか。「(18歳になったら)投票に行きますか」とストレートに聞いた結果は、[表1]のとおりである。「(投票に行く)」は57%。すでに当該の18歳をむかえた3年生においては64%と相応の割合を占めてはいるが、全体では6割にとどかない。明確な「行かない」回答は、8%と少ないものの、「わからない」も全体で34%、女性や1年生では4割近く存在する。

「行く」と回答した人たちに、サブ・クエッションで、その理由を聞くと、[表1]の下段のようになった。「国民として投票するべきだと思うから」と義務的にとらえる比率が47%で最も高い。これに対して、「投票することで政治がよくなると思うから」、「政治や政治家に関心があるから」、「支持する候補者・政党があるから」など、積極的に対応しようとする回答の割合はいずれも低く、合計でも16%にとどまる。

〔表1〕

Q. 15 あなたは、18歳になったら投票に行きますか。(2015)

	行く	行かない	わからない
男性	62	9	28
女性	54	7	38
1年生	52	8	39
2年生	55	8	35
3年生	64	7	26
全体	57	8	34

(%)

Q. 15SQ1 (「行く」と回答した方に)

なぜ投票に行こうと思ったのですか。

国民の権利であるから	23
投票することで政治がよくなると思うから	9
政治や政治家に関心があるから	6
支持する候補者・政党があるから	1
国民として投票するべきだと思うから	47
選挙権年齢18歳引き下げの報道を見て	7
なんとなく	7

(%)

1—2. 18歳選挙権に賛成か・反対か？

そもそも、高校生は、今回の選挙権年齢の「18歳引き下げ」をどう評価しているのだろうか。〔表2〕は、「選挙権年齢が18歳に引き下げられたことに賛成ですか、反対ですか」に対する回答を示している。「賛成」は、学年が上がるにつれて増加し3年生では53%を占めるが、全体では46%と半数に満たない状況である。「わからない」が3割、「反対」も全体で2割、女性では23%になっている。

今回の公選法改正の経緯に明らかなように、「18歳選挙権」は、彼ら若者の要求や働きかけがきっかけで実現したわけではなかった。「自分たちが望んだのではないから」という消極的ないし受動的な反応は、致し方ないのかもしれない。選挙での投票と言われても「まだピンとこない」といったところだろうか^(注3)。

ただ、2割とはいえ、明確な「反対」の存在は気に掛かる。理由を聞いたサブ・クエッションの結果（〔表2〕の下段）からは、自信のなさや、否定的な自己認識が示唆される。「反対」理由の大半は、「18歳の時点では世の中のことが理解できていないから」、「面白半分に、または適当に投票する人が増えるから」、「メディアやネット情報に左右されやすい年代に権利を与えるのは危険だから」などで、計75%に及ぶ。投票へのとまどい、あるいは一票に対する無力感などを越えた、自虐的とも言い得るような心性がうかがえよう。

〔表2〕

Q. 16 あなたは、選挙権年齢が「18歳以上」に引き下げられたことに賛成ですか、反対ですか。（2015）

	賛成	反対	わからない
男性	49	16	34
女性	44	23	31
1年生	40	21	37
2年生	45	19	35
3年生	53	21	23
全体	46	20	32

(%)

Q. 16SQ2（「反対」と回答した方に）

なぜ反対なのですか。

面白半分に、または適当に投票する人が増えるから	30
まずは20歳代の投票率を向上させる方が先だから	10
18歳の時点では世の中のことが理解できていないから	33
受験勉強やアルバイトなどで忙しく投票に行けないと思うから	5
メディアやネット情報に左右されやすい年代に権利を与えるのは危険だから	13
18歳以上に引き下げても、若い人の意見は政治に反映されないと思うから	4
わからない	0

(%)

2. 政治意識・政治的メンタリティの位相

(経年変化と属性別)

さて、2015年の調査では、2009年調査と同一の質問を多数採用している。ここでは、両調査の共通質問結果における経年変化を確認する。あわせて、それら共通質問に関する2015年調査の結果を男女および学年別にブレイクダウンし、属性別の位相も検討していきたい。

2-1. 選挙で投票することとは？

「選挙で投票することは（国民の）義務か権利か、それとも（投票する・しないは）個人の自由か」。〔表3〕上段で2009年と2015年の結果を比較すると、「投票は義務である」とする回答が減少し、「個人の自由である」が増加している。トータルで見ると、義務にせよ権利にせよ「投票すべき」とする比率がやや減少している。下段の2015年の属性別結果では、「義務」の比率が学年の上昇とともにやや増加し、反対に「個人の自由」回答がやや減少するという傾向を確認できる。

〔表3〕

Q8. あなたは、選挙での投票について、次の中のどれに近い考えをお持ちですか。（'09→'15）

	2009	2015
1. 投票することは国民の義務である	36	30
2. 投票することは国民の権利であるが、棄権すべきではない	37	38
3. 投票する、しないは個人の自由である	23	28
4. わからない	5	3

(%)

Q8. あなたは、選挙での投票について、次の中のどれに近い考えをお持ちですか。（2015）

	投票することは 国民の義務 である	投票することは 国民の権利であ るが、棄権すべ きではない	投票する、しない は個人の自由 である	わからない
男性	31	35	30	4
女性	30	40	27	3
1年生	27	39	30	4
2年生	30	35	29	5
3年生	33	40	25	1
全体	30	38	28	3

(%)

「最近の選挙では投票率が低下してきているが、これをどのように考えるか」を聞いた結果を、〔表4〕にまとめている。2009年―2015年間では、「別にかまわない」や「やむをえない」と受け止める回答にはほとんど変化がみられないのに対して、「何らかの対策を講ずるべきだ」の比率が若干増加している。下段の属性別結果では、各学年に共通して「何らかの対策を講ずるべきだ」が半数を占めている。

〔表4〕

Q9. 最近の選挙では、投票率が低下してきていますが、あなたはこのことについて、どのようにお考えですか。（'09→'15）

	2009	2015
1. 投票するしないは個人の自由なので、別にかまわないと思う	13	12
2. 自分たちの代表を選ぶ選挙だから好ましくはないが、やむをえないと思う	33	32
3. 投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講ずるべきだと思う	47	51
4. わからない	7	6

(%)

Q9. 最近の選挙では、投票率が低下してきていますが、あなたはこのことについて、どのようにお考えですか。（2015）

	投票するしないは個人の自由なので、別にかまわないと思う	自分たちの代表を選ぶ選挙だから好ましくはないが、やむをえないと思う	投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講ずるべきだと思う	わからない
男性	15	29	49	7
女性	10	33	52	5
1年生	11	30	50	8
2年生	13	31	49	6
3年生	11	34	53	3
全体	12	32	51	6

(%)

次に、実際の選挙の制度（投票手続）に関して、「期日前投票」の認知度を確認した結果を、〔表5〕に示した。期日前投票を「知っている」という回答が、62%（2009年）から80%（2015年）へと顕著に増加している。属性別（下段）においても、2年生の比率はやや気になるものの、男女、学年をこえて8割と大多数を占めている。期日前投票制度は、若者も含め、社会的な定着を得たと解釈できるであろう。

〔表5〕

Q10. 期日前投票をご存じですか。（'09→'15）

	2009	2015
1. 知っている	62	80
2. 知らない	38	20

(%)

Q10. 期日前投票をご存じですか。（2015）

	知っている	知らない
男性	81	19
女性	80	20
1年生	83	17
2年生	74	26
3年生	84	15
全体	80	19

(%)

2—2. 政治への関心と政治の満足度

今度は、彼ら高校生と政治との関わりについてみてみよう。〔表6〕の「政治的な事柄を議論したり、話題にすること」の頻度を聞いた結果では、「全くない」が、2009年の38%から2015年に43%へと増加している。これに「週に1度ぐらいある」を加えた比率も、63%から73%に増えている。下段の属性別では、「毎日」と「週に何回か」の話題にする頻度の高い人たちの比率に男女差が見受けられる。一方、「まったくない」人たちは、男女、学年の別なく4割を上回っている。総じて、政治のことはあまり話題にならないようである。

〔表6〕

Q1. あなたは、誰かと政治的な事柄を議論したり、話題にすることがありますか。（'09→'15）

	2009	2015
1. 毎日ある	3	3
2. 週に何回かある	15	13
3. 週に1度ぐらいある	25	30
4. まったくない	38	43
5. その他	8	4
6. わからない	10	6

(%)

Q1. あなたは、誰かと政治的な事柄を議論したり、話題にすることがありますか。（2015）

	毎日	週に何回か	週に1度	全くない	わからない
男性	5	16	27	41	6
女性	2	11	31	44	6
1年生	3	9	30	44	9
2年生	5	12	27	41	7
3年生	2	17	32	43	2
全体	3	13	30	43	6

(%)

ところが、〔表7〕の「自分自身の生活と政治がどの程度関係していると思うか」への回答は、「非常に関係している」の比率が14%(2009年)から22%(2015年)へと増加している。反対に、「あまり関係していない」、「全然関係していない」は双方とも減少し、合計比率も25%(2009年)から16%(2015年)と2割を下回るようになった。属性別では、3年生において「非常に関係している」が27%と比較的高い。

〔表7〕

Q4. あなたは、自分自身の生活と政治がどの程度関係しているとお考えですか。(’09→’15)

	2009	2015
1. 非常に関係している	14	22
2. ある程度関係している	52	53
3. あまり関係していない	19	13
4. 全然関係していない	6	3
5. わからない	9	9

(%)

Q4. あなたは、自分自身の生活と政治がどの程度関係しているとお考えですか。(2015)

	非常に関係 している	ある程度関係 している	あまり関係 していない	全然関係 していない	わからない
男性	23	49	15	4	8
女性	21	54	11	2	11
1年生	22	49	13	3	12
2年生	18	58	12	2	10
3年生	27	50	13	3	6
全体	22	52	13	3	9

(%)

政治への関心度についても、同様の傾向が存在する。〔表 8〕を参照されたい。「国や地方の政治にどの程度関心があるか」に対する「ある」比率は、「非常にある」、「ある程度ある」とともに上昇し、合計は 44%(2009 年)から 52%(2015 年)へと増加している。政治のことを話題にする機会が減少しているにもかかわらず、政治への関係性の認識や政治関心の度合いが増加しているのは何故なのか。背景にどのような脈絡が存在しているのだろうか。なお、政治関心の度合いについては、男性と女性の間には若干の相違が存在し、「非常に」と「ある程度」を合計した「(関心)あり」比率が男性=55%、女性=49%となっている。また、学年についても、1・2 年生における「(関心)あり」比率が 5 割を下回っているのに対して、3 年生の同比率は 61%を示している。

〔表 8〕

Q 2. あなたは国や地方の政治にどの程度関心がありますか。('09→'15)

	2009	2015
1. 非常に関心がある	5	6
2. ある程度関心がある	39	46
3. あまり関心がない	36	34
4. 全然関心がない	15	11
5. わからない	4	4

(%)

Q 2. あなたは国や地方の政治にどの程度関心がありますか。(2015)

	非常に 関心がある	ある程度 関心がある	あまり 関心がない	全然 関心がない	わからない
男性	8	47	28	13	2
女性	4	45	37	9	5
1 年生	4	42	37	11	4
2 年生	5	42	35	13	4
3 年生	7	54	27	8	3
全体	6	46	33	10	4

(%)

これに対して、政治に対する満足度は低く、変化も確認できない。〔表9〕に明らかなように、「今の日本の政治のあり方にどの程度満足しているか」に関して、「かなり満足」の比率は、2009年、2015年ともに1%、「まあ満足」も、2009年＝6%、2015年＝8%で極めて低く、「満足」の合計は1割に満たない。

属性別をみると、男女や学年間にほとんど相違は存在しない。「やや不満」と「かなり不満」を合わせた「不満」の割合は、すべてで4割を上回っている。先の政治関心について関心度の最も高かった3年生でさえ、「不満」が45%と高率を占めている。なお、すべての属性において「どちらともいえない」が3割を占めているが、この「どちらともいえない」の文脈にも留意が必要であろう。

〔表9〕

Q6. あなたは、今の日本の政治のあり方にどの程度満足していますか。（'09→'15）

	2009	2015
1. かなり満足	1	1
2. まあ満足	6	8
3. どちらともいえない	36	33
4. やや不満	25	28
5. かなり不満	18	17
6. わからない	14	12

(%)

Q6. あなたは、今の日本の政治のあり方にどの程度満足していますか。（2015）

	かなり満足	まあ満足	どちらとも いえない	やや不満	かなり不満	わからない
男性	2	9	32	28	16	12
女性	1	7	33	28	18	13
1年生	0	9	33	26	17	14
2年生	1	7	30	29	19	13
3年生	2	8	36	30	15	9
全体	1	8	33	28	17	12

(%)

2—3. 政治制度に関する認知と信頼

高校生の、政治の制度や政党・政治家などに関する認知度と信頼度においては、どのような傾向が存在しているのか。[表 10] は、「今の日本の政治を実際に動かしているのは誰か」に対する回答を示している。「国会議員」の割合が、3割強で常に第1位を占めている。これに対して、「国民一人一人」の比率は、2009年、2015年とも15%で比率に変化はなく、順位も3位と一定である。

2009年と2015年とを比較すると、「首相」の割合が9%から22%へと顕著に増加している。この間、現実の政治社会では、民主党政権から自民党の安倍政権に移行している。現在の安倍首相や安倍政治のプレゼンスが、彼ら高校生のアンテナにそれ相応に関知されているという解釈が成り立つかもしれない。

[表 10] 下段の属性別では、「官僚」の比率が注目に値する。1年生の5%から、2年生の10%、3年生の20%へと学年ごとに倍増しており、「首相」の比率の逆の傾向が確認できる。先にみた政治への関わり認識や政治関心と、何らかの関連が存在しているのか。

【表 10】

Q 5. 今の日本の政治を実際に動かしているのは誰だと思いますか。('09→'15)

	2009	2015
1. 国会議員	32	32
2. 官僚	16	12
3. 首相	9	22
4. 国民一人一人	15	15
5. 大企業	3	1
6. マスコミ	11	6
7. その他	1	1
8. わからない	13	11

(%)

Q 5. 今の日本の政治を実際に動かしているのは誰だと思いますか。(2015)

	国会議員	官僚	首相	国民一人一人	大企業	マスコミ	その他	わからない
男性	29	14	22	16	1	7	2	7
女性	33	10	21	14	1	5	1	14
1年生	32	5	24	18	1	5	1	13
2年生	32	10	21	13	2	6	0	13
3年生	30	20	19	13	1	7	2	7
全体	31	12	21	15	1	6	1	11

(%)

次に、政治制度や政治のアクターへの信頼度を、「選挙制度」、「政党」、「国会」、「中央省庁」、「マスコミ」の順で確認してみよう。〔表 11〕の選挙制度については、信頼度が比較的高い。一口に「信頼度」とはいても、その前提となるべき選挙制度に関する知識をどの程度保有しているかが問題ではあるが、「かなり信頼できる」と「ある程度信頼できる」の合計は、2009年、2015年ともに半数を上回り安定している。また、2015年の属性別結果においては、「わからない」比率の減少する傾向を除けば、男女間や学年間で大きな相違は見受けられない。

〔表 11〕

Q7(1). あなたは、次の制度や組織、団体について、どの程度信頼していますか。（'09→'15）
（選挙制度）

	2009	2015
1. かなり信頼できる	6	7
2. ある程度信頼できる	47	47
3. あまり信頼できない	18	22
4. ほとんど信頼できない	9	7
5. わからない	20	17

(%)

Q7(1). あなたは、次の制度や組織、団体について、どの程度信頼していますか。（2015）
（選挙制度）

	かなり 信頼できる	ある程度 信頼できる	あまり 信頼できない	ほとんど 信頼できない	わからない
男性	9	49	20	8	13
女性	6	45	23	6	19
1年生	7	46	18	6	22
2年生	8	43	25	7	16
3年生	7	50	23	8	12
全体	7	46	22	7	17

(%)

選挙制度とは対照的に、政党に対する信頼度は低い。〔表 12〕を参照されたい。「かなり」と「ある程度」を合わせた政党への信頼の割合は、2009年、2015年ともにほぼ2割に過ぎない。反対に、「あまり」と「ほとんど」を合計した不信（信頼できない）の比率は、2009年＝55%、2015年＝57%と大多数を占めている。加えて、属性別の結果に、留意すべき傾向が存在する。「あまり」＋「ほとんど」に相当する「政党不信」の比率が、1年生＝47%、2年生＝57%、3年生＝66%と、学年の上昇とともに明確に増加することにはほかならない。「不信」比率の増加には、「わからない」比率の減少傾向、すなわち、1年生＝27%、2年生＝23%、3年生＝14%との相関が類推される。また、「ある程度信頼できる」回答にも男女間で大きな相違が存在している。

〔表 12〕

Q 7 (2). あなたは、次の制度や組織、団体について、どの程度信頼していますか。('09→'15)
(政党)

	2009	2015
1. かなり信頼できる	2	1
2. ある程度信頼できる	20	20
3. あまり信頼できない	39	43
4. ほとんど信頼できない	16	14
5. わからない	24	22

(%)

Q 7 (2). あなたは、次の制度や組織、団体について、どの程度信頼していますか。(2015)
(政党)

	かなり 信頼できる	ある程度 信頼できる	あまり 信頼できない	ほとんど 信頼できない	わからない
男性	1	28	40	14	16
女性	1	15	44	14	25
1年生	1	24	35	12	27
2年生	1	18	43	14	23
3年生	1	18	50	16	14
全体	1	20	42	14	21

(%)

〔表 13〕の国会も、政党と同様に信頼度が低い。「かなり」と「ある程度」を合わせた「国会信頼」の比率は、2009年、2015年ともに2割を若干上回る程度である。一方、「あまり」と「ほとんど」を合計した「不信（信頼できない）」は、2009年が53%、2015年も56%と、政党ほどではないものの、過半数を占めている。

属性別の結果においても、先に政党で確認した傾向が存在する。すなわち、「あまり」＋「ほとんど」に相当する「国会不信」の比率は、1年生＝45%、2年生＝58%、3年生＝63%と、学年の上昇とともに明確に増加している。不信派比率の増加には、やはり、「わからない」比率の減少傾向との相関が見受けられ、各学年の数値も1年生＝27%、2年生＝23%、3年生＝15%で、〔表 12〕の結果と符合する。さらに、「ある程度信頼できる」回答に関する、男女間での大きな相違（男性＝29%、女性＝15%）や1年生と2・3年生間の相違（1年生＝26%、2・3年生＝17%・18%）なども、政党への信頼度と共通している。

〔表 13〕

Q 7 (3). あなたは、次の制度や組織、団体について、どの程度信頼していますか。（'09→'15）
（国会）

	2009	2015
1. かなり信頼できる	1	2
2. ある程度信頼できる	23	21
3. あまり信頼できない	35	41
4. ほとんど信頼できない	18	15
5. わからない	24	22

(%)

Q 7 (3). あなたは、次の制度や組織、団体について、どの程度信頼していますか。（2015）
（国会）

	かなり 信頼できる	ある程度 信頼できる	あまり 信頼できない	ほとんど 信頼できない	わからない
男性	2	29	36	15	18
女性	1	15	44	14	24
1年生	1	26	33	12	27
2年生	1	17	42	16	23
3年生	2	18	47	16	15
全体	2	21	41	15	22

(%)

〔表 14〕の中央省庁に関する結果は、政党や国会とは様相が異なる。比率が最も高いのは、「信頼できるか・できないか」ではなく「わからない」回答で、2009年、2015年ともに4割を占めている。経年変化をみると、「かなり」と「ある程度」を合計した「信頼できる」比率が2009年の19%から2015年には32%へと増加し、「あまり」と「ほとんど」を合わせた「信頼できない」比率は逆に、2009年の40%から2015年の27%に減少している。

属性別結果に転じると、すべての学年で「わからない」の割合が最も多く、学年間での顕著な相違も見受けられない。高校生にとって、中央省庁は、選挙制度、政党、国会などに比べ、そもそもの印象度が低いということであろう。したがって、印象やイメージの希薄さという基調傾向を前提とするならば、2009年から2015年にみられた「信頼できる」回答の増加傾向も、やや割り引いて評価する必要があると示唆される。

〔表 14〕

Q7(4). あなたは、次の制度や組織、団体について、どの程度信頼していますか。(’09→’15)
(中央省庁)

	2009	2015
1. かなり信頼できる	1	2
2. ある程度信頼できる	18	30
3. あまり信頼できない	26	21
4. ほとんど信頼できない	14	6
5. わからない	41	42

(%)

Q7(4). あなたは、次の制度や組織、団体について、どの程度信頼していますか。(2015)
(中央省庁)

	かなり 信頼できる	ある程度 信頼できる	あまり 信頼できない	ほとんど 信頼できない	わからない
男性	2	38	20	8	32
女性	2	25	21	4	47
1年生	2	33	16	5	44
2年生	1	29	22	6	40
3年生	2	29	23	6	39
全体	2	30	20	6	41

(%)

マスコミについてはどうだろうか。〔表 15〕を参照されたい。マスコミに対する信頼度（「かなり信頼できる」と「ある程度信頼できる」の合計比率）は、2009 年の 31%から 2015 年の 26%へと若干減少し、「ほとんど」と「あまり」を合わせた不信（信頼できない）が、54%(2009 年)から 59%(2015 年)に微増し多数を占めている。加えて、2015 年の「ほとんど信頼できない（強い不信）」の 20%は、先の政党や国会に対する比率よりも高い。政治の制度的主体と社会とを媒介し、国会や政党と有権者との中間的なアクターとして世論を反映すべきマスコミ（報道機関）も、「ネット世代」の高校生には、既存の体制ないし既成の制度と同次元に位置する距離の遠い存在なのかもしれない。

表下段の属性別結果においては、政党や国会と同様に、「ほとんど」＋「あまり」の不信比率が、1年生の 52%を起点に、2年生の 59%、3年生の 65%と学年の上昇とともに増加している。同時に、「わからない」比率も、1年生の 21%を起点に、2年生の 14%、3年生の 11%と学年があがるにつれて減少している。「信頼できない」回答と「わからない」回答との間に逆相関関係が見受けられる。「わからない」の減少にともなう「不信」の増加、すなわち、政治への関心の胚胎が、政治に対するネガティブなイメージが生じることにつながるのだとしたら、いささか皮肉な現実と言わざるを得ない。

〔表 15〕

Q 7 (5). あなたは、次の制度や組織、団体について、どの程度信頼していますか。（'09→'15）
（マスコミ）

	2009	2015
1. かなり信頼できる	4	1
2. ある程度信頼できる	27	25
3. あまり信頼できない	36	39
4. ほとんど信頼できない	18	20
5. わからない	16	15

(%)

Q 7 (5). あなたは、次の制度や組織、団体について、どの程度信頼していますか。（2015）
（マスコミ）

	かなり 信頼できる	ある程度 信頼できる	あまり 信頼できない	ほとんど 信頼できない	わからない
男性	2	26	37	23	12
女性	1	24	39	18	18
1年生	1	26	34	18	21
2年生	1	25	39	20	14
3年生	1	23	43	22	11
全体	1	25	38	20	15

(%)

2-4. メディア接触と情報源

今度は、メディアへの接触度および情報源についてみてみよう。〔表 16〕は、「新聞をどのくらい読むか」を聞いた結果を示している。2009 年と 2015 年とを比較すると、「毎日」、「週何回か」がともに減少し、これらを合わせた「読んでいる」比率は 31%(2009 年)から 19%(2015 年)へと 2 割を下回っている。一方、「まったく読まない」は、2009 年の 29%から 2015 年には 46%と顕著に増加し、半数近くを占めている。「まったく」と「あまり」を合計した「読まない」比率は 8 割に達する。属性別の結果では、「毎日読んでいる」の比率から、男性の新聞コア層の存在が推察される。反対に、「まったく読まない」比率には学年間での相違は見受けられない。

〔表 16〕

Q 1 2. あなたは新聞をどのくらい読みますか。 ('09→'15)

	2009	2015
1. 毎日読んでいる	12	7
2. 週に何回か読んでいる	19	12
3. あまり読まない	37	34
4. まったく読まない	29	46
5. わからない	3	2

(%)

Q 1 2. あなたは新聞をどのくらい読みますか。 (2015)

	毎日 読んでいる	週に何回か 読んでいる	あまり 読まない	まったく 読まない	わからない
男性	12	15	31	40	2
女性	4	9	36	50	1
1 年生	6	11	33	46	3
2 年生	6	10	35	48	1
3 年生	8	14	33	44	0
全体	7	12	34	46	2

(%)

続いてテレビはどうだろうか。〔表 17〕をみると、「毎日見ている」は 2009 年、2015 年ともに 8 割以上、「週に何回か見ている」も 2009 年、2015 年とも約 1 割で安定している。一方、「まったく見ない」はわずかに 1～2%、「あまり見ない」を合わせても数パーセントに過ぎない。若者の新聞ばなれにとどまらず、「テレビばなれ」も指摘される昨今ではあるが、視聴時間数や視聴形態はともかく、テレビが身近な存在であることに変化はないようである。

〔表 17〕

Q 13. あなたは、テレビをどのくらい見ますか。（'09→'15）

	2009	2015
1. 毎日見ている	83	80
2. 週に何回か見ている	7	11
3. あまり見ない	7	6
4. まったく見ない	1	2
5. わからない	1	1

(%)

社会におけるメディアや情報環境の変化とともに、2009 年－2015 年間で大きく増加したのが、インターネットの使用頻度である。〔表 18〕を参照されたい。「インターネットをどのくらい使うか」について、「毎日使う」が 2009 年の 28%から 2015 年には 59%へと倍増している。「週に何回か使う」の 24%を加えた、比較的使用頻度の高い人は 8 割を上回る。反対に、「まったく使わない」は 3%、「あまり使わない」も 12%と低率である。属性別にみても、「毎日」および「週に何回か」の使用頻度の高い人たちの比率には、学年間でほとんど相違は存在していない。

〔表 18〕

Q 14. あなたは、インターネットをどのくらい使っていますか。（'09→'15）

	2009	2015
1. 毎日使う	28	59
2. 週に何回か使う	44	24
3. あまり使わない	22	12
4. まったく使わない	5	3
5. わからない	2	1

(%)

Q 14. あなたは、インターネットをどのくらい使っていますか。（2015）

	毎日使う	週に何回か 使う	あまり 使わない	まったく 使わない	わからない
男性	55	24	12	5	3
女性	61	24	12	2	1
1 年生	58	27	9	3	3
2 年生	56	23	15	4	1
3 年生	61	23	11	3	1
全体	58	24	12	3	1

(%)

ただし、「毎日使う」、「週に何回か使う」と回答した 83%の人たちに、サブ・クエッションで「ニュースサイトをどのくらい見るか」と問うと、〔表 19〕のように、やや様相の異なる傾向が現出する。2015 年結果におけるニュースサイトを「毎日見ている」比率は、2009 年と比べ確かに増加してはいるものの、度合いはそれほど大きくなく、絶対値も 20%と低率である。「週に何回か」を加えても 5 割を少し上回るにとどまっている。一方、「まったく」と「あまり」を合わせた「見ない」派も 46%で半数近く存在する。

携帯デバイスが必携となり、インターネット検索やインターネット情報が身近で日常的な環境となった。だからといって、政治や社会のニュースや情報へのアクセス頻度が大きく増加するとは限らない。政治や選挙の話が彼ら高校生のアンテナにキャッチされるには、また別次元のきっかけが要件となるのであろう。

〔表 19〕

Q14SQ. (「毎日」、「週に何回か」と回答した方に)
 ニュースサイトをどのくらい見ますか。('09→'15)

	2009	2015
1. 毎日見ている	13	20
2. 週に何回か見ている	27	33
3. あまり見ない	33	32
4. まったく見ない	25	14
5. わからない	2	0

(%)

3. 政治意識の脈絡

ここからは、2015 年調査結果の質問間クロス集計を中心に、高校生における政治意識の脈絡を検討したい。

3-1. 政治関心 × 政治満足度

政治への関心と政治満足度とのクロス集計結果をまとめた〔表 20〕を参照されたい。すでに確認したように、高校生の政治に対する満足度は低く、「かなり不満」と「やや不満」を合わせた不満が 45%を占め、「どちらともいえない」も 33%存在していた。

政治への関心を基準にした政治満足度との関係を見ると、留意すべき傾向が存在する。すなわち、政治への関心の上昇にともない、「かなり」＋「やや」の政治不満の比率が増加している。不満の比率は、「あまり関心がない」で 38%、「ある程度関心がある」で 51%、「非常に関心がある」で 62%と、関心の高まり度合いと正の相関を示している。政治への関心が高いほど政治に対する不満度も高い。

一方、関心の度合いに応じた不満比率の上昇とは反対に比率が減少しているのは、「どちらともいえない」および「わからない」回答が相当する。これは、先に政党、国会、マスコミなどへの信頼度に見られた傾向、すなわち、「わからない」回答比率の減少とともに「信頼できない」という「不信」が増加する傾向と符合する。

〔表 20〕

Q 2 × Q 6

(2015)

政治満足 政治関心	かなり満足	まあ満足	どちらともいえない	やや不満	かなり不満	わからない
非常に関心がある	10	10	16	31	31	2
ある程度関心がある	0	10	34	34	17	4
あまり関心がない	0	7	39	24	14	16
全然関心がない	1	2	22	23	23	30

(%)

同様の関係性は、2009年調査からも確認できる。〔表 21〕は、同じく政治への関心と政治満足度のクロス集計結果を示している。「かなり」と「やや」を合計した政治への不満の比率は、政治への関心の「ある（非常に＋ある程度）」層で 56%と高く、「ない（全然＋あまり）」層の 35%と比べ顕著な相違が存在する。

〔表 2 1〕 政治への関心（Q 4）× 政治満足度（Q 8） (2009)

政治への関心	政治満足度		
	満足 (かなり＋まあ)	不満 (やや＋かなり)	どちらでもない
ある (非常に＋ある程度)	7	56	33
ない (あまり＋全然)	7	35	39

(%)

加えて、2009年調査の「政治への関心」と「政党への信頼度」や「国会への信頼度」とのクロス結果についても類似の傾向が見受けられる。〔表 22〕＝「政党」、〔表 23〕＝「国会」に共通して、政治への関心の「ある（非常に＋ある程度）」層の方が、「ない（全然＋あまり）」層よりも「政党」や「国会」に対する不信（「ほとんど信頼できない」＋「あまり信頼できない」）の割合が高くなっている。また、関心の「ある」層と「ない」層との間に「わからない」比率に関して大きな相違が存在し、「ある」層の「わからない」比率＝13%(政党)・12%(国会)に対し、「ない」層の「わからない」比率は 30%(政党・国会)を占めている。「ある」層における「わからない」比率の減少分は、「信頼」よりも「不信」の上昇分に寄与していると推定される。

〔表 2 2〕 政治への関心（Q 4）× 政党への信頼度（Q 9） (2009)

政治への関心	政党		
	信頼できる (かなり＋ある程度)	信頼できない (あまり＋ほとんど)	わからない
ある (非常に＋ある程度)	26	61	13
ない (あまり＋全然)	18	52	30

(%)

〔表 2 3〕 政治への関心（Q 4）× 国会への信頼度（Q 9） (2009)

政治への関心	国会		
	信頼できる (かなり＋ある程度)	信頼できない (あまり＋ほとんど)	わからない
ある (非常に＋ある程度)	28	60	12
ない (あまり＋全然)	21	49	30

(%)

こうした傾向は、(財)明るい選挙推進協会(現(公財)明るい選挙推進協会)の実施した若者に関する全国調査(2009年)にも共通している。同調査結果の、「国や地方の政治への関心度」と「日本の政治のあり方への満足度」とのクロス集計結果をまとめた[表24]を参照されたい^(注4)。政治への関心が「非常に」および「ある程度」ある層の政治への不満度(「かなり」+「やや」不満)は84%で、関心の「全然」および「あまり」ない層の不満度65%に比べて高い比率である。また、「ある」層の「わからない」+「どちらともいえない」比率=14%と、「ない」層の「わからない」+「どちらともいえない」比率=31%に明らかなように、両層間の不満度の相違との相関関係も示唆される。

先にも指摘した通り、「政治への関心が高いほど政治に対する不満度も高い」、しかも、「政治への不満」や「不信」回答と「わからない」回答との間には逆相関関係が類推される。政治への認識や関心の胚胎が、政治に対するマイナス・イメージの覚醒につながる。「政治への気づきはネガからはじまる」と表現できるかもしれない。であるならば、高校生の時点で芽生えた政治へのネガティブ・メンタリティが、その後の成長による社会化過程で相対化される機会は存在するのだろうか。仮に、存在しないとしたら、それをどう設定するかが、主権者教育の、より具体的にはアクティブ・ラーニングの課題に相当しよう。

〔表24〕

若者調査・Q4 国や地方の選挙にどの程度関心がありますか × Q10 今の日本の政治のあり方にどの程度満足していますか

政治満足 政治関心	かなり+まあ満足	どちらともいえない	やや+かなり不満	わからない	実数
非常に+ある程度ある	2.4	11.9	83.8	2.0	1171
あまり+全然ない	3.4	20.4	65.1	11.1	779
わからない	1.4	25.7	51.4	21.6	74
合計	2.7	15.7	75.3	6.3	2044

(%)

3—2. 「(投票に)行く・行かない」の弁別要素、「わからない」の布置

ここからは、投票への志向性と他の質問とのクロス結果から、「投票に行く・行かない」を弁別する要素を検出したい。あわせて、第三回答として相応の割合(33%)を占める「わからない」の布置ないし脈絡も検討したい。

〔表25〕は、「投票に行く・行かない」と「政治への関心」とのクロス結果を示している。「非常に」と「ある程度」を合計した「(関心が)ある」比率を比較すると、投票に「行く」層の65%に対して、「行かない」層は18%と大きな差が存在し、「わからない」層は36%で中間に位置している。したがって、「全然」と「あまり」を合計した「(関心が)ない」比率は、「行く」が32%、「行かない」が76%、「わからない」が56%で、「ある」比率とは反転した構図となっている。

〔表25〕

Q15×Q2 (政治関心)

(2015)

	非常に 関心がある	ある程度 関心がある	あまり 関心がない	全然 関心がない	わからない
投票に行く	9	56	27	5	2
行かない	1	17	40	36	6
わからない	0	36	42	14	7

(%)

ところが、「政治満足度」については位相が異なる。〔表26〕を参照されたい。「かなり」と「まあ」を合わせた「満足」比率は、「行く」=10%、「行かない」=5%、「わからない」=8%と、いずれも低率で顕著な相違もみられない。一方、「かなり」と「やや」を合わせた「不満」比率は、「行く」で50%、「行かない」でも50%とまったく差がない。また、「不満」の割合は「わからない」でも39%と比較的高率を示している。いずれにせよ、投票に「行く」と回答した人の間にも、政治に対する不満が相応に高いことは注目される。

〔表26〕

Q15×Q6 (政治満足)

(2015)

	かなり 満足	まあ満足	どちらとも いえない	やや不満	かなり 不満	わからない
投票に行く	1	9	33	32	18	7
行かない	1	4	20	24	26	24
わからない	0	8	34	25	14	18

(%)

〔表 27〕の「政治との関わり」に関しては、また違った様相が存在している。「非常に関係している」の比率は、確かに、投票に「行く」層のみが 27%と、他の「行かない」や「わからない」に比べて高いものの、「非常に」と「ある程度」を合計した「関係している」の割合は、「行く」の 79%だけでなく、「行かない」で 61%、「わからない」でも 68%と相応に高い。また、「あまり関係していない」と「全然関係していない」の比率は、「行く」、「行かない」、「わからない」のいずれについても低く、値にもそれほどの相違は存在していない。

〔表 27〕

Q 15 × Q 4 (政治との関わり)

(2015)

	非常に 関係している	ある程度 関係している	あまり関係 していない	全然関係 していない	わからない
投票に行く	27	52	13	2	5
行かない	10	51	13	7	19
わからない	16	52	12	4	14

(%)

次に、選挙制度、政党、国会に対する信頼度と「投票に行く・行かない」との関係を確認してみよう。投票への志向性と選挙制度への信頼度とのクロス結果を示した〔表 28〕を参照されたい。「かなり」と「ある程度」を合計した選挙制度を「信頼できる」とする比率は、「(投票に)行く」の 59%、「わからない」の 48%、「行かない」の 38%と、ほぼ 1 割ずつ減少している。順当な傾向であろう。

〔表 28〕

Q 15 × Q 7 (1) (選挙制度への信頼度)

(2015)

	かなり 信頼できる	ある程度 信頼できる	あまり 信頼できない	ほとんど 信頼できない	わからない
投票に行く	8	51	23	6	11
行かない	7	31	20	16	26
わからない	5	43	21	6	24

(%)

〔表 29〕の政党への信頼度については、「行く」、「行かない」、「わからない」層共通に比率は低い。のみならず、「ほとんど」と「あまり」を合計した「不信(信頼できない)」比率は、「行く」が 62%と最も高く、「わからない」の 50%、「行かない」の 47%の順になっている。この傾向は、若干意外に思えなくもないが、逆にみれば、(政党)不信だからといって投票に行かないわけではないと捉えることもできよう。

〔表 29〕

Q 15 × Q 7 (2) (政党への信頼度)

(2015)

	かなり 信頼できる	ある程度 信頼できる	あまり 信頼できない	ほとんど 信頼できない	わからない
投票に行く	2	23	47	15	13
行かない	1	23	26	21	29
わからない	0	16	39	11	34

(%)

国会に対する信頼度に関しても、同様の傾向が存在する。〔表 30〕に明らかなように、「ほとんど」と「あまり」を合わせた国会への「不信（信頼できない）」比率は、「行く」、「行かない」、「わからない」のいずれにおいても高く、とりわけ「行く」では6割を占めている。

〔表 30〕

Q 15 × Q 7 (3) (国会への信頼度) (2015)

	かなり 信頼できる	ある程度 信頼できる	あまり 信頼できない	ほとんど 信頼できない	わからない
投票に行く	2	24	44	16	14
行かない	1	14	31	24	29
わからない	1	16	39	10	33

(%)

ここで、投票への志向性と投票義務感との関係を確認しておこう。〔表 31〕を参照されたい。「投票に行くか・行かないか」と「投票は義務・権利か、それとも個人の自由か」とのクロス結果を示している。選挙での投票を「義務である」と「権利であるが、棄権すべきではない」とする比率の合計は、「(投票に) 行く」層で86%であるのに対して、「行かない」層では30%とほぼ三分の一に減少する。反対に「(投票する、しないは) 個人の自由だ」の比率は、「行く」層での14%に比べ、「行かない」層では64%を占めている。この「個人の自由だ」層を実際の選挙での投票へ向かわせるのには、相応の根気と仕掛けが要請されることを示唆していよう。

また、「(投票に行くかどうか) わからない」層に関しては、「義務である」と「権利であるが、棄権すべきではない」の合計が49%、「個人の自由だ」が43%と拮抗している。これまで確認してきたように、「わからない」層が、「行く」と「行かない」のほぼ中間に位置している。中間層としての「わからない」層を、どのように投票に動機付けるかが、選挙の教育や啓発のポイントとなるように思われる。

〔表 31〕

Q 15 × Q 8 (投票は義務か自由か) (2015)

	投票することは 国民の義務 である	投票することは 国民の権利であ るが、棄権すべ きではない	投票する、しない は個人の自由 である	わからない
投票に行く	43	43	14	1
行かない	13	17	64	6
わからない	13	36	43	8

(%)

4. 投票の動機付け要素

ここからは、高校生の投票の動機付けにかかわる要素について、検討していきたい。

4—1. 政治の知識と情報源

先ず、政治に関する知識としては、選挙の制度のうち、期日前投票の認知を取り上げたい。

「期日前投票を知っているか・知らないか」についての回答と、投票への志向性とのクロス結果を〔表 32〕にまとめた。期日前投票を「知っている」と「知らない」との間には「(投票に) 行く」比率に顕著な相違が存在し、「知っている」層の「(投票に) 行く」は 63%と、「知らない」層での 32%のほぼ 2 倍に相当する。また、「知らない」層では「行くか・行かないか」に関して「わからない」の比率が最も高い。これらの傾向を考慮すると、制度や手続に関する知識を持つことは、投票へと向かう重要な要素となる可能性が示唆されよう。

先にもみたように、投票への志向性に関連する質問結果においては、自分が有権者として投票することへの不安や戸惑いが存在していた。選挙や投票の意義もさることながら、投票への動機付けの第一歩は、彼らの自信のなさを解消すること、つまり、投票の制度や手続を知ってもらうことが肝要であろう。

〔表 3 2〕

Q 1 0 × Q 1 5 (期日前投票を知っているか) (2015)

	行く	行かない	わからない
知っている	63	6	29
知らない	32	12	54

(%)

続いて、メディアを通じた情報接触についてみてみよう。〔表 33〕は、新聞を読む度合いごとの投票志向性をまとめている。先にも確認したように、もともと高校生が新聞を読む頻度は低く、今後はさらに低下する可能性が存在する。しかしながら、「(投票に) 行く」比率は、「毎日 (読む)」の 75%を最高に、「週に何回か (読む)」の 74%、「あまり (読まない)」の 62%、「まったく (読まない)」の 48%へと順に減少している。とりわけ、「毎日」および「週に何回」の「読む」層の志向性は高い。該当する層の絶対量はともかく、新聞を読む習慣の果たす役割の大きさを示している。

〔表 3 3〕

Q 1 2 × Q 1 5 (新聞をどのくらい読むか) (2015)

	行く	行かない	わからない
毎日読んでいる	75	5	20
週に何回か読んでいる	74	7	17
あまり読まない	62	6	31
まったく読まない	48	9	40
わからない	7	14	79

(%)

テレビ視聴と投票志向性とのクロス結果は、[表 34] に示した。トータルなテレビ視聴の頻度と「(投票) に行く・行かない」との間には、優位な相関は見受けられない。すなわち、「毎日」および「週に何回か」の「見ている」層と、「あまり」および「まったく」の「見ない」層との間に、「行く」比率の相違はほとんど存在しない。なお、「まったく見ない」層のみは、他に比べて「行かない」の比率が高いが、もともとの「テレビをまったく見ない」の割合が、全体で2%と極めて小さいことに留意する必要がある。

〔表 34〕

Q 13 x Q 15 (テレビをどのくらい見るか) (2015)

	行く	行かない	わからない
毎日見ている	58	8	33
週に何回か見ている	57	4	36
あまり見ない	56	5	35
まったく見ない	53	27	20
わからない	0	0	100

(%)

テレビについては、さらに、ニュース番組にしぼって視聴頻度を聞いている。[表 35] を参照されたい。ニュース番組の視聴と投票への志向性に関しても、先のテレビ一般の視聴と同様に、「毎日」、「週に何回か」、「あまり」の「見ている」層においては、頻度による相違は存在しない。

〔表 35〕

Q 13 S Q x Q 15 (ニュース番組をどのくらい見るか) (2015)

	行く	行かない	わからない
毎日見ている	61	8	30
週に何回か見ている	57	4	38
あまり見ない	38	13	47
まったく見ない	33	22	44
わからない	0	50	50

(%)

インターネットへのアクセスと投票志向性との関係はどうだろうか。[表 36]にまとめた。「(投票に) 行く」比率は、「毎日 (使う)」から「全く (使わない)」まで、「使う」、「使わない」間に相違は見受けられない。

〔表 36〕

Q14 x Q15 (インターネットをどのくらい使うか) (2015)

	行く	行かない	わからない
毎日使う	59	9	30
週に何回か使う	56	4	38
あまり使わない	53	6	39
全く使わない	61	18	21
わからない	15	15	69

(%)

インターネットについても、ニュースサイトに限定してチェック頻度と投票志向性の関係をまとめている。[表 37]を参照されたい。「(投票に) 行く」比率に関して、頻度に応じた明確な相違が存在し、「毎日 (見ている)」=71%から、「週に何回か (見ている)」=64%、「あまり (見ない)」=52%、「まったく (見ない)」=43%へと、ほぼ均等に減少している。また、「わからない」の比率には、「毎日」と「週に何回か」の「見ている」層と「あまり」と「まったく」の「見えない」層間で相違が存在する。先に確認したように、新聞やテレビなどの既存メディアへの接触度については、特定の度合いに回答が集中していた(たとえば、テレビであれば「毎日見る」が79%を占めていた)。インターネットのニュースサイトへのアクセスに関しては、それとは異なり、選択肢に関する比率の偏りは存在していない。つまり、「毎日」=20%、「週に何回か」=33%、「あまり」=32%、「まったく」=14%と、どの度合いも相応のシェアを示している。この傾向を考慮すると、今後は、インターネットを通じた社会・政治情報への接触および取得が、投票の動機付けの要件のひとつとなるように思われる。

〔表 37〕

Q14SQ1 x Q15 (ニュースサイトをどのくらい見るか) (2015)

	行く	行かない	わからない
毎日見ている	71	7	21
週に何回か見ている	64	7	27
あまり見ない	52	6	40
まったく見ない	43	12	42
わからない	50	0	50

(%)

4—2. 家庭環境の効果

今度は、家庭環境について検討してみよう。〔表 38〕は、「親子関係（親に関する認識や親との関係）」を聞いた結果を示している。4つの事項について、2009年と2015年とを比較すると、「親はテレビのニュース番組をよく見ていた」や「親は投票に行っている」は、やや比率を減少させているものの、ほぼ7割を占めている。また、「親と政治の話をしたことがある」は、約5割で変わりはない。一方、「親と一緒に投票所に行ったことがある」は、2009年の28%から2015年には39%へと増加しているものの、比率自体はそれほど高くはない。なお、NHKの全国調査における同様の質問（「家族と一緒に投票所に行ったことはあるか」）に対する「ある」の比率も43%で、さいたま市の高校生の回答結果と類似している。

〔表 38〕

Q 1 1. あなたのご両親についてお伺いします。（'09→'15）

	2009	2015
1. 親はテレビのニュース番組をよく見ていた	75	70
2. 親と政治の話をしたことがある	53	53
3. 親は投票に行っている	75	68
4. 親と一緒に投票所に行ったことがある	28	39
5. どれもあてはまらない	5	6

(%)

「親子関係」と投票への志向性とのクロス結果には、注目すべき傾向が見受けられる。〔表 39〕を参照されたい。先の4項目ごとの「(投票に) 行く・行かない」について、「行く」の割合が最も高いのは「親と一緒に投票所に行ったことがある」の59%で、「親と政治の話をしたことがある」の38%とは有意な相違が存在する。体験自体の割合はそれほど高くはないとはいえ、「親子で投票」の相応の効果を示唆している。いわゆる子連れ投票は、これまで、「幼児」と「やむを得ない事情がある者として投票管理者が認めた者」のみに限定する公職選挙法の規定により原則禁止とされていた。しかしながら、政府（総務省）は今回の「18歳選挙権」に付随する形で、「18歳未満の誰でも同伴可能」に改正する方針だという。ようやくにしてという感はあるが、歓迎すべき対応であろう。

〔表 39〕

Q 1 1 x Q 1 5（両親について）

(2015)

	行く	行かない	わからない
親はテレビのニュース番組をよく見ていた	39	13	46
親と政治の話をしたことがある	38	13	50
親は投票に行っている	48	5	44
親と一緒に投票所に行ったことがある	59	11	30
どれもあてはまらない	17	32	51

(%)

まとめにかえて

18歳選挙権にともない、高校をはじめとする学校教育においては、主権者教育に総称される多様な形態の啓発授業が展開されようとしている。ただ、それは、あくまで今後次第である。仮に、主権者教育が順調かつ広範に浸透していくとしても、学校教育だけで、これまで家庭の担ってきた政治的・社会化機能を代替できるわけでは決してない。学校教育で推奨されるアクティブ・ラーニングの主要メニューのひとつとして、投票を模擬的に体験する模擬選挙が各地で実施されるようになったが、模擬選挙による投票体験の前に、先ず、親子での投票による投票所体験が不可欠であろう。習うより慣れろ。選挙での投票を、誰もが行う当たり前の習慣であると実感するステージこそが、一票の意義を強調する理念レベルでの教育に優先されるべきであるように思う。親の責任と家庭環境の影響は大きい。

(文責：松本正生)

注1) 「高校生の政治意識・選挙に関する意識調査」は、2015年9月に、さいたま市立高等学校4校(浦和高校、浦和南高校、大宮北高校、大宮西高校)に在籍する1～3年生を対象に、教室単位で調査票を配布し、回答記入後に回収する集合調査法により実施した。有効回答数は、925人、男:373人、女:552人、1年生:313人、2年生:312人、3年生:300人となっている。調査票と単純集計結果は後掲。

注2) 「さいたま市高校生政治意識調査」は、2009年10月に、さいたま市立高等学校4校(浦和高校、浦和南高校、大宮北高校、大宮西高校)に在籍する1～3年生を対象に、教室単位で調査票を配布し、回答記入後に回収する集合調査法により実施した。有効回答数は、875人、男:375人、女:500人、1年生:305人、2年生:287人、3年生:283人となっている。同調査の結果については、『さいたま市高校生政治意識調査 一調査結果の概要一』さいたま市選挙管理委員会、2010.3を参照されたい。

注3) 信濃毎日新聞社が、2015年12月に、長野県内の公私立高校19校の2,3年生を対象に実施した意識調査(回答者数1,401人)の結果によれば、「選挙権が18歳に引き下げられたこと」に対して、「賛成」が42%、「反対」が20%、「わからない」が38%となっており、〈さいたま高校生調査2015〉と同様の傾向が存在する(『信濃毎日新聞』2016.1.28付朝刊)。

注4) (財)明るい選挙推進協会(現(公財)明るい選挙推進協会)による「若い有権者の意識調査」は、2009年1月23日～2月15日にかけて、全国の16歳～29歳の男女3,000人を対象に、郵送調査法により実施され、有効回収数は2,053人、同回収率は68.4%であった。同調査の結果については、『若い有権者の意識調査(第3回)』(財)明るい選挙推進協会、2010.1を参照されたい。

【Ⅲ. 資料データ】

1. 調査票と単純集計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 4
2. 自由意見の具体的記述・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 2
3. 設問ごとの単純集計グラフと学年別集計グラフ・・・・・・・・・・・・・・ 4 4

1. 調査票と単純集計

「高校生の政治・選挙に関する意識調査」

意識調査に御協力ください

さいたま市選挙管理委員会では、近い将来有権者となる高校生を対象に、「高校生の政治・選挙に関する意識調査」を実施します。

この調査は、さいたま市の市立高等学校4校(浦和高等学校、浦和南高等学校、大宮北高等学校、大宮西高等学校)に在籍する1年生～3年生の男女生徒を対象に、各校の御協力をいただき実施するもので、みなさんから政治や選挙に対する見方や考え方をお聞きし、これからの選挙執行に反映させるために貴重な御意見をいただきたいと考えています。

市立高等学校から、合計約1,000人の生徒に御協力をいただき、回答内容は統計的に処理し、分析をします。

また、意識調査は無記名で行います。お名前は記入しないようお願いいたします。

ぜひ、率直な御意見をお聞かせください。

さいたま市選挙管理委員会

有効回答数 925



《お問い合わせ先》
さいたま市浦和区常盤6-4-4
さいたま市選挙管理委員会事務局 選挙課
電話 048-829-1773(直通)
FAX 048-829-1994
E-Mail senkyo@city.saitama.lg.jp

「高校生の政治・選挙に関する意識調査」

回答は質問番号、矢印に従って進んでください。あてはまる番号に○をつけていただくものと、ご意見等を記入していただくものがあります。記入は鉛筆又は黒ボールペンでお願いします。
名前をお書きになる必要はありません。

Q1 あなたは誰かと政治的な事柄を議論したり、話題にしたりすることがありますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1	毎日ある	30(3.2%)	4	まったくない	396(42.8%)
2	週に何回かある	119(12.9%)	5	その他()	40(4.3%)
3	週に1度ぐらいある	275(29.7%)	6	わからない	56(6.1%)
			NA		9(1.0%)

Q2 あなたは国や地方の政治にどの程度関心がありますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1	非常に関心がある	51(5.5%)	4	全然関心がない	97(10.5%)
2	ある程度関心がある	424(45.8%)	5	わからない	37(4.0%)
3	あまり関心がない	308(33.3%)	NA		8(0.9%)

Q3 あなたは、今関心をもっている政治的な問題がありますか。あれば具体的にお書きください。

()

Q4 あなたは、自分自身の生活と政治がどの程度関係しているとお考えですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1	非常に関係している	204(22.1%)	4	全然関係していない	25(2.7%)
2	ある程度関係している	482(52.1%)	5	わからない	86(9.3%)
3	あまり関係していない	117(12.6%)	NA		11(1.2%)

Q5 今の日本の政治を実際に動かしているのは誰だと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1	国会議員	291(31.5%)	4	国民一人一人	137(14.8%)	7	その他()	10(1.1%)
2	官僚	107(11.6%)	5	大企業	12(1.3%)	8	わからない	103(11.1%)
3	首相	196(21.2%)	6	マスコミ	55(5.9%)	NA		14(1.5%)

Q6 あなたは、今の日本の政治のあり方にどの程度満足していますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1	かなり満足	9(1.0%)	4	やや不満	261(28.2%)
2	まあ満足	74(8.0%)	5	かなり不満	158(17.1%)
3	どちらともいえない。	302(32.6%)	6	わからない	112(12.1%)
			NA		9(1.0%)

Q7 あなたは、次の制度や組織、団体について、どの程度信頼していますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

(1) 選挙制度

1	かなり信頼できる	67(7.2%)	4	ほとんど信頼できない	64(6.9%)
2	ある程度信頼できる	429(46.4%)	5	わからない	153(16.5%)
3	あまり信頼できない	204(22.1%)	NA		8(0.9%)

(2) 政党

1	かなり信頼できる	10(1.1%)	4	ほとんど信頼できない	128(13.8%)
2	ある程度信頼できる	187(20.2%)	5	わからない	198(21.4%)
3	あまり信頼できない	393(42.5%)	NA		9(1.0%)

(3) 国会

1	かなり信頼できる	14(1.5%)	4	ほとんど信頼できない	135(14.6%)
2	ある程度信頼できる	190(20.5%)	5	わからない	201(21.7%)
3	あまり信頼できない	375(40.5%)	NA		10(1.1%)

(4) 中央省庁

1	かなり信頼できる	16(1.7%)	4	ほとんど信頼できない	53(5.7%)
2	ある程度信頼できる	278(30.0%)	5	わからない	380(41.1%)
3	あまり信頼できない	188(20.3%)	NA		10(1.1%)

(5) マスコミ

1	かなり信頼できる	9(1.0%)	4	ほとんど信頼できない	184(19.9%)
2	ある程度信頼できる	227(24.5%)	5	わからない	142(15.4%)
3	あまり信頼できない	355(38.4%)	NA		8(0.9%)

Q8 あなたは選挙での投票について、次の中のどれに近い考えをお持ちですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1	投票することは国民の義務である	279(30.2%)
2	投票することは国民の権利であるが、棄権すべきではない	352(38.1%)
3	投票する、しないは個人の自由である	262(28.3%)
4	わからない	31(3.4%)
	NA	1(0.1%)

Q9 最近の選挙では、投票率が低下してきていますが、あなたはこのことについて、どのようにお考えですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1	投票するしないは個人の自由なので、別にかまわないと思う	109(11.8%)
2	自分たちの代表を選ぶ選挙だから好ましくはないが、やむをえないと思う	293(31.7%)
3	投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講ずるべきだと思う	469(50.7%)
4	わからない	53(5.7%)
	NA	1(0.1%)

Q10 期日前投票をご存知ですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1	知っている	742(80.2%)	2	知らない	180(19.5%)	NA	3(0.3%)
---	-------	------------	---	------	------------	----	---------

Q11 あなたのご両親についてお伺いします。あてはまるものを、すべて選んで番号に○をつけてください。

1	親はテレビのニュース番組をよく見ていた	648(70.1%)	4	親と一緒に投票所に行ったことがある	361(39.0%)
2	親と政治の話をしたことがある	491(53.1%)	5	どれもあてはまらない	53(5.7%)
3	親は投票に行っている	622(67.2%)	NA		4(0.4%)

Q12 あなたは新聞をどのくらい読みますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1	毎日読んでいる	64(6.9%)	4	まったく読まない	} (Q13へ) 427(46.2%)	
2	週に何回か読んでいる	107(11.6%)	5	わからない		14(1.5%)
3	あまり読まない(Q13へ)	311(33.6%)	NA			2(0.2%)

Q12SQ (「毎日」、「週に何回か」と回答した方に)

政治面をどのくらい読みますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1	毎日読んでいる	32(18.7%)	4	まったく読まない	10(5.8%)
2	週に何回か読んでいる	69(40.4%)	5	わからない	2(1.2%)
3	あまり読まない	58(33.9%)	NA		0(0.0%)

Q13 あなたはテレビをどのくらい見ますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1	毎日見ている	}	728(78.7%)	4	まったく見ない	}	(Q14へ)	15(1.6%)
2	週に何回か見ている		103(11.1%)	5	わからない		8(0.9%)	
3	あまり見ない(Q14へ)		57(6.2%)	NA	14(1.5%)			

Q13SQ (「毎日」「週に何回か」と回答した方に)

ニュース番組をどのくらい見ますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1	毎日見ている	579(69.7%)	4	まったく見ない	9(1.1%)
2	週に何回か見ている	188(22.6%)	5	わからない	2(0.2%)
3	あまり見ない	45(5.4%)	NA	8(1.0%)	

Q14 あなたはインターネットをどのくらい使っていますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1	毎日使う	}	540(58.4%)	4	まったく使わない	}	(Q15へ)	28(3.0%)
2	週に何回か使う		223(24.1%)	5	わからない		13(1.4%)	
3	あまり使わない(Q15へ)		109(11.8%)	NA	12(1.3%)			

Q14SQ1 (「毎日」「週に何回か」と回答した方に)

ニュースサイトをどのくらい見ますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1	毎日見ている	151(19.8%)	4	まったく見ない	106(13.9%)
2	週に何回か見ている	253(33.2%)	5	わからない	2(0.3%)
3	あまり見ない	246(32.2%)	NA	5(0.7%)	

Q15 あなたは、18歳になったら投票に行きますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1 行く (Q15SQ1へ) 526(56.9%)	2 行かない (Q15SQ2へ) 70(7.6%)	3 わからない(Q16へ) 311(33.6%)	NA 18(1.9%)
---------------------------	---------------------------	--------------------------	-------------

Q15SQ1 (Q15で「行く」と回答した方に)

なぜ投票に行こうと思ったのですか。あなたの考えに近い番号を1つ選んで番号に○をつけてください。

1 国民の権利であるから 119(22.6%)	5 国民として投票するべきだと思うから 244(46.4%)
2 投票することで政治がよくなると思うから 48(9.1%)	6 選挙権年齢18歳引き下げの報道を見て 35(6.7%)
3 政治や政治家に関心があるから 29(5.5%)	7 なんとなく 35(6.7%)
4 支持する候補者・政党があるから 5(1.0%)	8 その他() 8(1.5%)
	NA 3(0.6%)

Q15SQ2 (Q15で「行かない」と回答した方に)

なぜ投票に行こうと思わないのですか。あなたの考えに近い番号を1つ選んで番号に○をつけてください。

1 政治のことがあまりわからないから 19(27.1%)	5 支持する候補者・政党がないから 14(20.0%)
2 投票しても政治がよくなると思っていないから 12(17.1%)	6 自分には関係のないことだから 2(2.9%)
3 政治や政治家を信じていないから 8(11.4%)	7 なんとなく 4(5.7%)
4 政治に関心や興味を持っていないから 8(11.4%)	8 その他() 3(4.3%)
	NA 0(0.0%)

Q16 あなたは、選挙権年齢が「18歳以上」に引き下げられたことに賛成ですか、反対ですか。

次の中から1つ選んでください。

1 賛成 (Q16SQ1へ) 423(45.7%)	2 反対 (Q16SQ2へ) 186(20.1%)	3 わからない(Q17へ) 297(32.1%)	NA 19(2.1%)
---------------------------	---------------------------	--------------------------	-------------

Q16SQ1 (Q16で「賛成」と回答した方に)

なぜ賛成なのですか。あなたの考えに近い番号を1つ選んで番号に○をつけてください。

1 少子高齢化の中で若者の意見をより反映させることができるから 121(28.6%)	5 世界のほとんどの国は18歳から選挙権を与えているから 31(7.3%)
2 若いうちから政治について考えた方がよいから 122(28.8%)	6 10代でも社会人として納税している人もいるから 10(2.4%)
3 若者の政治への関心を高めるために有効と思うから 94(22.2%)	7 その他() 16(3.8%)
4 政治家が若者向けの政策を掲げるようになるから 22(5.2%)	8 わからない 3(0.7%)
	NA 4(0.9%)

Q16SQ2 (Q16で「反対」と回答した方に)

なぜ反対なのですか。あなたの考えに近い番号を1つ選んで番号に○をつけてください。

1 面白半分に、または適当に投票する人が増えるから 55(29.6%)	5 メディアやネット情報に左右されやすい年代に 24(12.9%)
2 まずは20歳代の投票率を向上させる方が先だから 19(10.2%)	6 18歳以上に引き下げても、若い人の意見は政治に 7(3.8%)
3 18歳の時点では世の中のことが理解できていないから 60(32.3%)	7 その他() 7(3.8%)
4 受験勉強やアルバイトなどで忙しく投票に行けないと思うから 9(4.8%)	8 わからない 0(0.0%)
	NA 5(2.7%)

Q17 あなたは、高校生が政治や選挙に関心を持つためには、何をすればよいと思いますか。あなたの考えに近い番号を2つまで選んで○をつけてください。

1	学校で政治や選挙に関する新聞記事を使った授業を受ける	317(34.3%)
2	学校で政治や選挙に関するディベートや話し合いを行う	234(25.3%)
3	学校で選挙管理委員会の職員などから選挙の話の聞いたり、模擬選挙を体験する	156(16.9%)
4	選挙時に、投票所で受付などの事務を体験したり、又は街頭で投票への参加を呼びかける啓発キャンペーンに参加する	90(9.7%)
5	開会中の議会を傍聴しに行く	213(23.0%)
6	本物の議場で生徒が市長に質問する高校生議会を開催する	85(9.2%)
7	政党の関係者に来てもらって政治の話を聞く	153(16.5%)
8	その他()	36(3.9%)
9	わからない	150(16.2%)
	NA	26(2.8%)

Q18 あなたは、どのような環境であれば投票しやすいと感じますか。あなたの考えに近い番号を2つまで選んで○をつけてください。

1	自分の通う学校で投票できる	421(45.5%)	5	郵便で投票できる	65(7.0%)
2	自分がよく行く施設や場所で投票できる	259(28.0%)	6	パソコンやスマートフォンから投票できる	529(57.2%)
3	どこの投票所でも投票できる	134(14.5%)	7	その他()	6(0.6%)
4	朝早くから深夜まで投票できる投票所である	143(15.5%)	8	わからない	32(3.5%)
				NA	14(1.5%)

Q19 あなたがよく行く施設や場所はどこですか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

1	大型ショッピングセンター	431(46.6%)	5	映画館やテーマパークなどの娯楽施設	112(12.1%)
2	コンビニエンスストア	641(69.3%)	6	予備校や学習塾	153(16.5%)
3	ファーストフード店	154(16.6%)	7	その他()	19(2.1%)
4	図書館やコミュニティセンターなどの公共施設	65(7.0%)	8	わからない	31(3.4%)
				NA	19(2.1%)

F1 あなたは男性ですか、女性ですか。

1	男性	373(40.3%)	2	女性	552(59.7%)
---	----	------------	---	----	------------

F2 あなたは、何年生ですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1	1年生	313(33.8%)	2	2年生	312(33.7%)	3	3年生	300(32.4%)
---	-----	------------	---	-----	------------	---	-----	------------

F3 あなたはさいたま市に住んで何年になりますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1	生まれてからずっと	289(31.2%)	3	3年～9年	80(8.6%)	5	さいたま市外に住んでいる	402(43.5%)
2	10年以上	143(15.5%)	4	2年以内	11(1.2%)			

F4 さいたま市は、様々な施策に取り組んでいますが、あなたが特に力を入れて欲しいと思う施策の分野はどれですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1	環境・アメニティの分野 〔温暖化対策、生活環境、ごみ・リサイクル、自然環境、景観・美化〕	157(17.0%)
2	健康・福祉の分野 〔子育て支援、高齢者福祉、障害者福祉、地域医療、バリアフリー、食品・生活〕	155(16.8%)
3	教育・文化・スポーツの分野 〔学校教育、青少年、生涯学習、スポーツ、地域文化〕	220(23.8%)
4	都市基盤・交通の分野 〔公園、ICT(情報通信技術)、市街地整備、道路・輸送〕	97(10.5%)
5	産業・経済の分野 〔中小企業、新たな産業、シティセールス、起業・創業〕	62(6.7%)
6	安全・生活基盤の分野 〔防災、事故・防犯、上下水道〕	144(15.6%)
7	交流・コミュニティの分野 〔男女共同参画、コミュニティ、国際交流〕	44(4.8%)
	NA	46(5.0%)



長い時間ご協力いただきまして、
ありがとうございました。

2. 自由意見の具体的記述

Q3. あなたは、今関心をもっている政治的な問題はありますか。あれば具体的にお書きください。

- ・ 安全保障、集団的自衛権等に関することについて 265件
例) 安保法案、集団的自衛権、戦争、憲法9条の解釈、PKO など
- ・ 成人年齢引き下げに関することについて 45件
例) 18歳選挙権、酒・タバコ・ギャンブル等についての年齢引き下げへの賛否など
- ・ 外交・国際問題に関することについて 44件
例) 近隣諸国との関係、沖縄の米軍基地、テロ、難民問題など
- ・ 憲法改正について 39件
例) 憲法9条、憲法の改正について
- ・ 経済・消費税について 23件
例) 消費税引き上げ、軽減税率、財政問題、増税、TPP など
- ・ 東京オリンピックについて 19件
例) エンブレム問題、国立競技場の問題など
- ・ マイナンバーについて 13件
- ・ その他国内政治に関することについて 41件
例) 現政権について、野党再編、一票の格差、政権交代、原子力発電所、
強行採決、少子高齢化、環境問題、年金情報流出、ニュース・漫画等の規制、
防災対策、災害復興、男女共同参画、カジノ、汚職等政治不信、道州制、
投票率の低下など

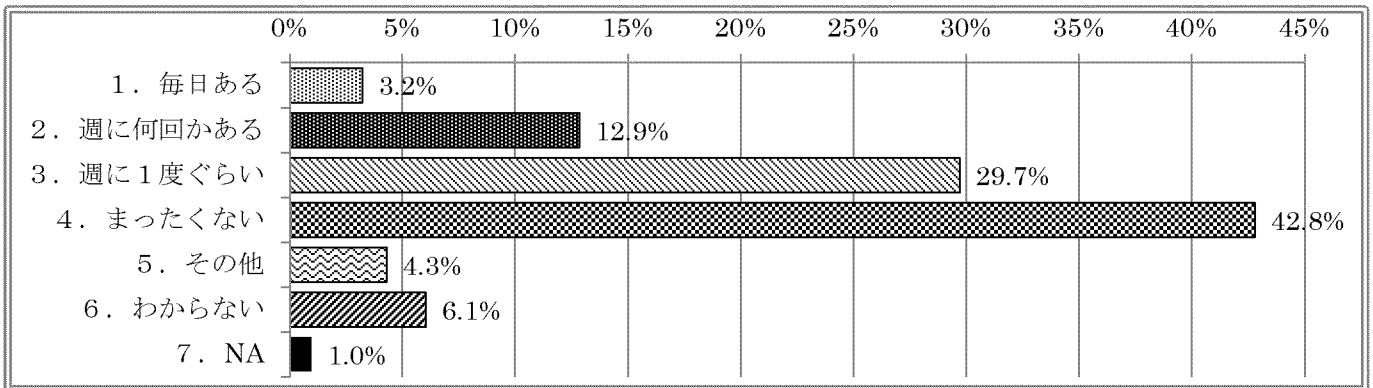
3. 設問ごとの単純集計グラフと学年別集計グラフ

Q 1. 政治的な事柄についての議論・話題の有無	4 5
Q 2. 国や地方の政治への関心	4 6
Q 4. 自分自身の生活と政治との関係	4 7
Q 5. 今の日本の政治を実際に動かしているのは誰か	4 8
Q 6. 今の日本の政治のあり方への満足度	4 9
Q 7. 制度や組織、団体についての信頼度	5 0
Q 8. 投票についての考え方	5 2
Q 9. 投票率の低下についての考え方	5 3
Q 10. 期日前投票を知っているか	5 4
Q 11. 両親について	5 4
Q 12. 新聞をどのくらい読むか	5 5
Q 12 S Q. (「毎日」、「週に何回か」と回答した方に) 政治面を読むか	5 6
Q 13. テレビをどのくらい見るか	5 7
Q 13 S Q. (「毎日」「週に何回か」と回答した方に) ニュース番組を見るか	5 8
Q 14. インターネットをどのくらい使うか	5 9
Q 14 S Q. (「毎日」「週に何回か」と回答した方に) ニュースサイトを見るか。	6 0
Q 15. 18歳になったら投票に行くか	6 1
Q 15 S Q 1. (「行く」と回答した方に) なぜ投票に行こうと思ったのか	6 2
Q 15 S Q 2. (「行かない」と回答した方に) なぜ投票に行こうと思わないのか	6 3
Q 16. 「18歳選挙権」への賛否	6 4
Q 16 S Q 1. (「賛成」と回答した方に) なぜ賛成なのか	6 5
Q 16 S Q 2. (「反対」と回答した方に) なぜ反対なのか	6 6
Q 17. 高校生が政治や選挙に関心を持つために何をすればよいと思うか	6 7
Q 18. 投票しやすい環境	6 7
Q 19. よく行く施設や場所	6 8
F 1. 性別	6 8
F 2. 学年	6 8
F 3. さいたま市での居住年数	6 9
F 4. 力を入れて欲しいと思うさいたま市の施策の分野	6 9

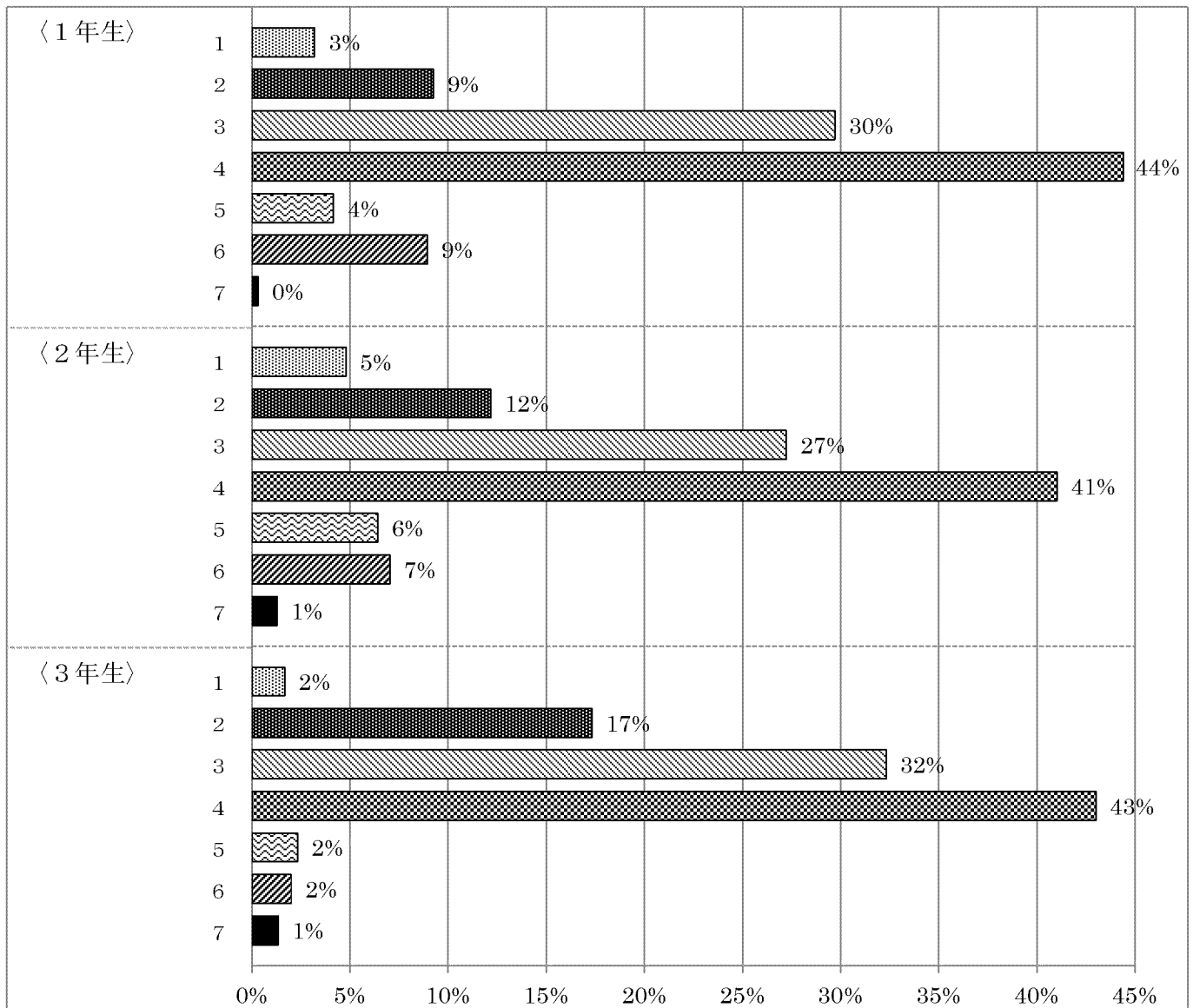
※ 「Q 3. 今関心を持っている政治的な問題」は記述式の設問であるため、グラフ化していません。(回答内容は42ページ「2. 自由意見の具体的記述」に掲載しています)

Q 1. あなたは誰かと政治的な事柄を議論したり、話題にしたりすることがありますか。
1つ選んで番号に○をつけてください。

【全学年】

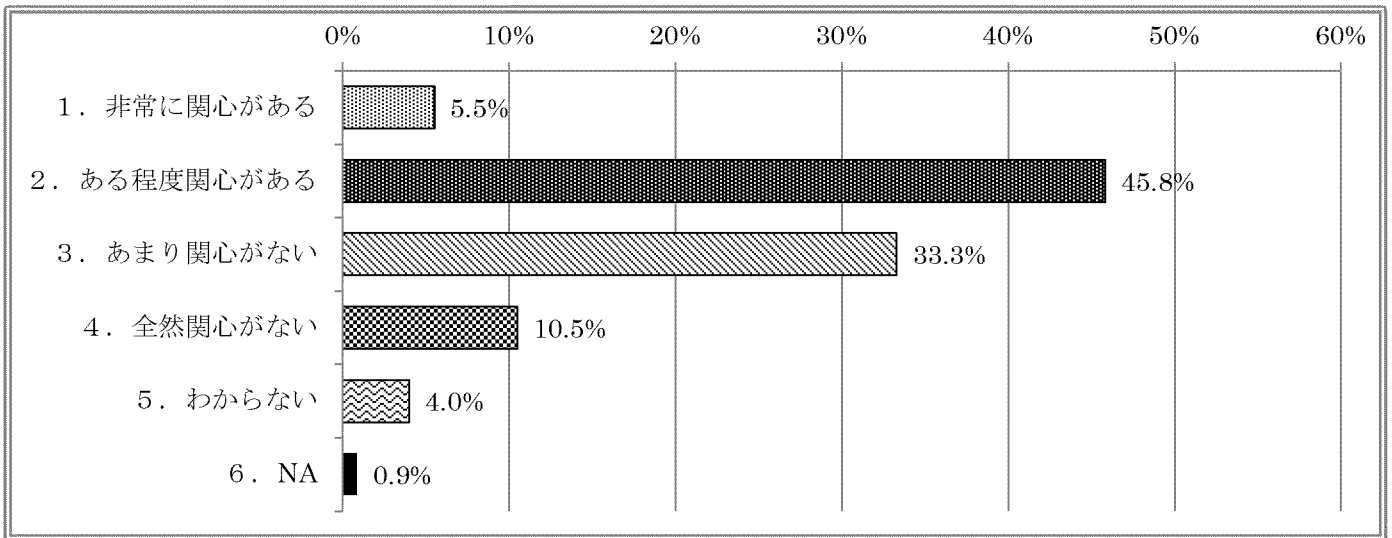


【学年別】

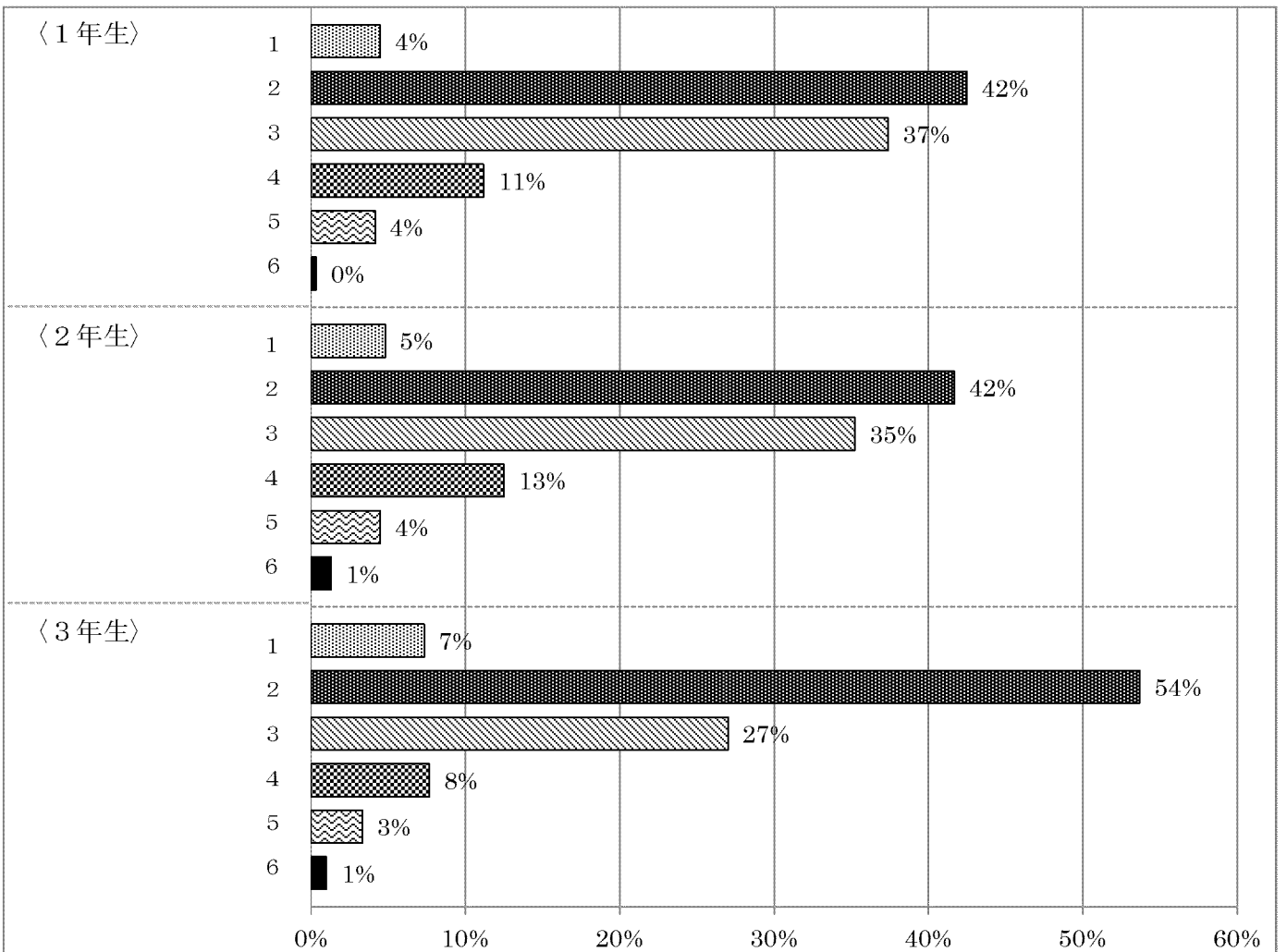


Q2. あなたは国や地方の政治にどの程度関心がありますか。
1つ選んで番号に○をつけてください。

【全学年】

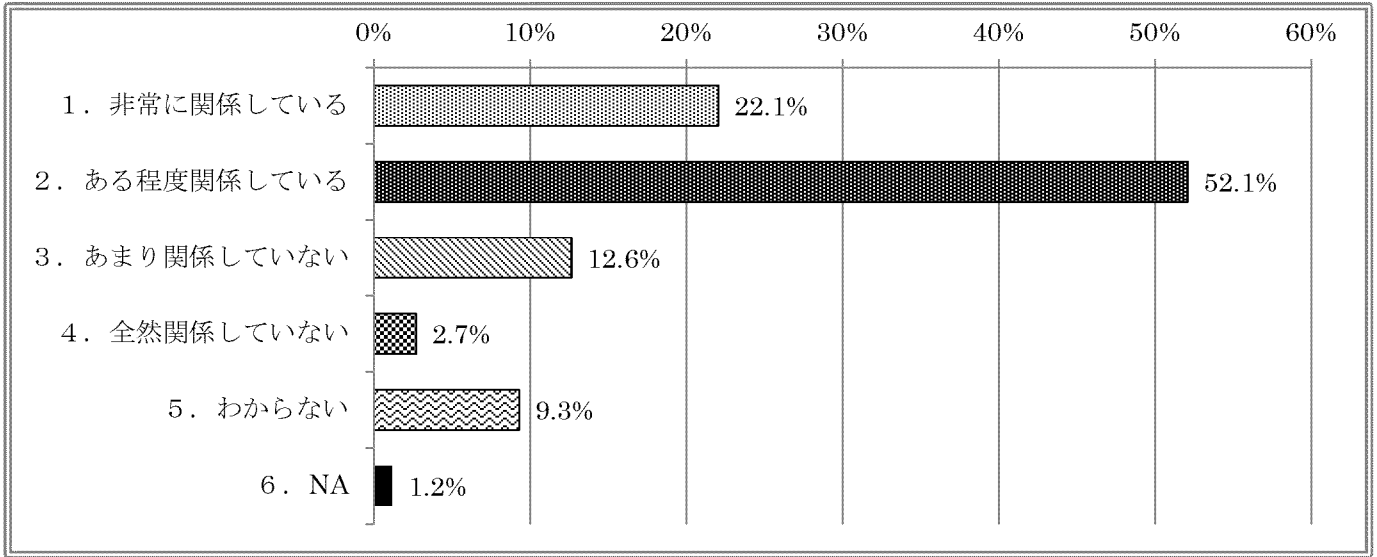


【学年別】

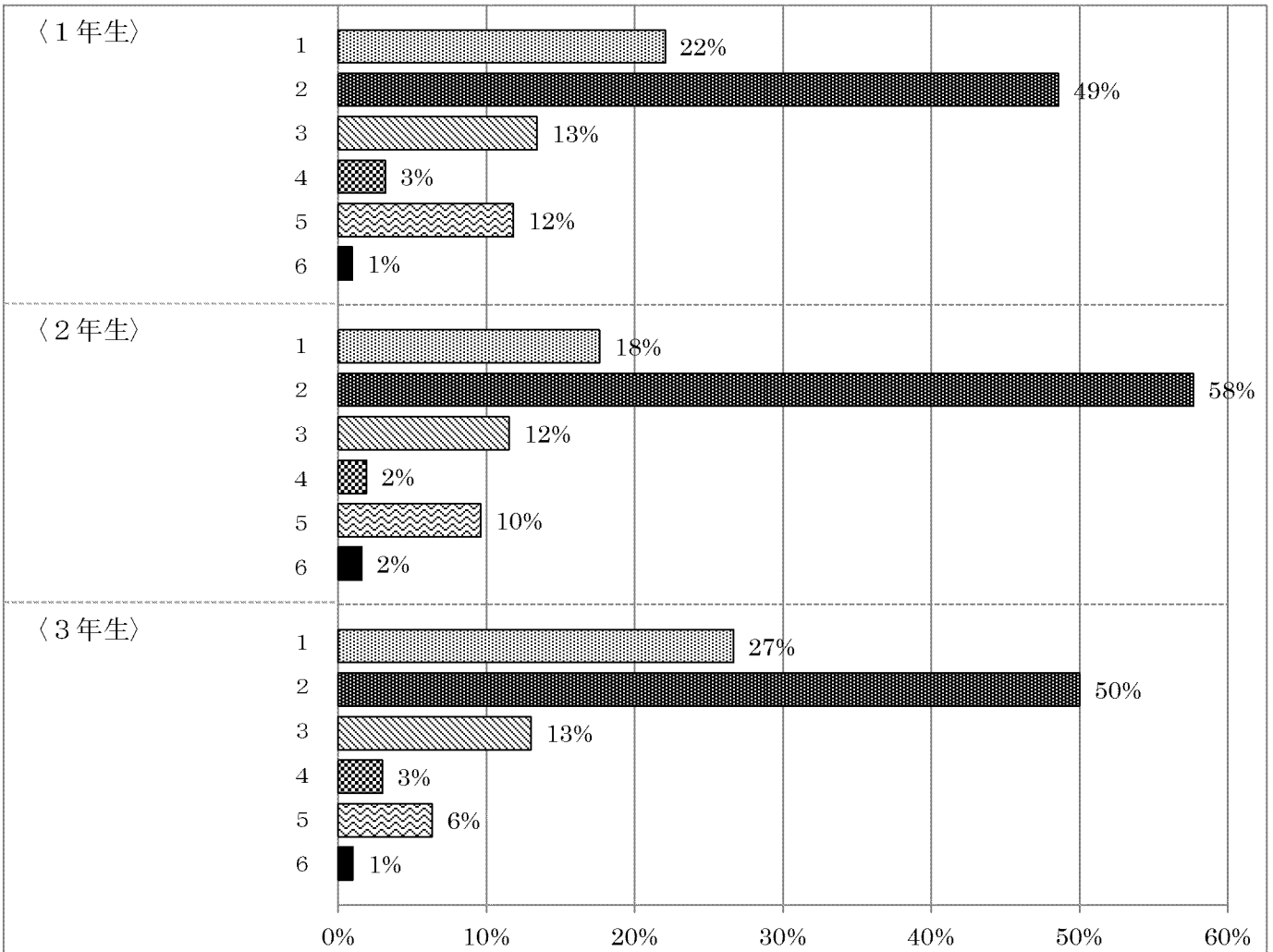


Q 4. あなたは、自分自身の生活と政治がどの程度関係しているとお考えですか。
1つ選んで番号に○をつけてください。

【全学年】

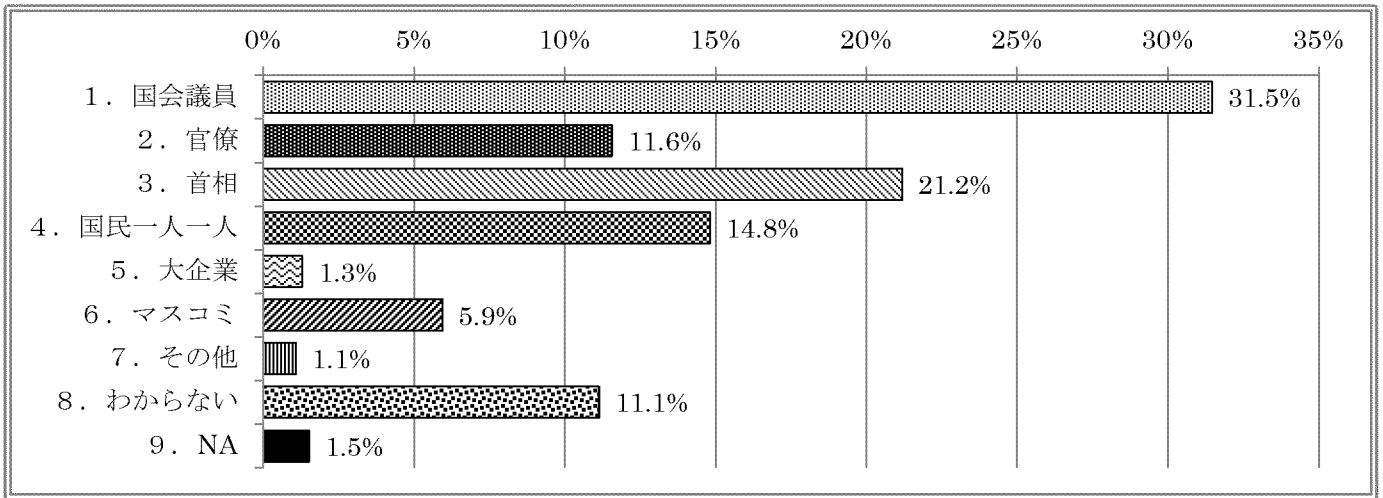


【学年別】

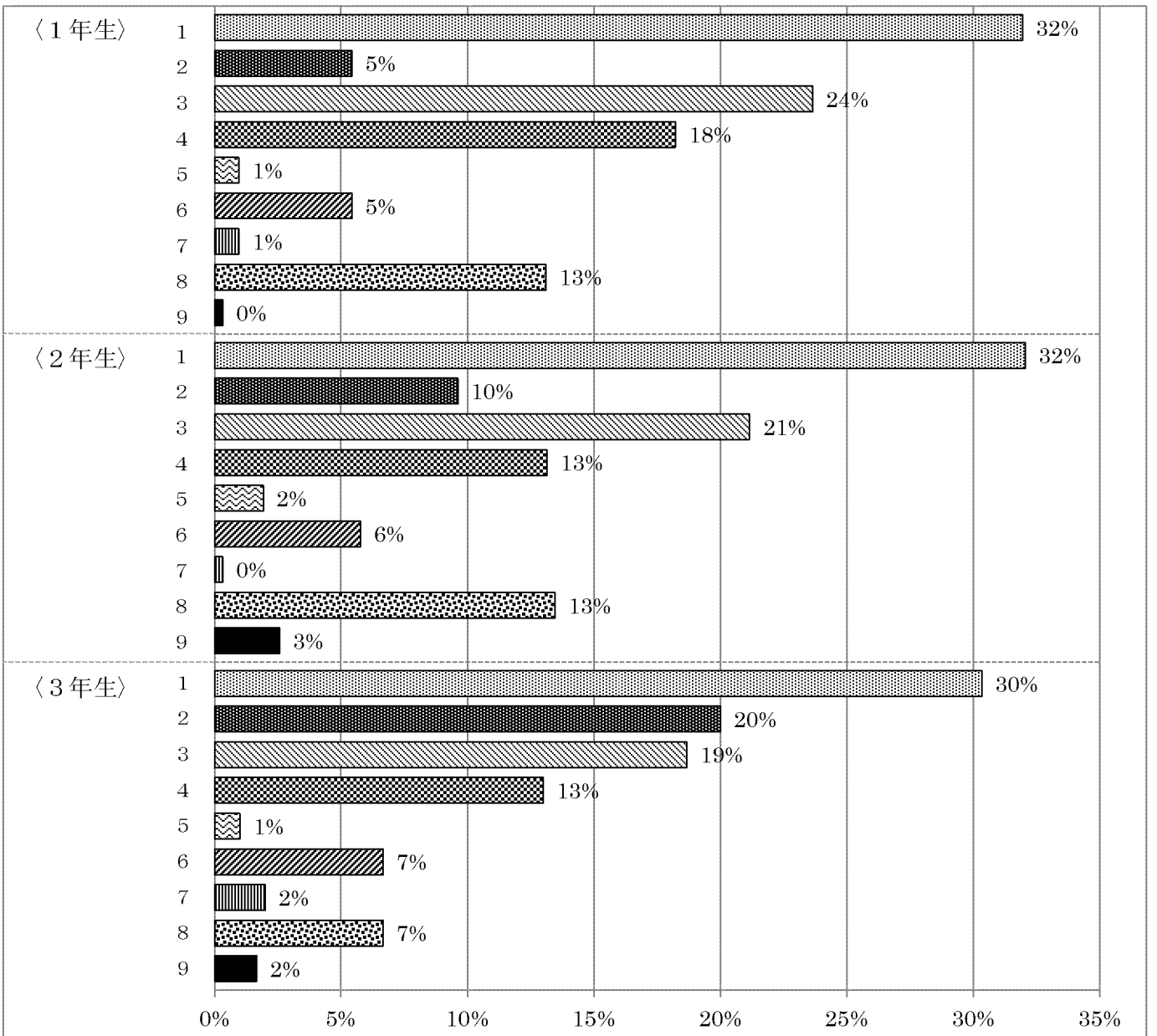


Q 5. 今の日本の政治を実際に動かしているのは誰だと思いますか。
1つ選んで番号に○をつけてください。

【全学年】

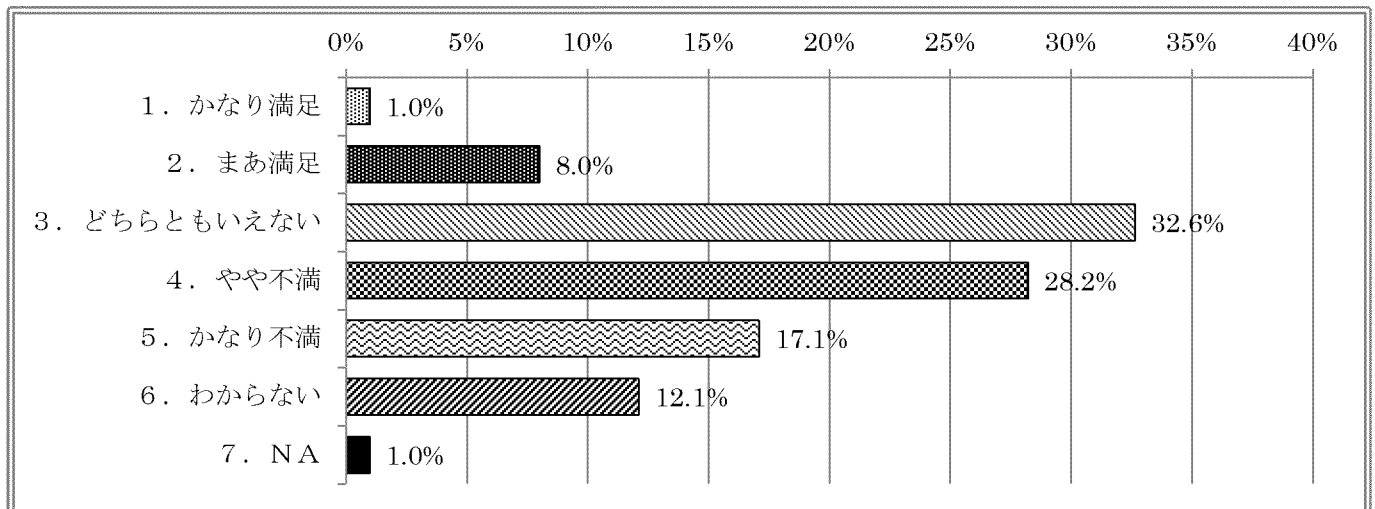


【学年別】

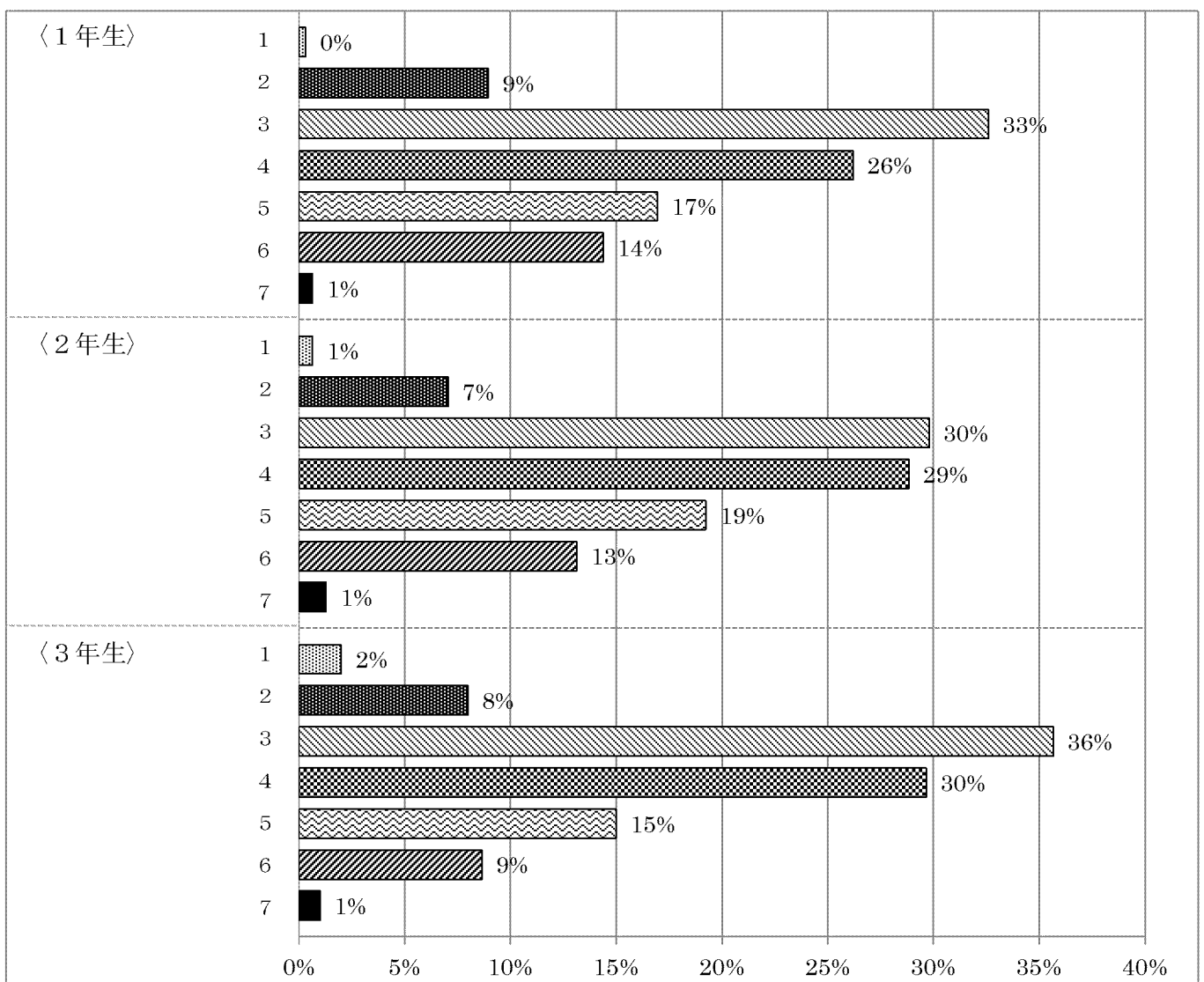


Q6. あなたは、今の日本の政治のあり方にどの程度満足していますか。
1つ選んで番号に○をつけてください。

【全学年】



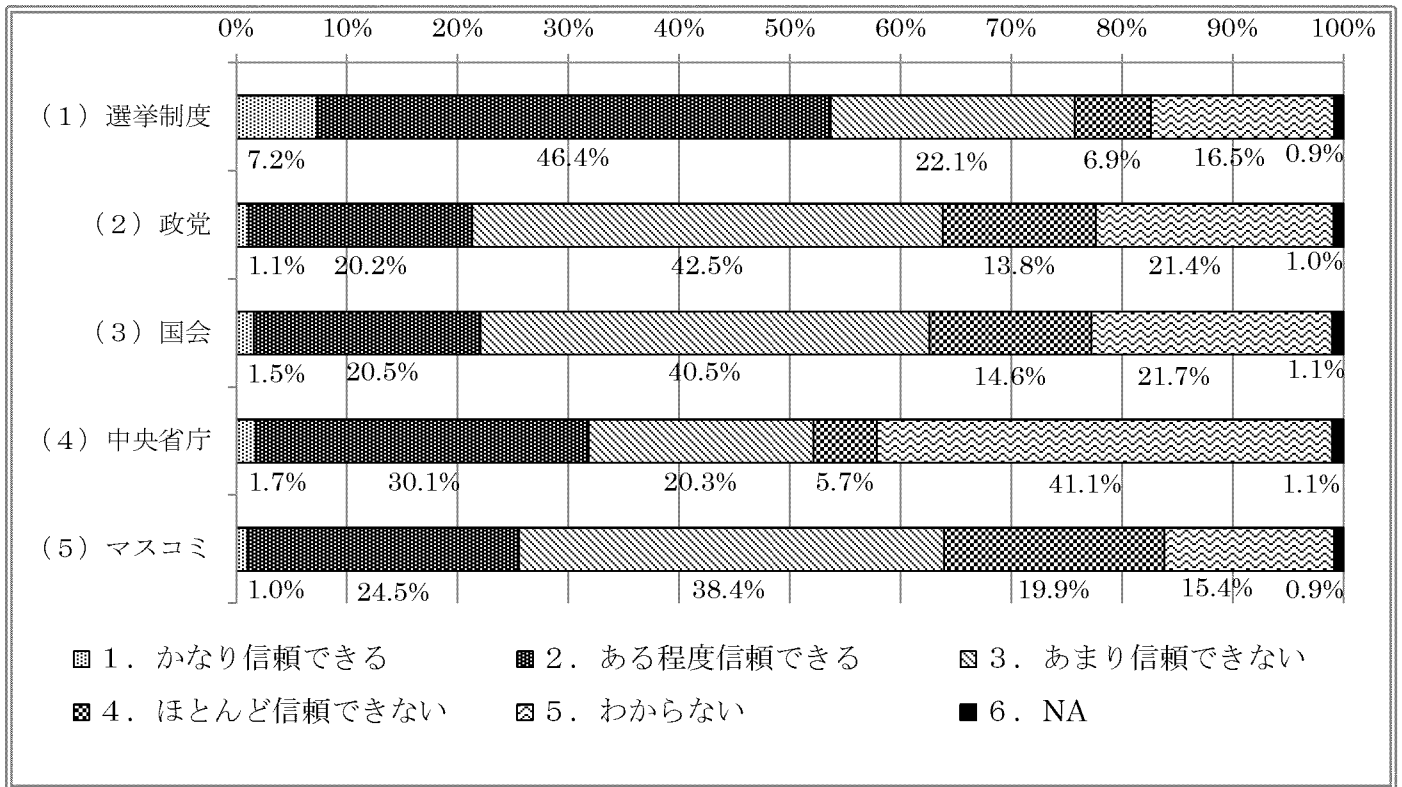
【学年別】



Q7. あなたは、次の制度や組織、団体について、どの程度信頼していますか。

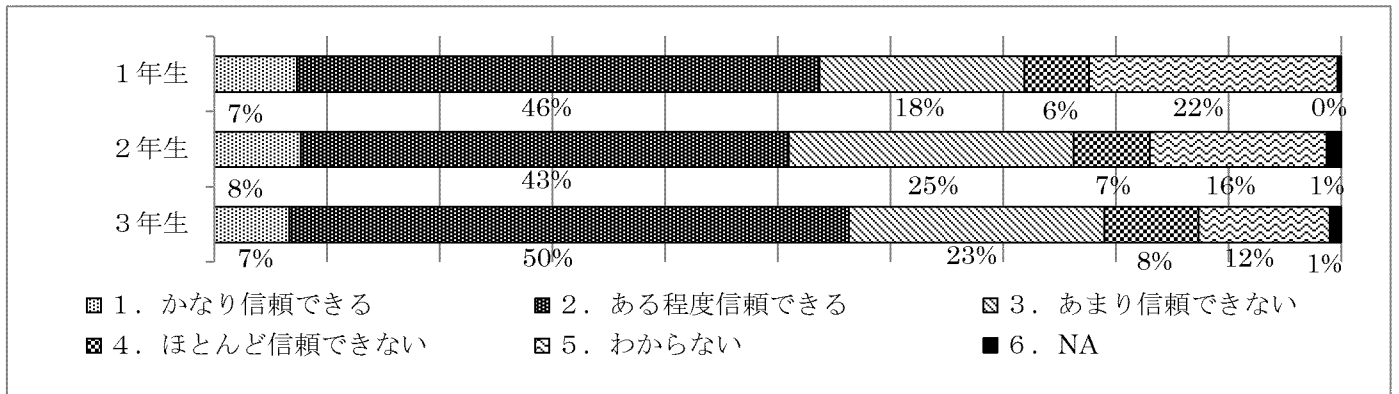
1つ選んで番号に○をつけてください。

【全学年】

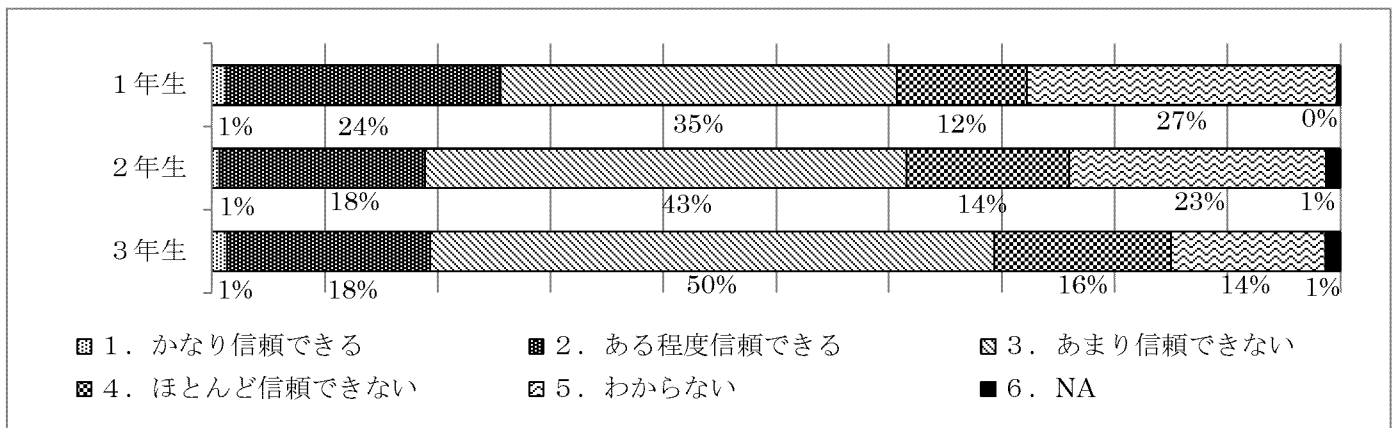


【学年別】

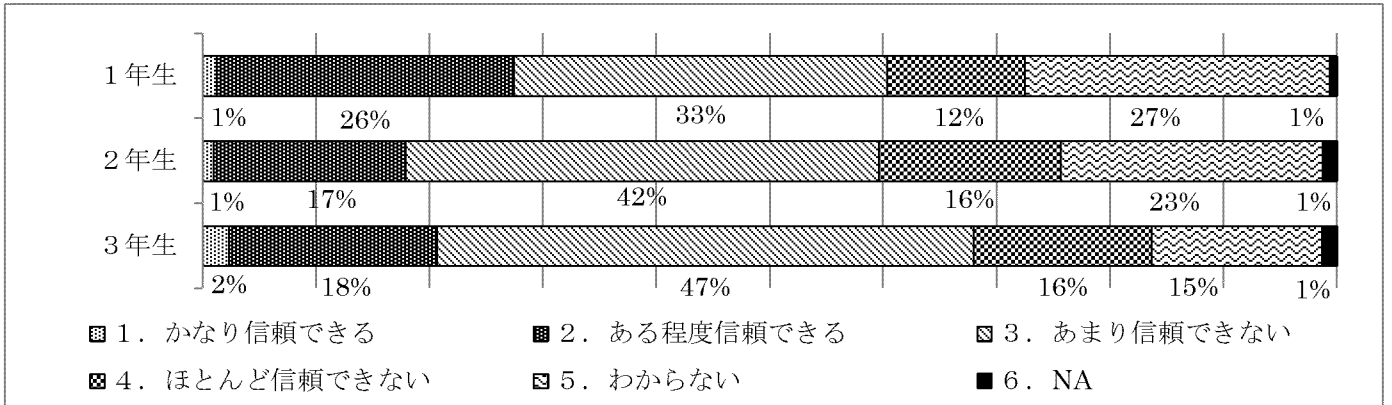
(1) 選挙制度



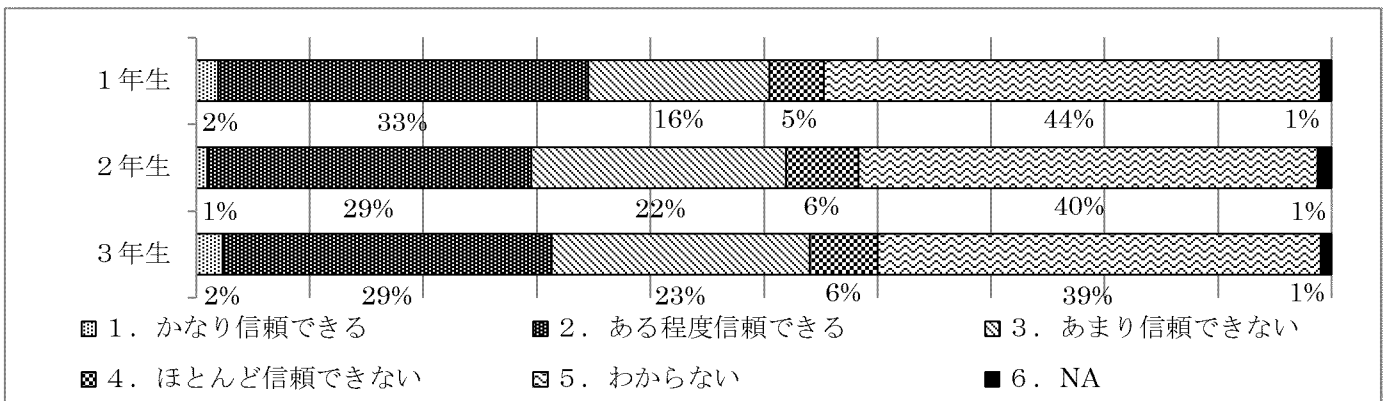
(2) 政党



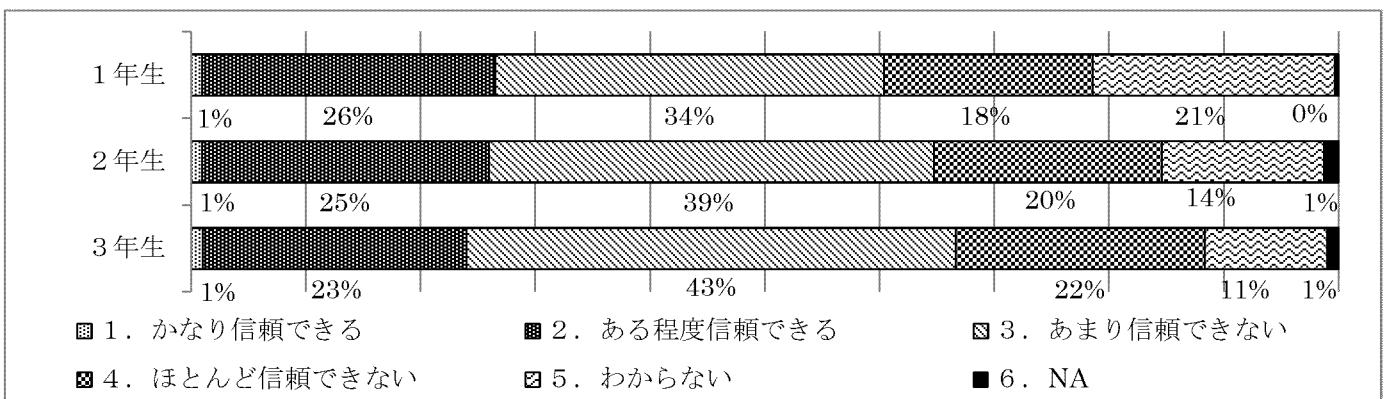
(3) 国会



(4) 中央省庁

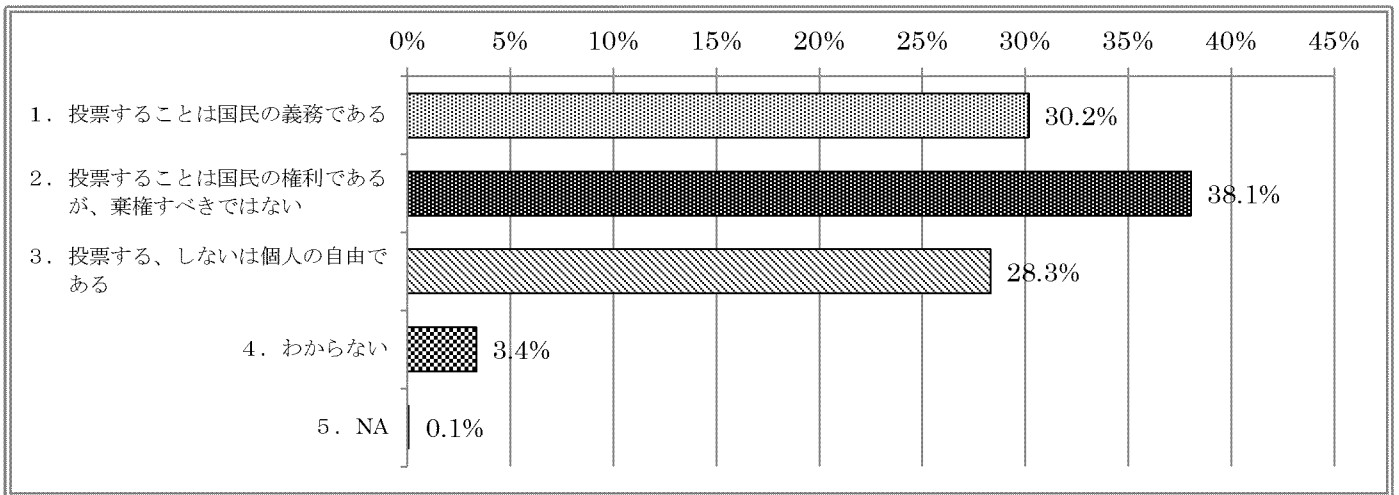


(5) マスコミ

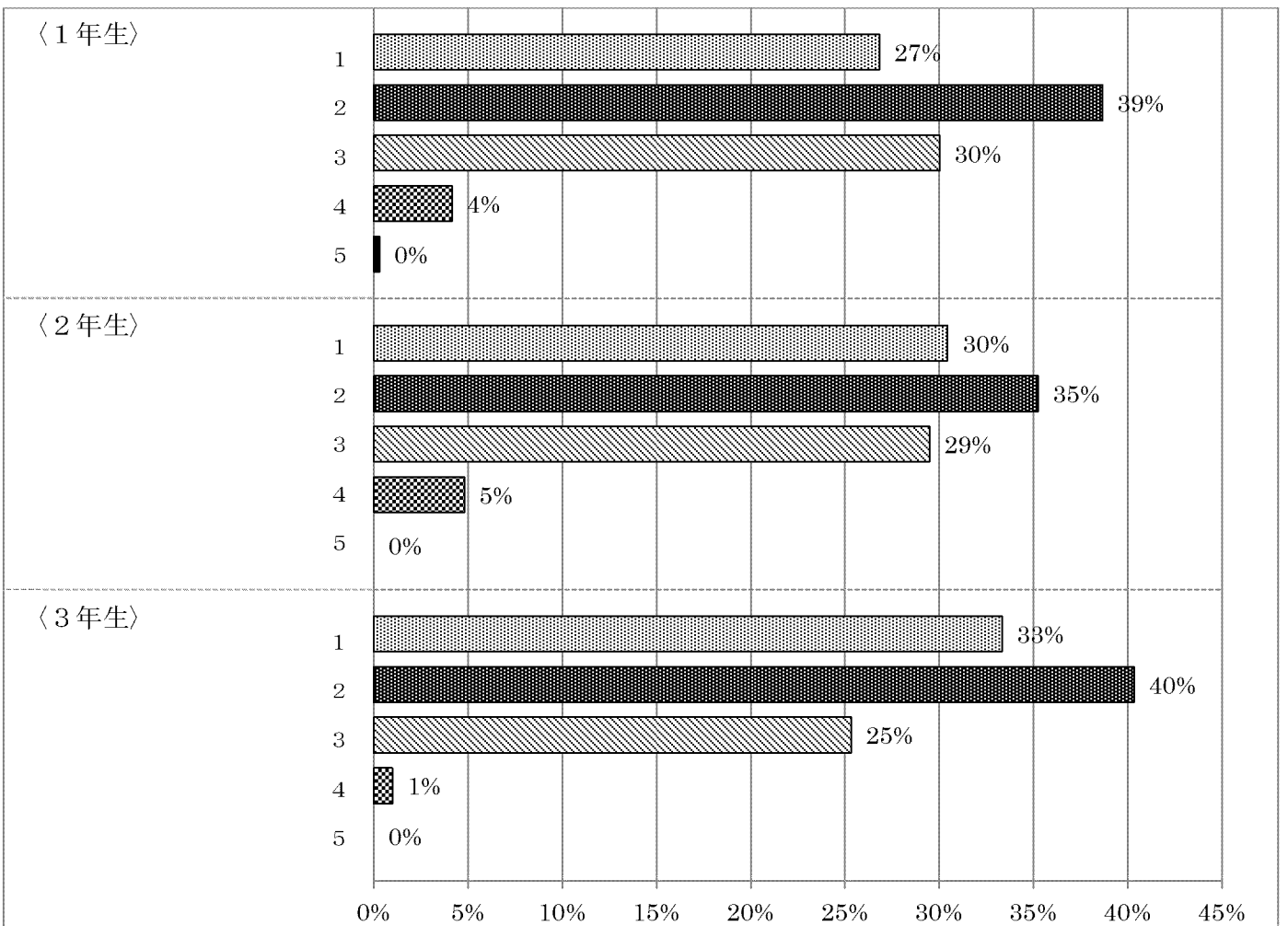


Q8. あなたは選挙での投票について、次の中のどれに近い考えをお持ちですか。
1つ選んで番号に○をつけてください。

【全学年】

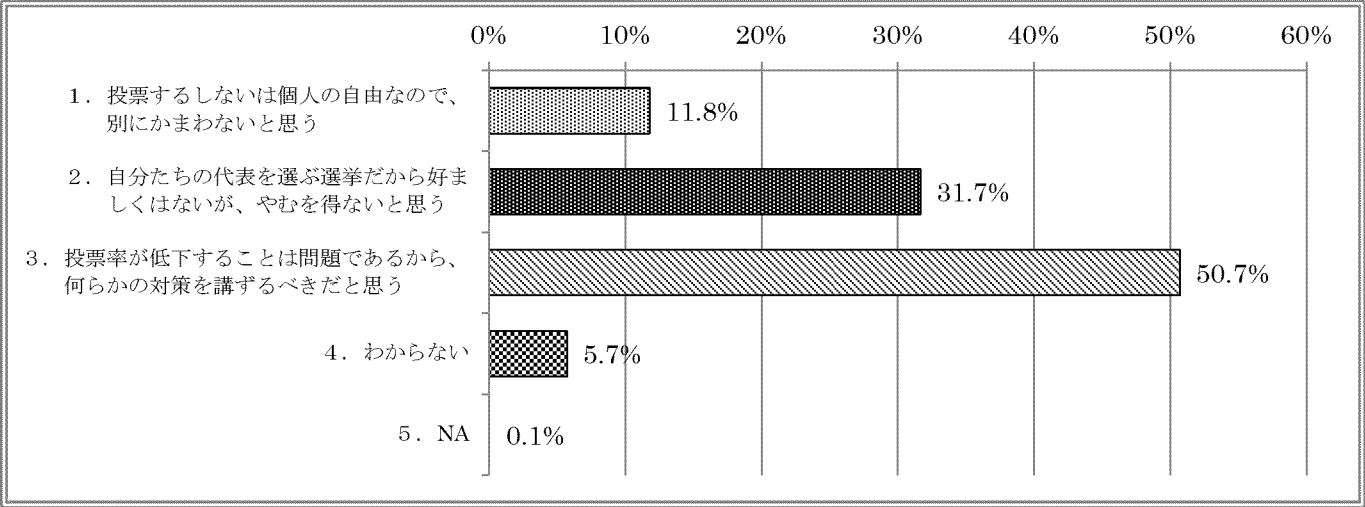


【学年別】

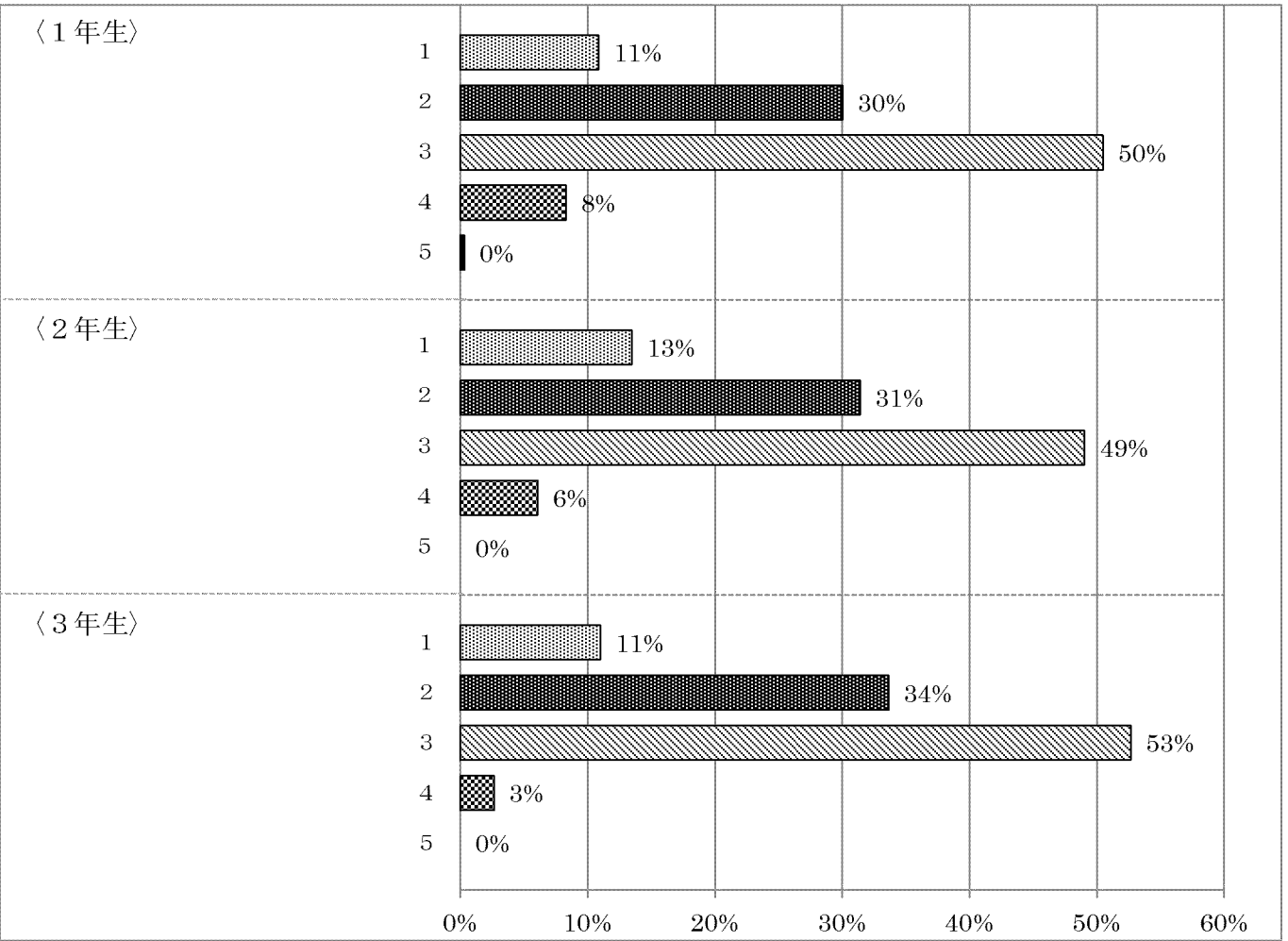


Q9. 最近の選挙では、投票率が低下してきていますが、あなたはこのことについて、どのようにお考えですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

【全学年】

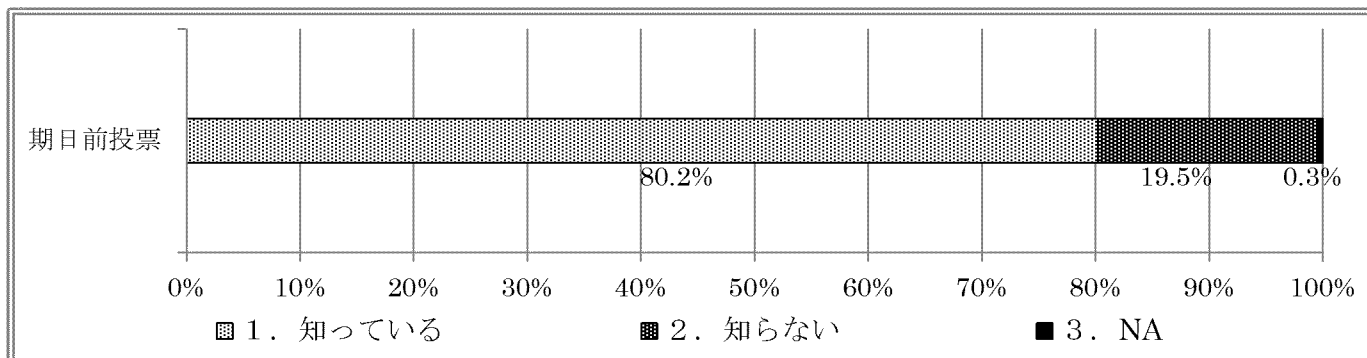


【学年別】

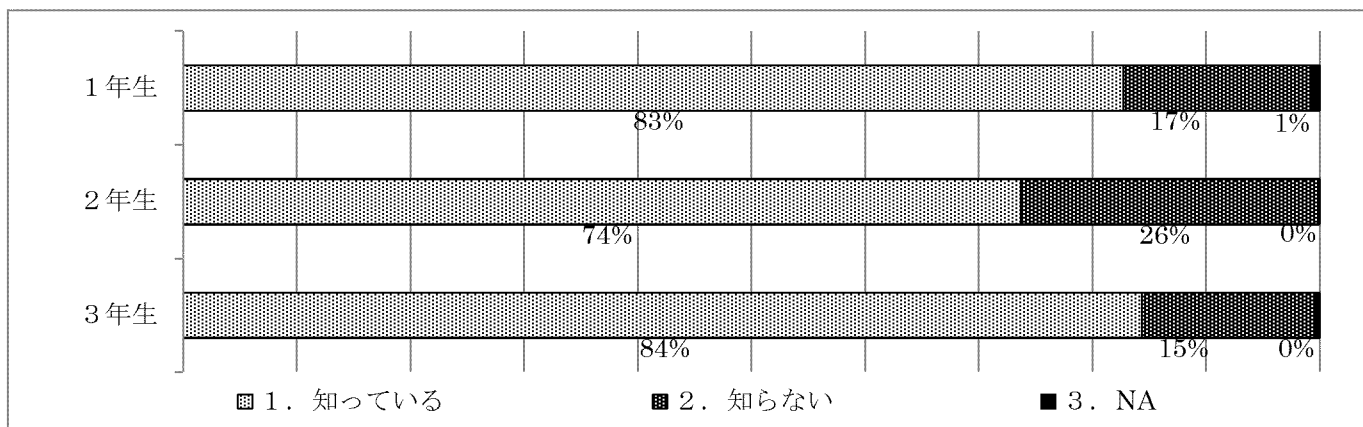


Q10. 期日前投票をご存知ですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

【全学年】

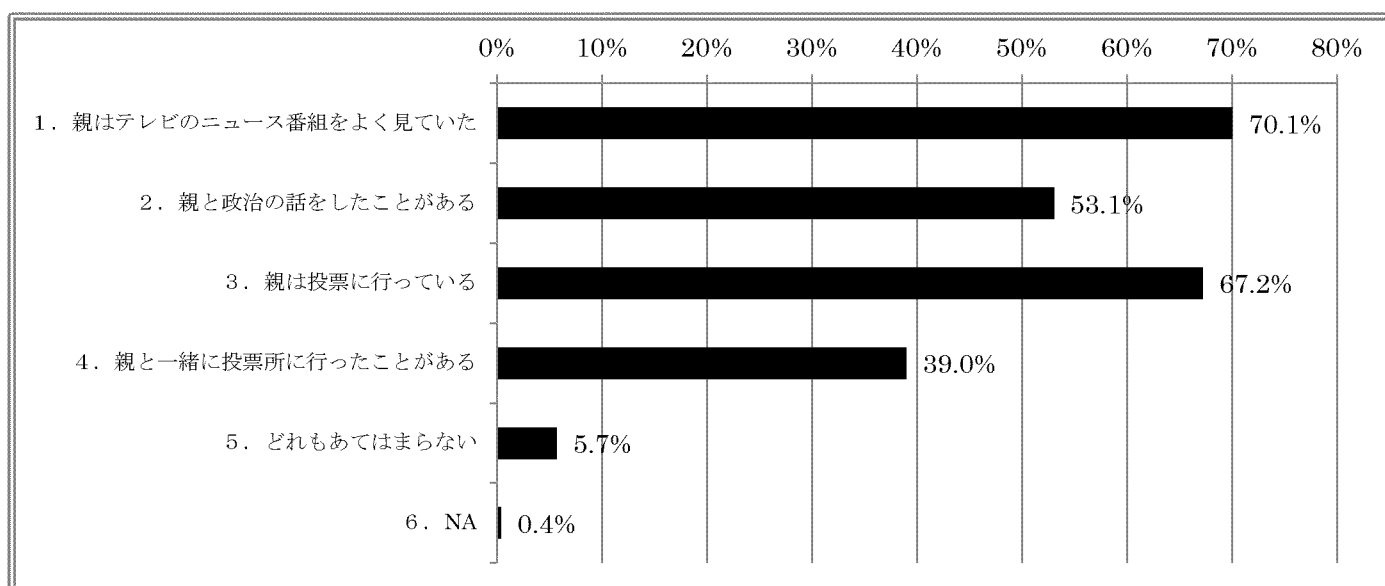


【学年別】



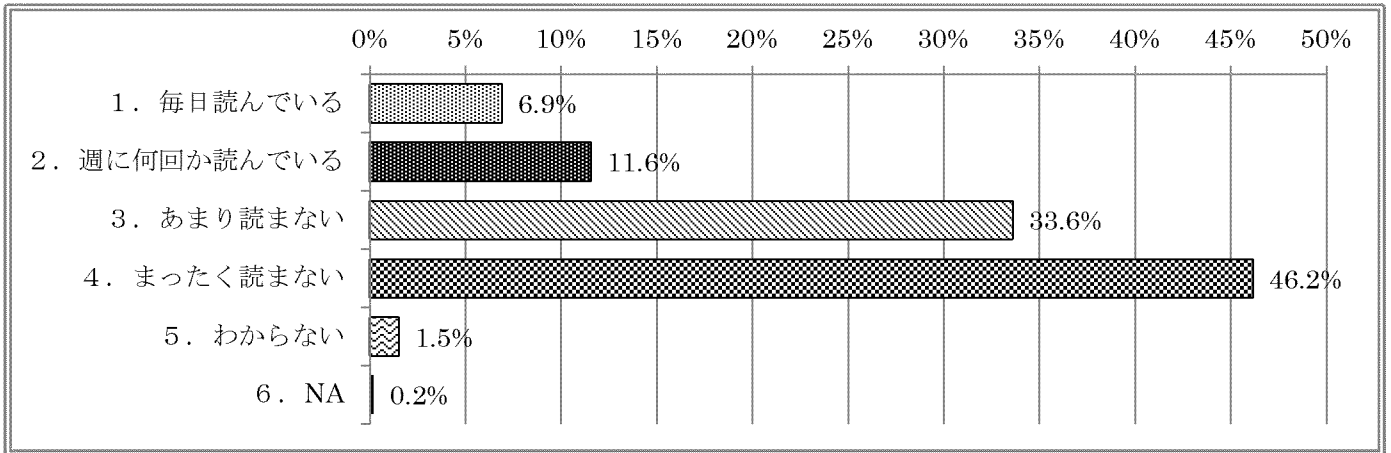
Q11. あなたのご両親についてお伺いします。あてはまるものを、すべて選んで番号に○をつけてください。

※複数回答を求める設問であるため、学年別集計を行いません。

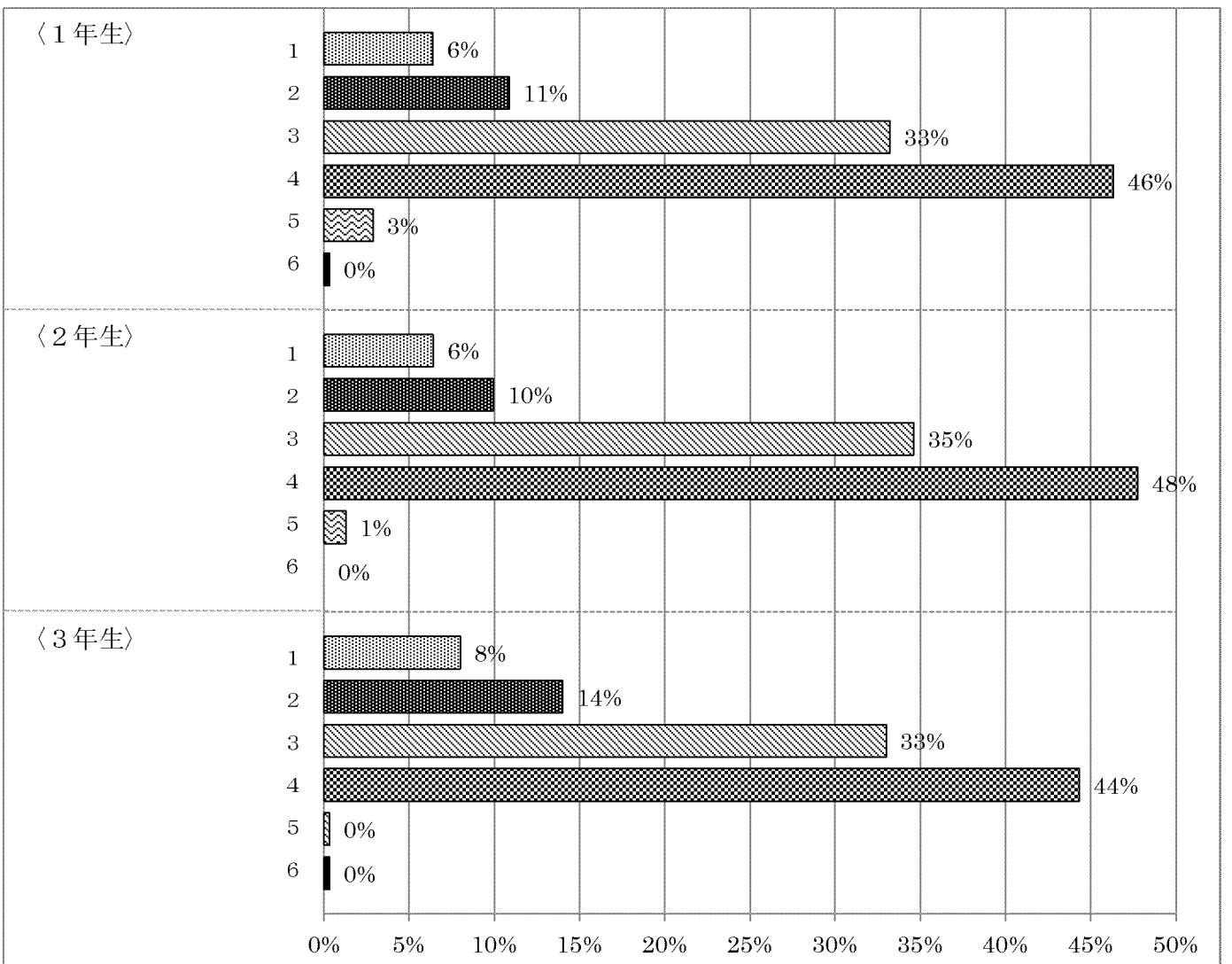


Q 1 2. あなたは新聞をどのくらい読みますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

【全学年】

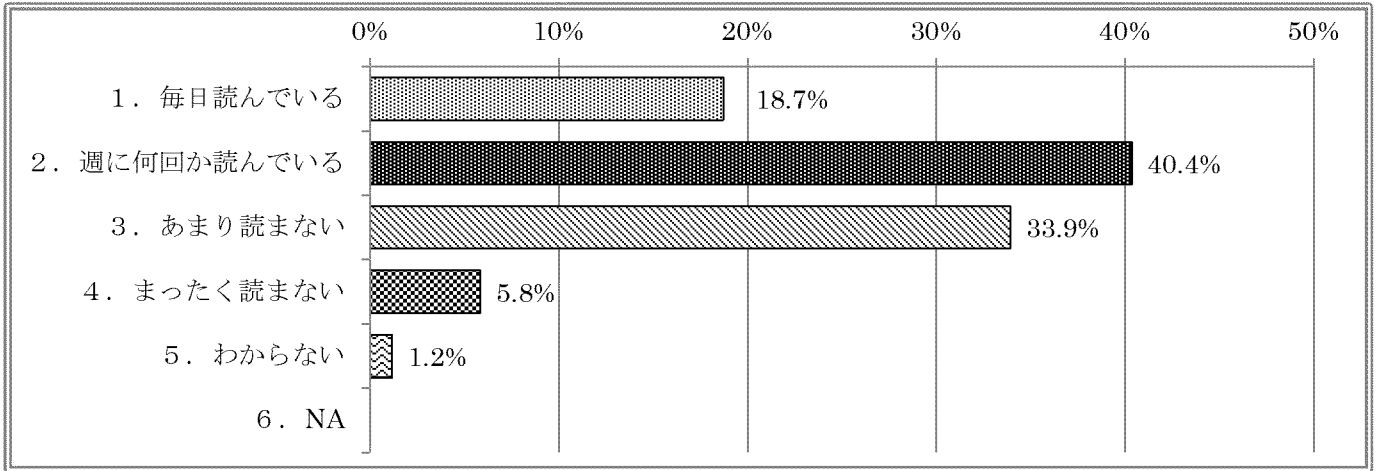


【学年別】

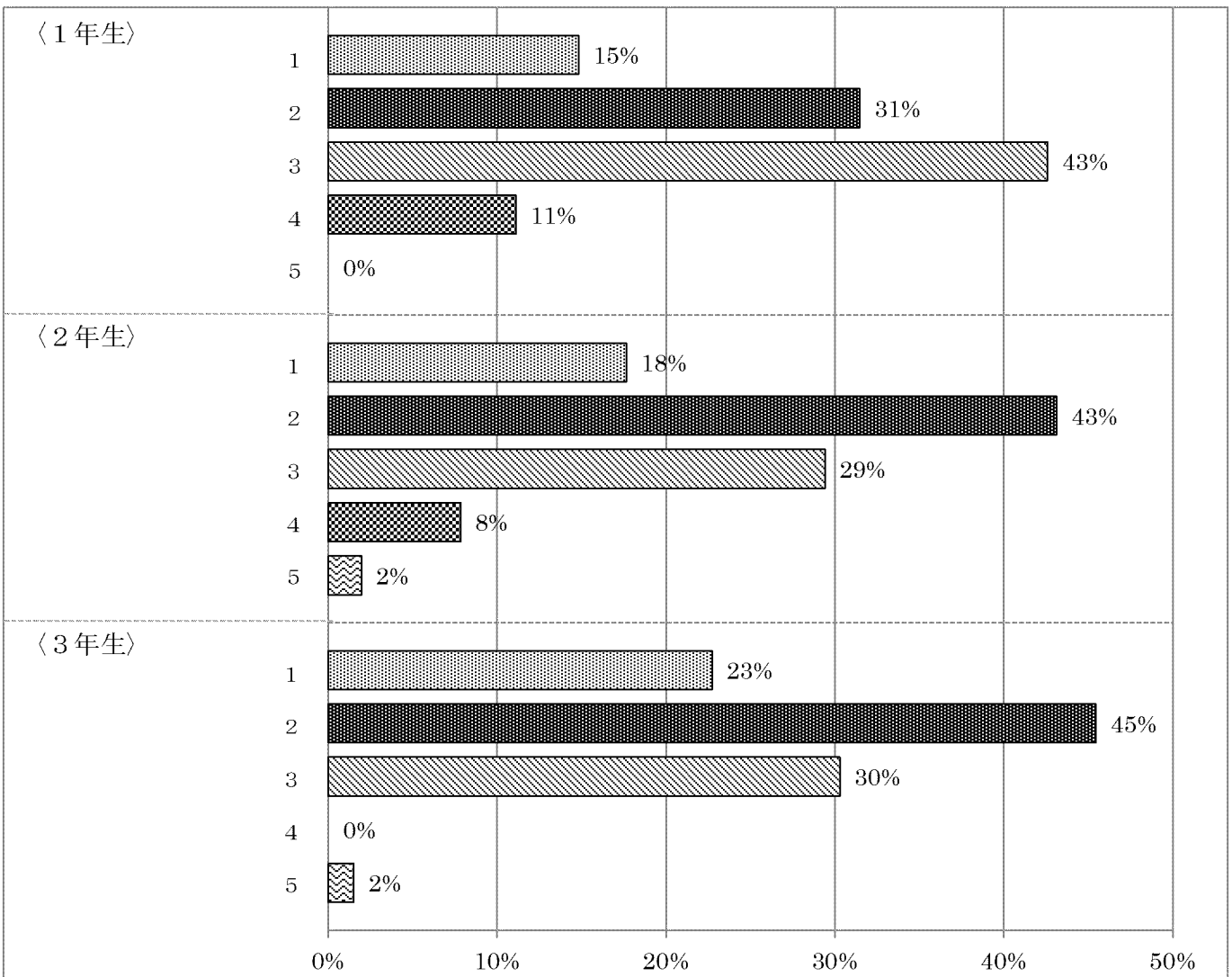


Q12SQ. (Q12で「毎日」、「週に何回か」と回答した方に) 政治面をどのくらい読みますか。
1つ選んで番号に○をつけてください。

【全学年】

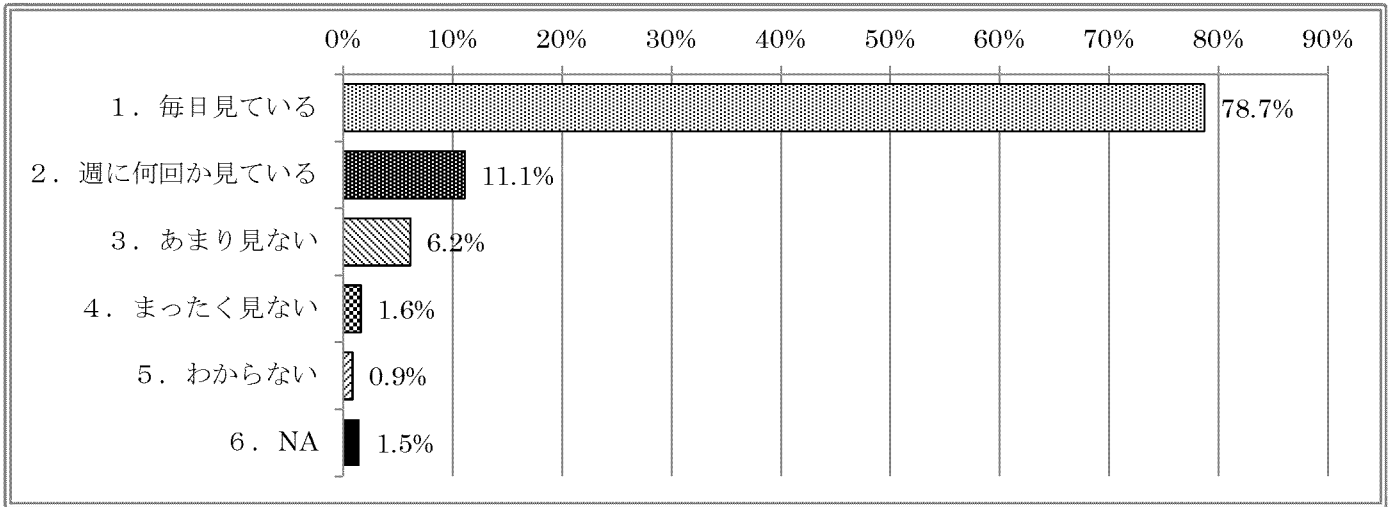


【学年別】

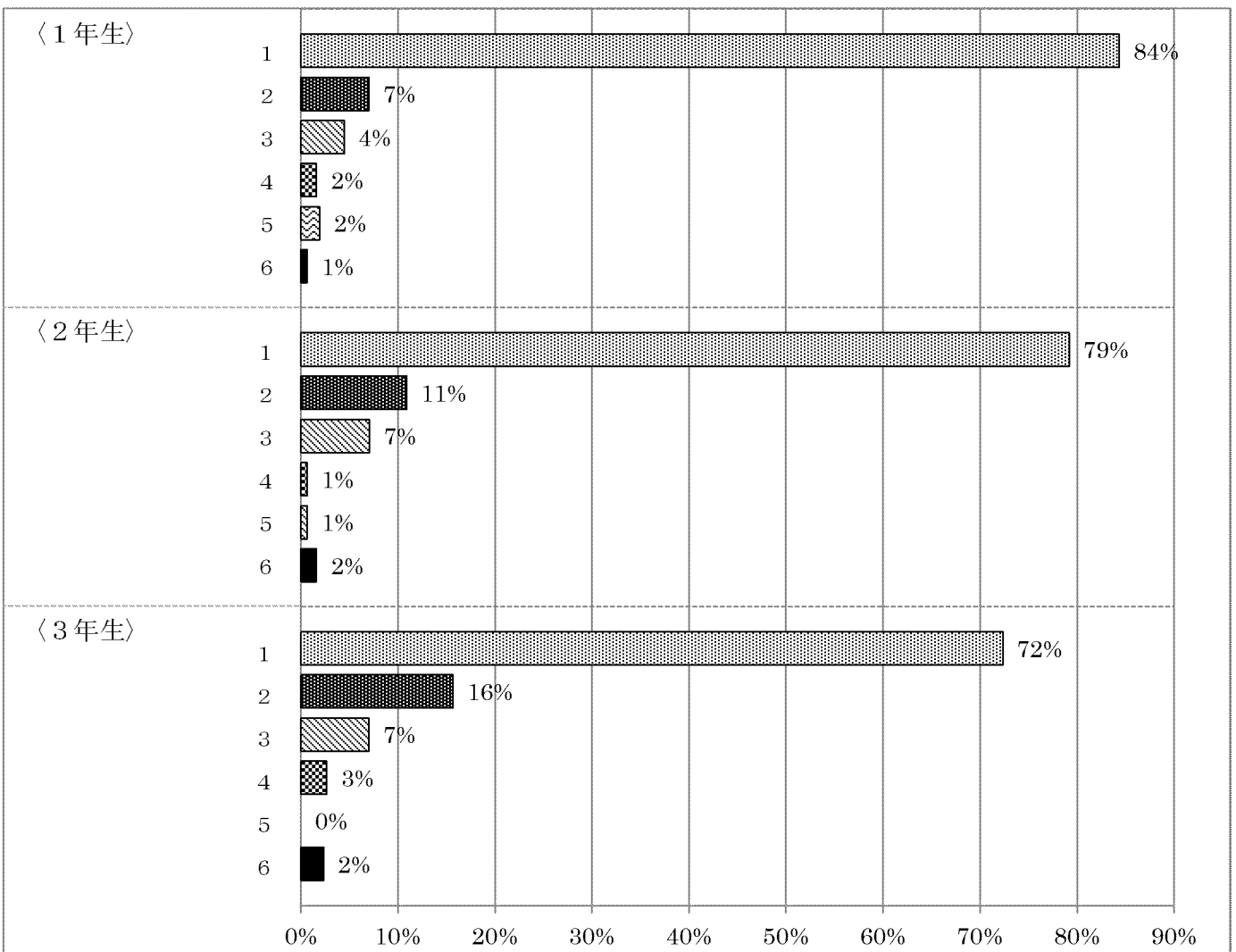


Q13. あなたはテレビをどのくらい見ますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

【全学年】

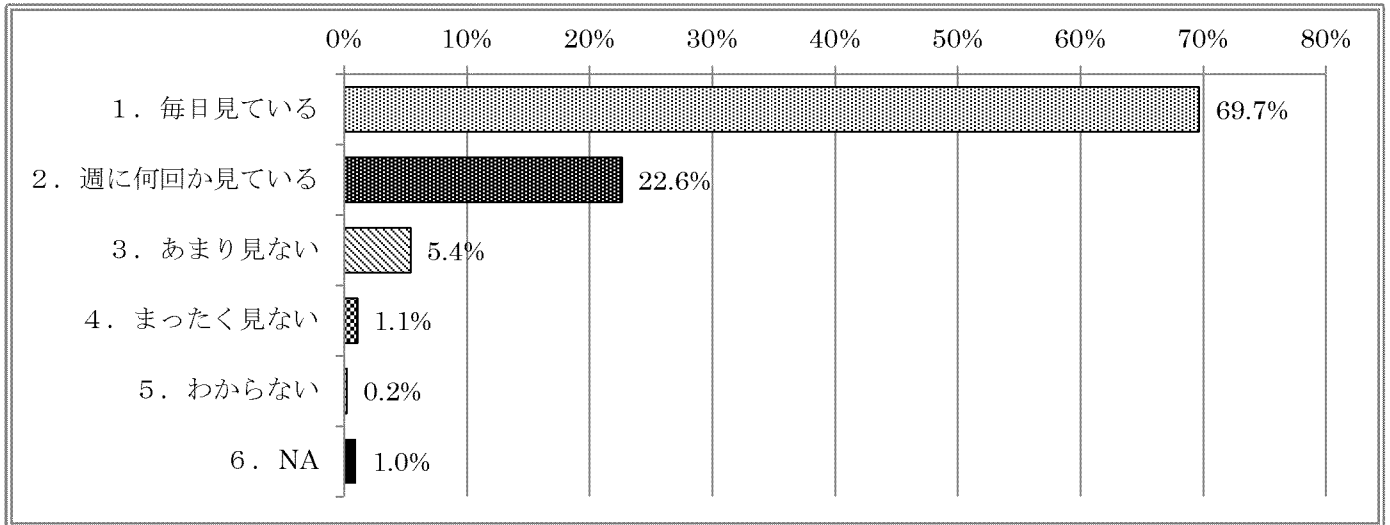


【学年別】

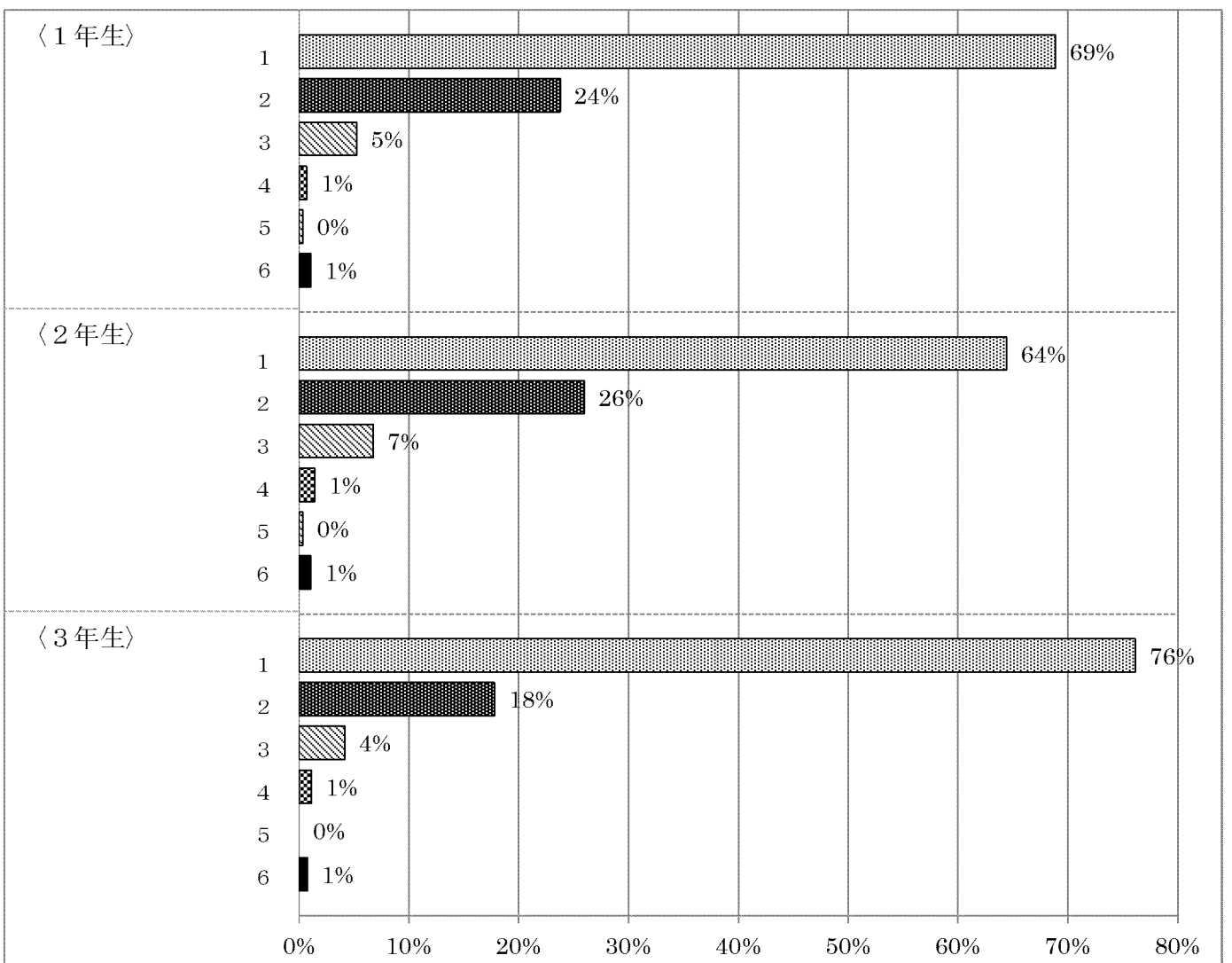


Q13SQ. (Q13で「毎日」「週に何回か」と回答した方に) ニュース番組をどのくらい見ますか。
1つ選んで番号に○をつけてください。

【全学年】

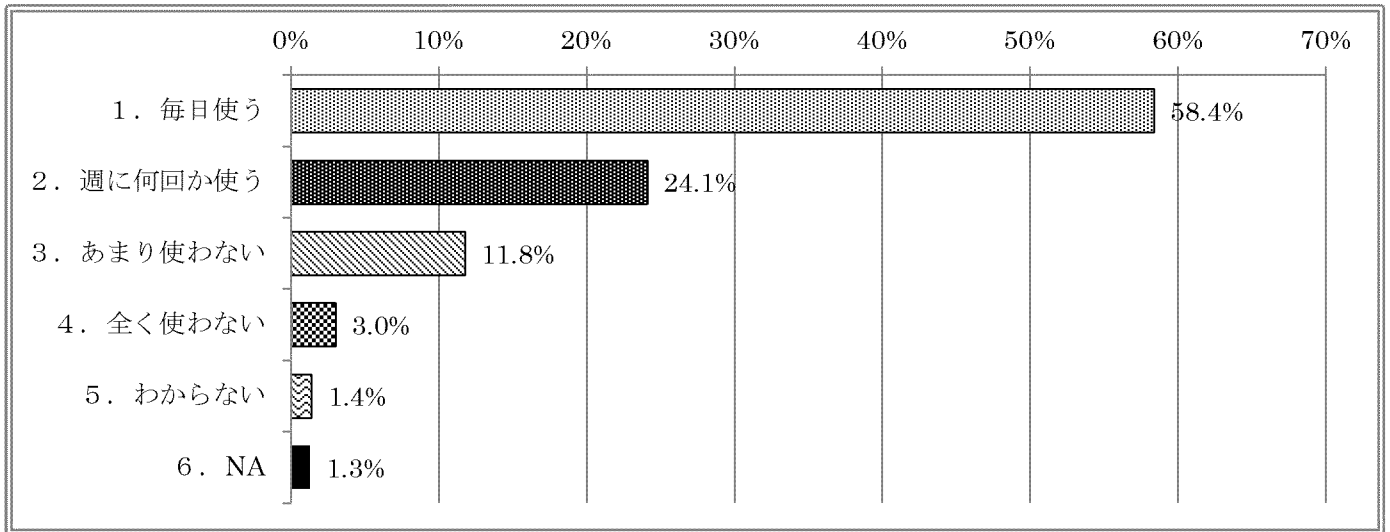


【学年別】

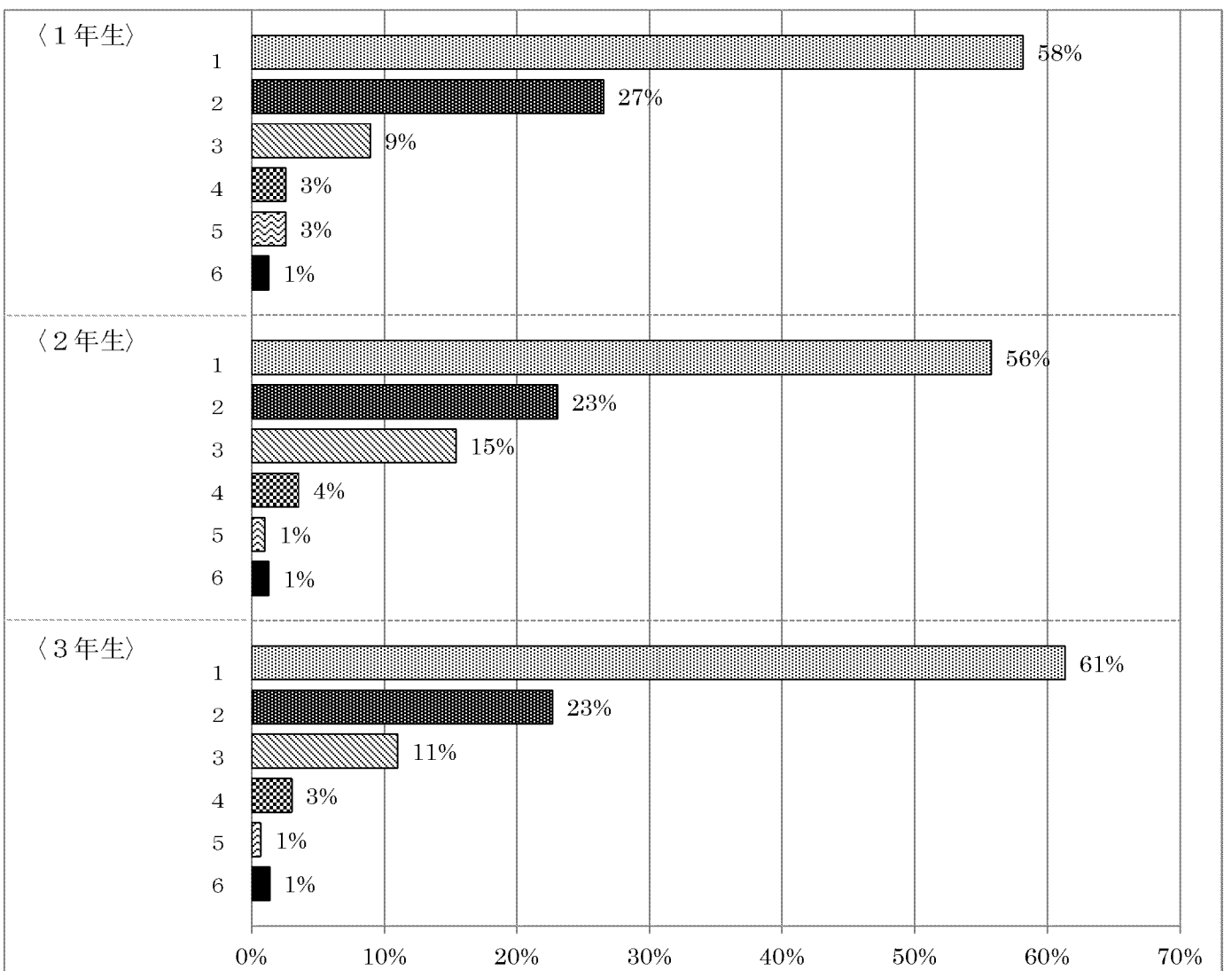


Q14. あなたはインターネットをどのくらい使っていますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

【全学年】

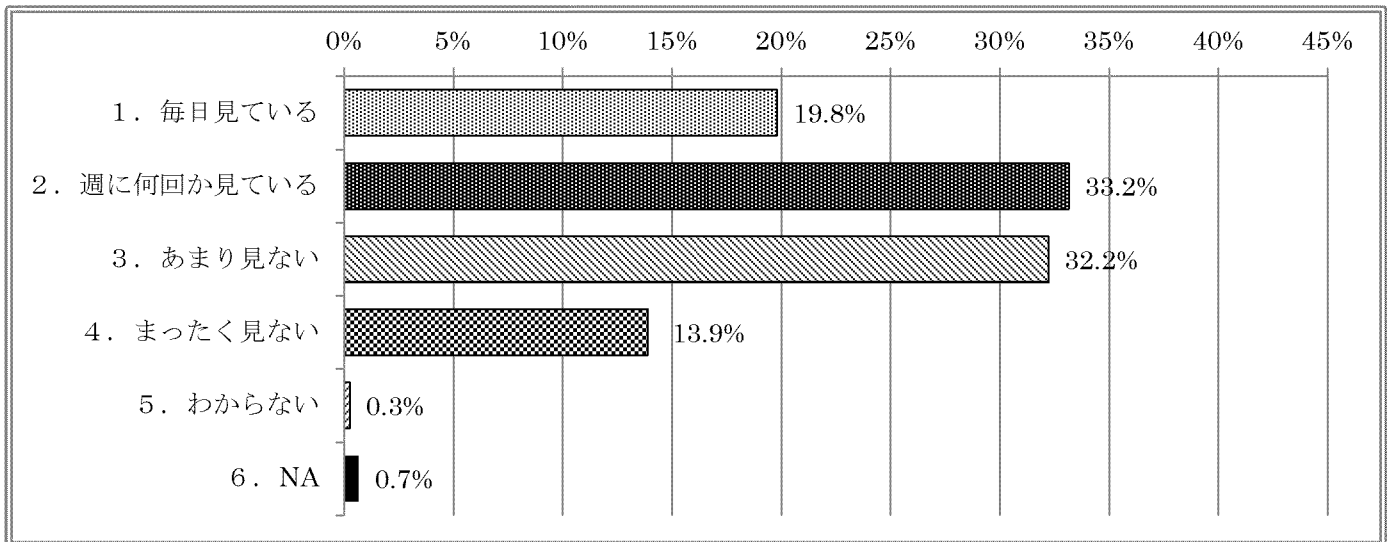


【学年別】

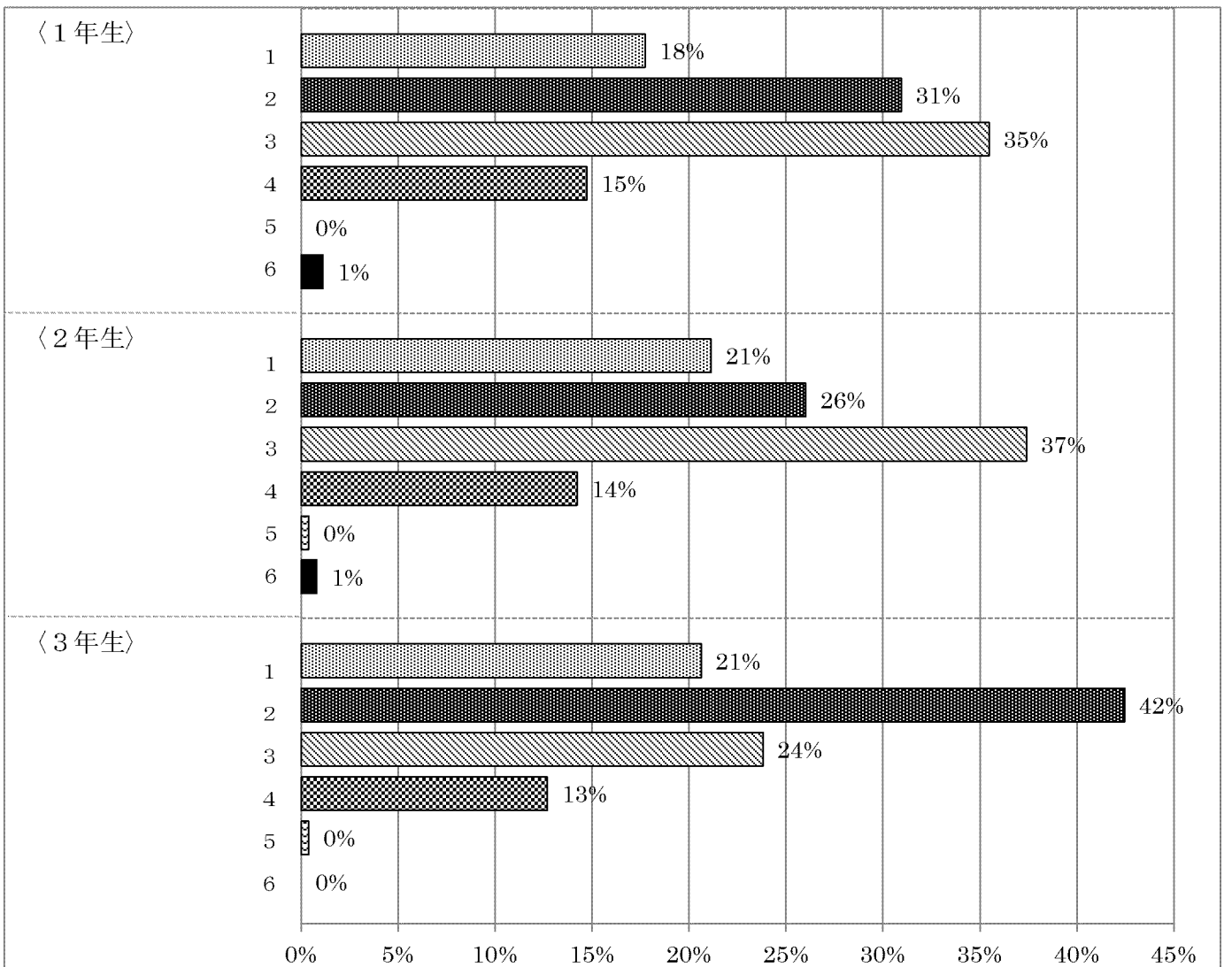


Q14SQ. (Q14で「毎日」「週に何回か」と回答した方に) ニュースサイトをどのくらい見ますか。
1つ選んで番号に○をつけてください。

【全学年】

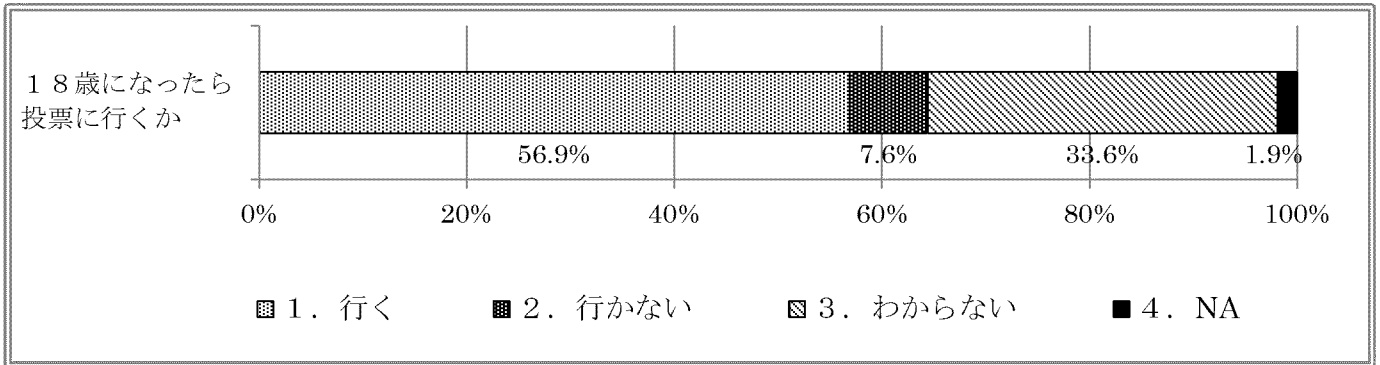


【学年別】

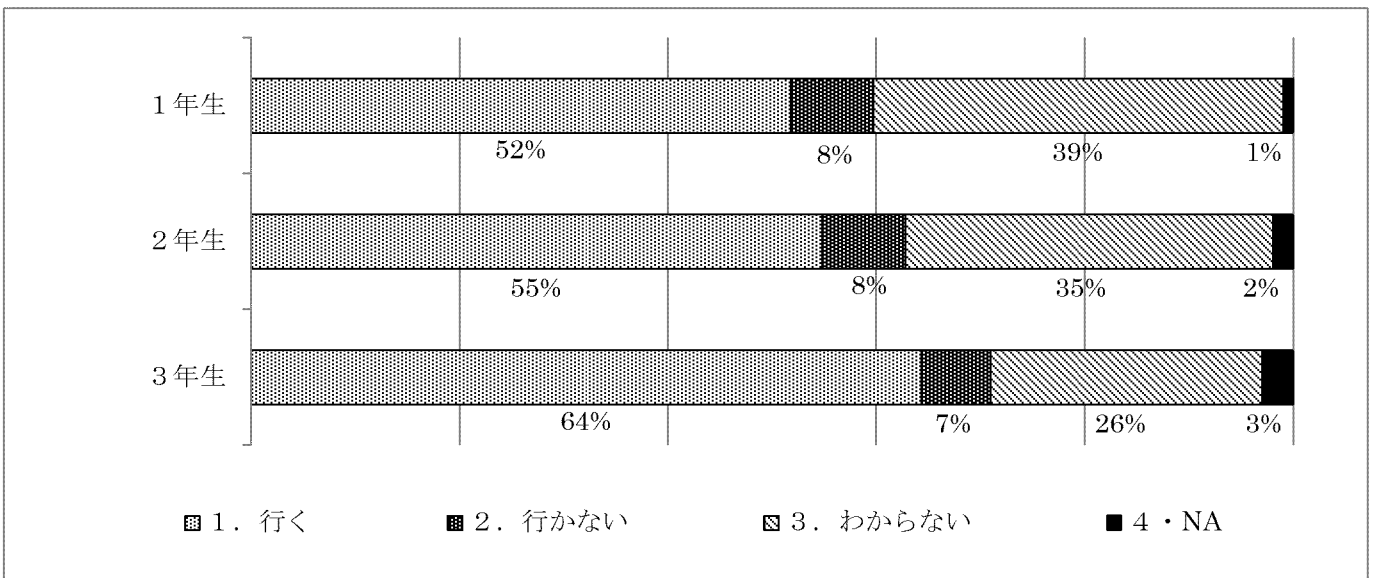


Q15. あなたは、18歳になったら投票に行きますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

【全学年】

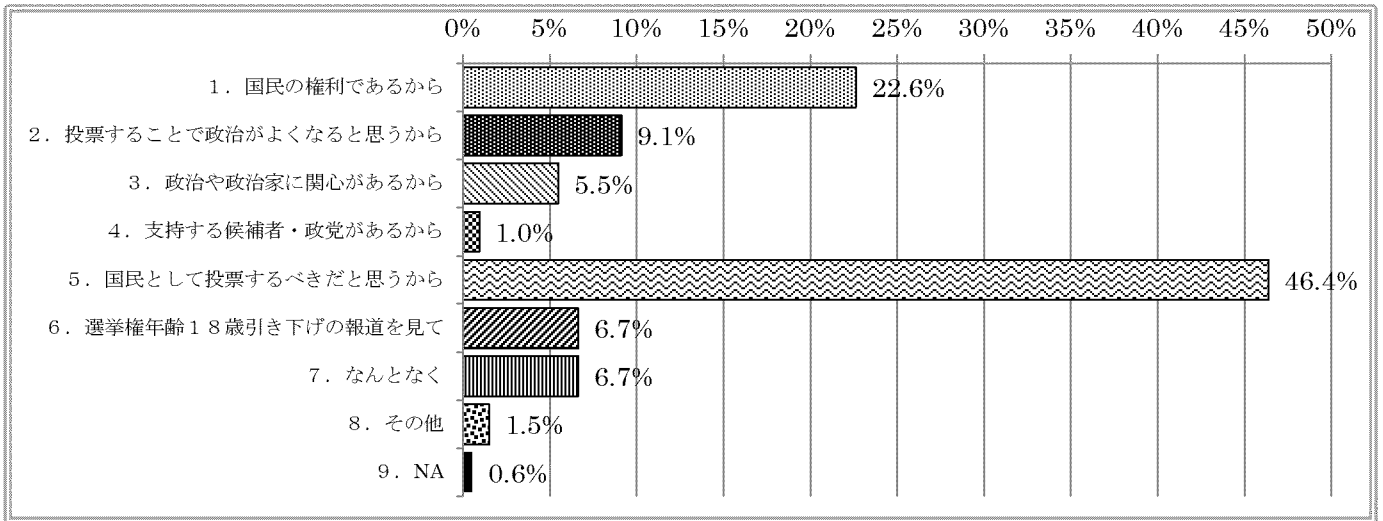


【学年別】

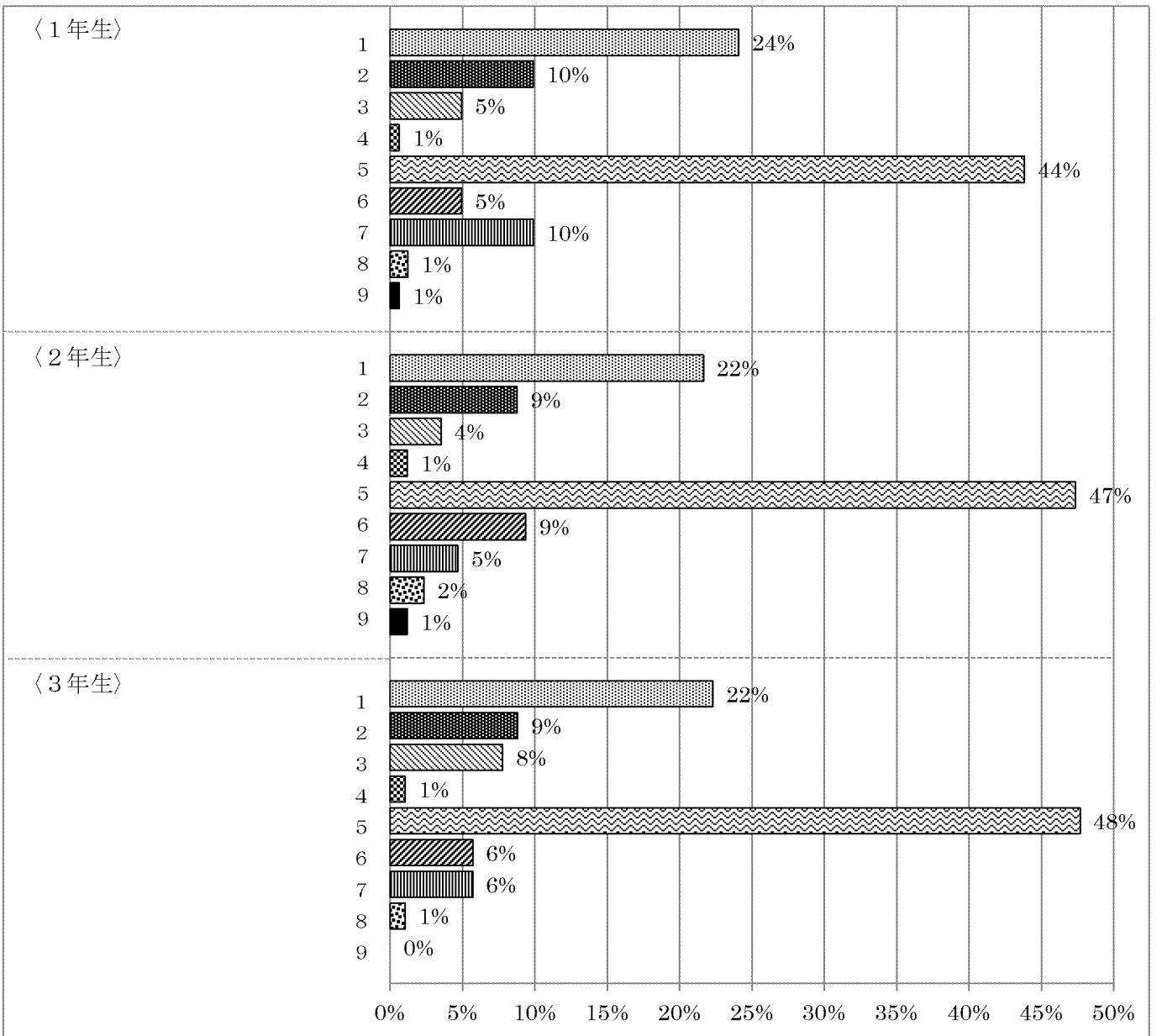


Q15SQ1. (Q15で「行く」と回答した方に) なぜ投票に行こうと思ったのですか。
 あなたの考えに近い番号を1つ選んで番号に○をつけてください。

【全学年】

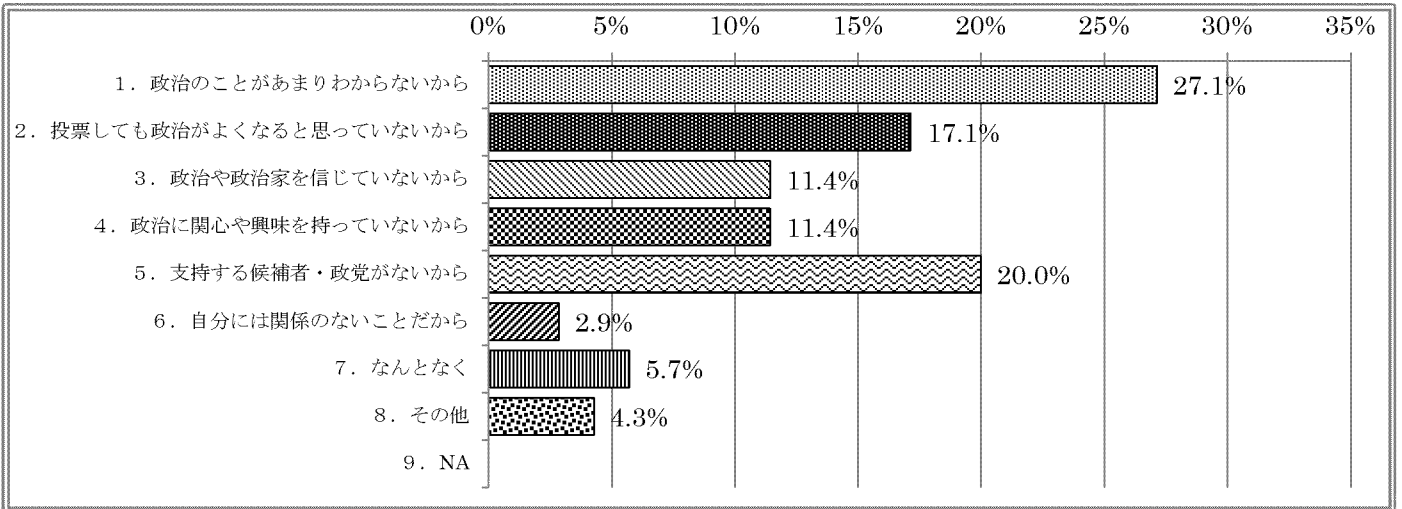


【学年別】

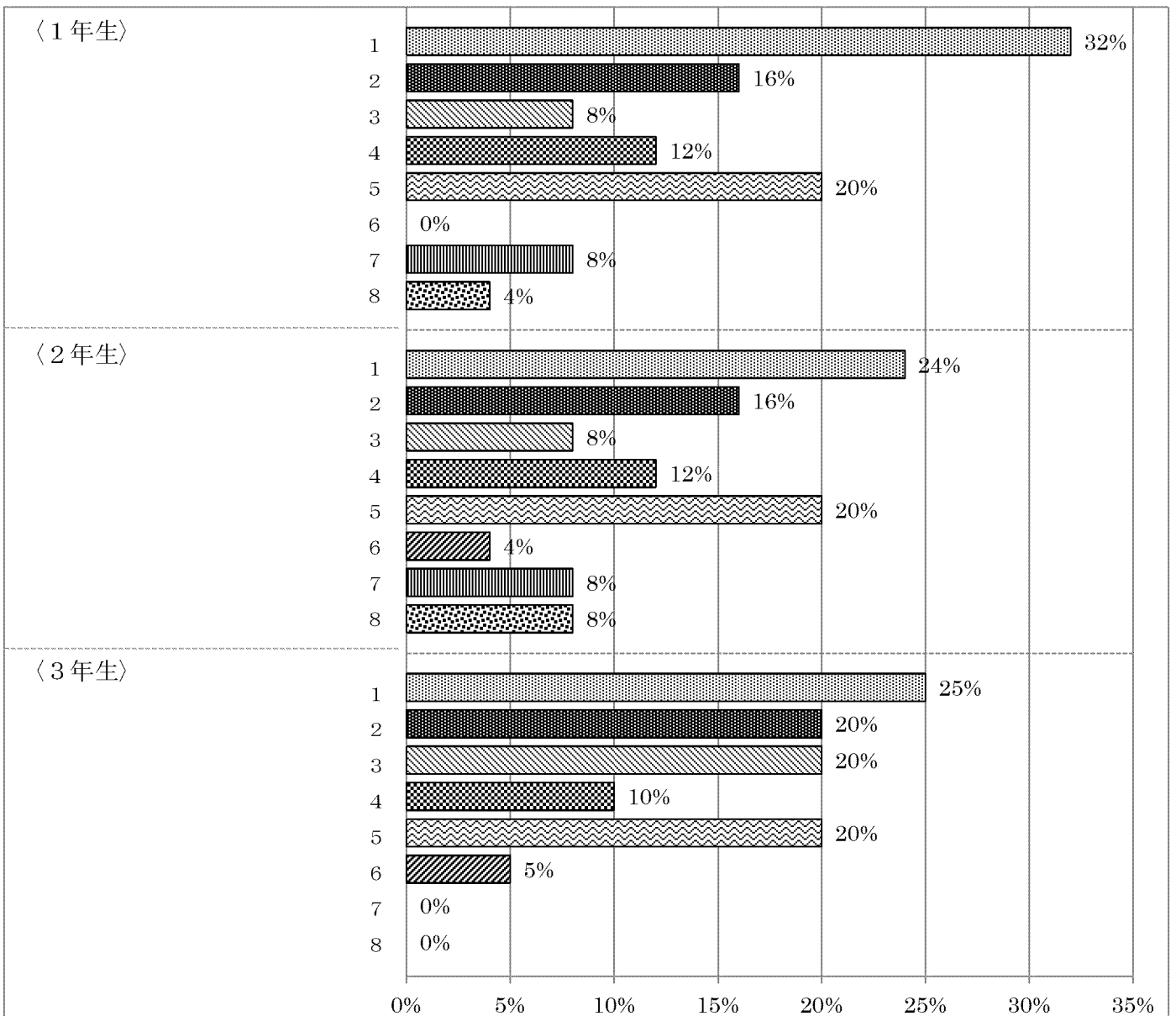


Q15SQ2. (Q15で「行かない」と回答した方に) なぜ投票に行こうと思わないのですか。
 あなたの考えに近い番号を1つ選んで番号に○をつけてください。

【全学年】

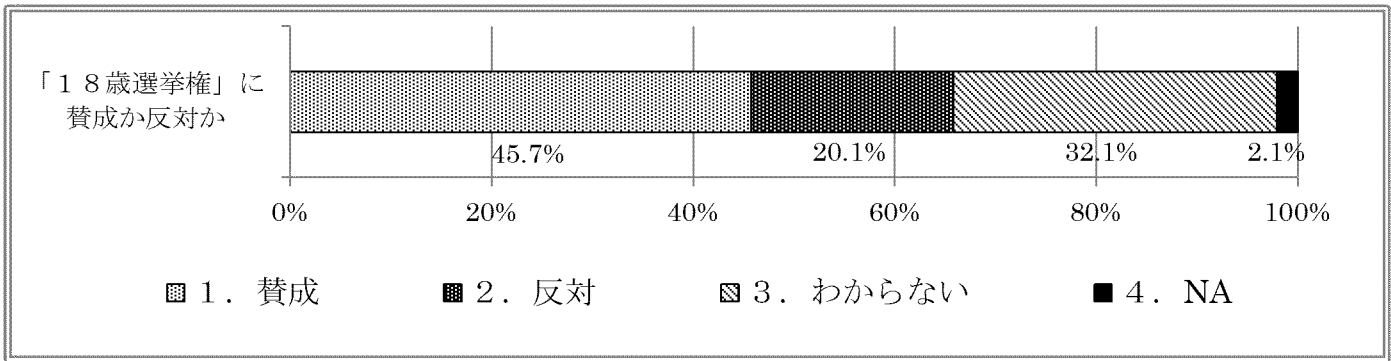


【学年別】

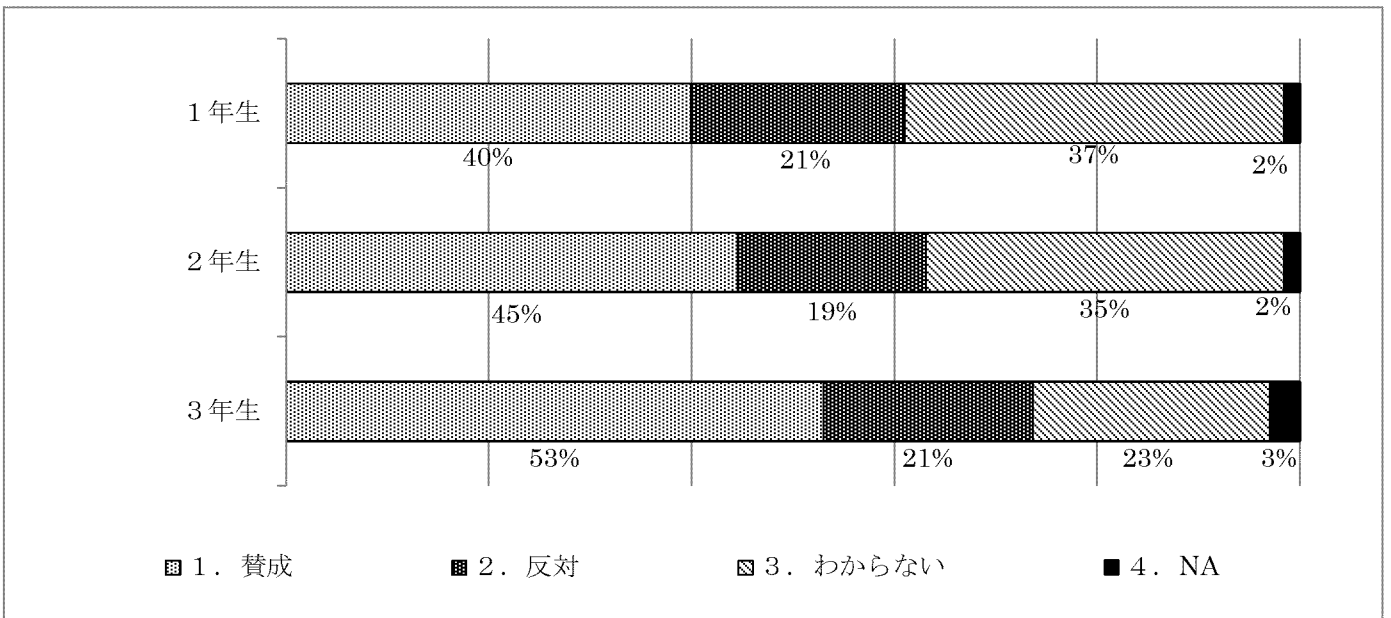


Q16. あなたは、選挙権年齢が「18歳以上」に引き下げられたことに賛成ですか、反対ですか。
次の中から1つ選んでください。

【全学年】

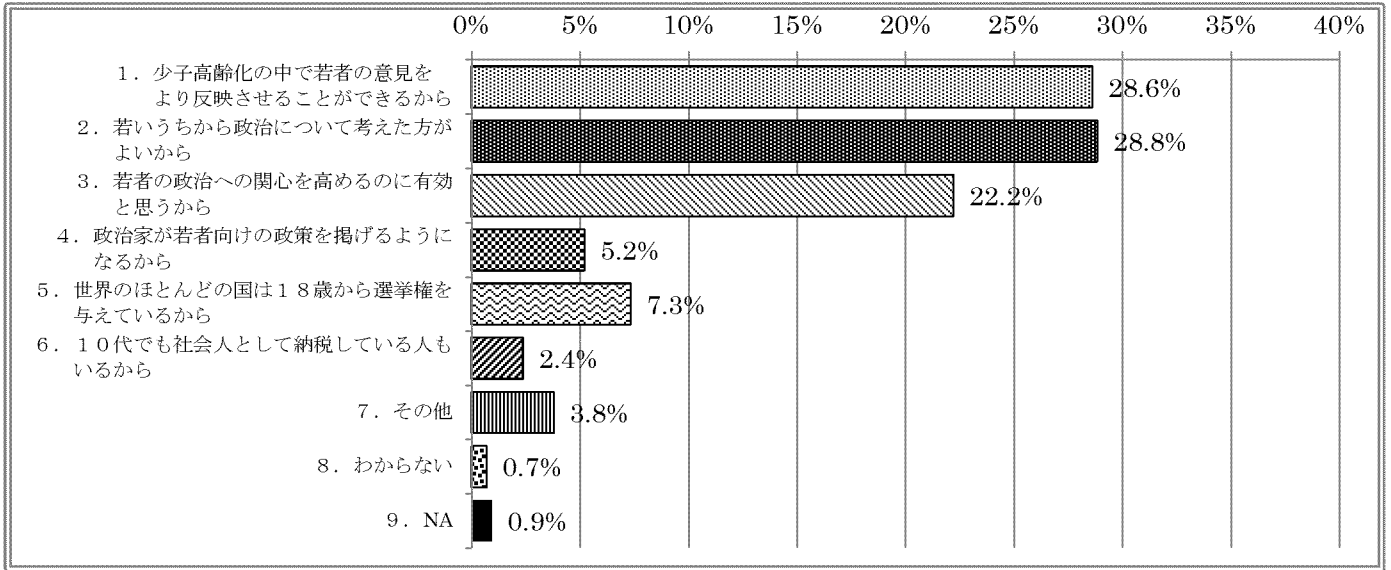


【学年別】

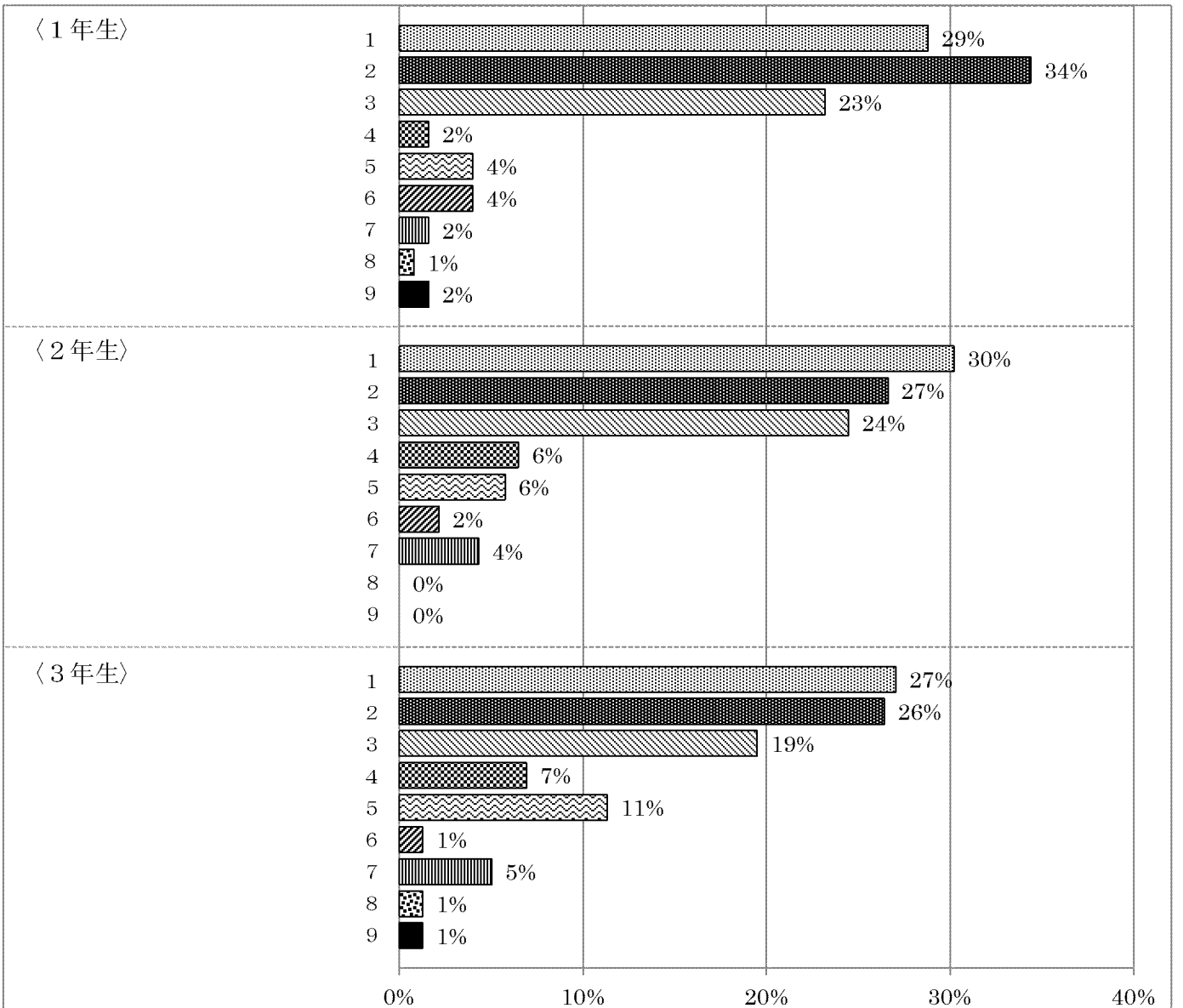


Q16SQ1. (Q16で「賛成」と回答した方に) なぜ賛成なのですか。
あなたの考えに近い番号を1つ選んで番号に○をつけてください。

【全学年】

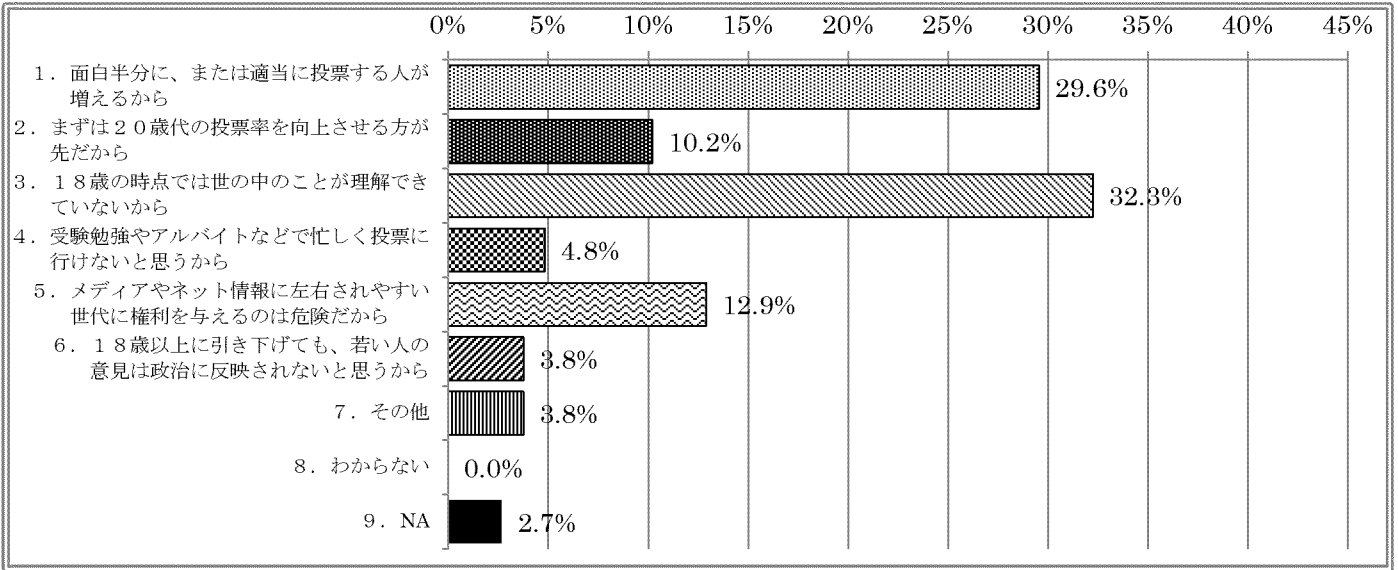


【学年別】

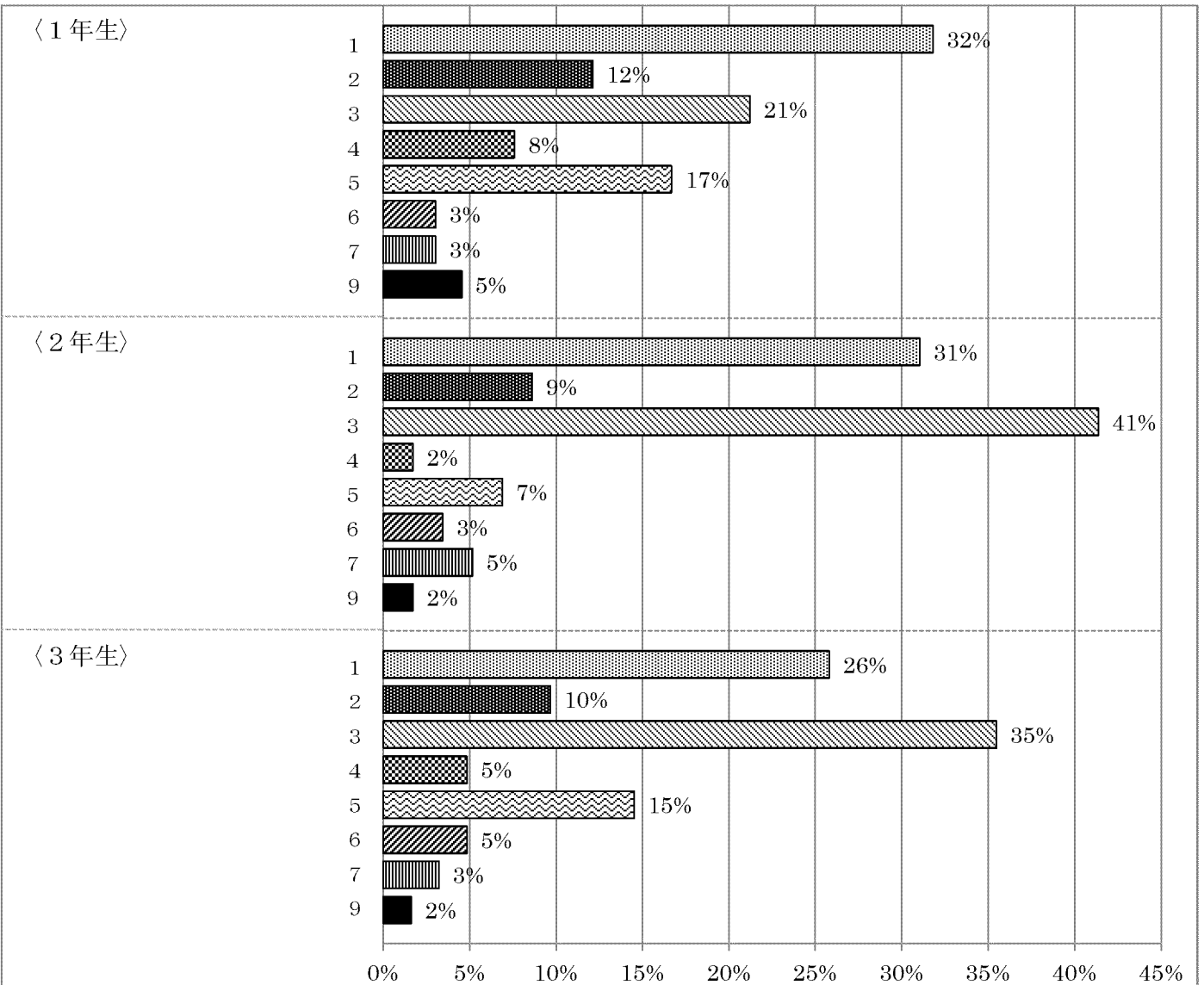


Q16SQ2. (Q16で「反対」と回答した方に) なぜ反対なのですか。
 あなたの考えに近い番号を1つ選んで番号に○をつけてください。

【全学年】

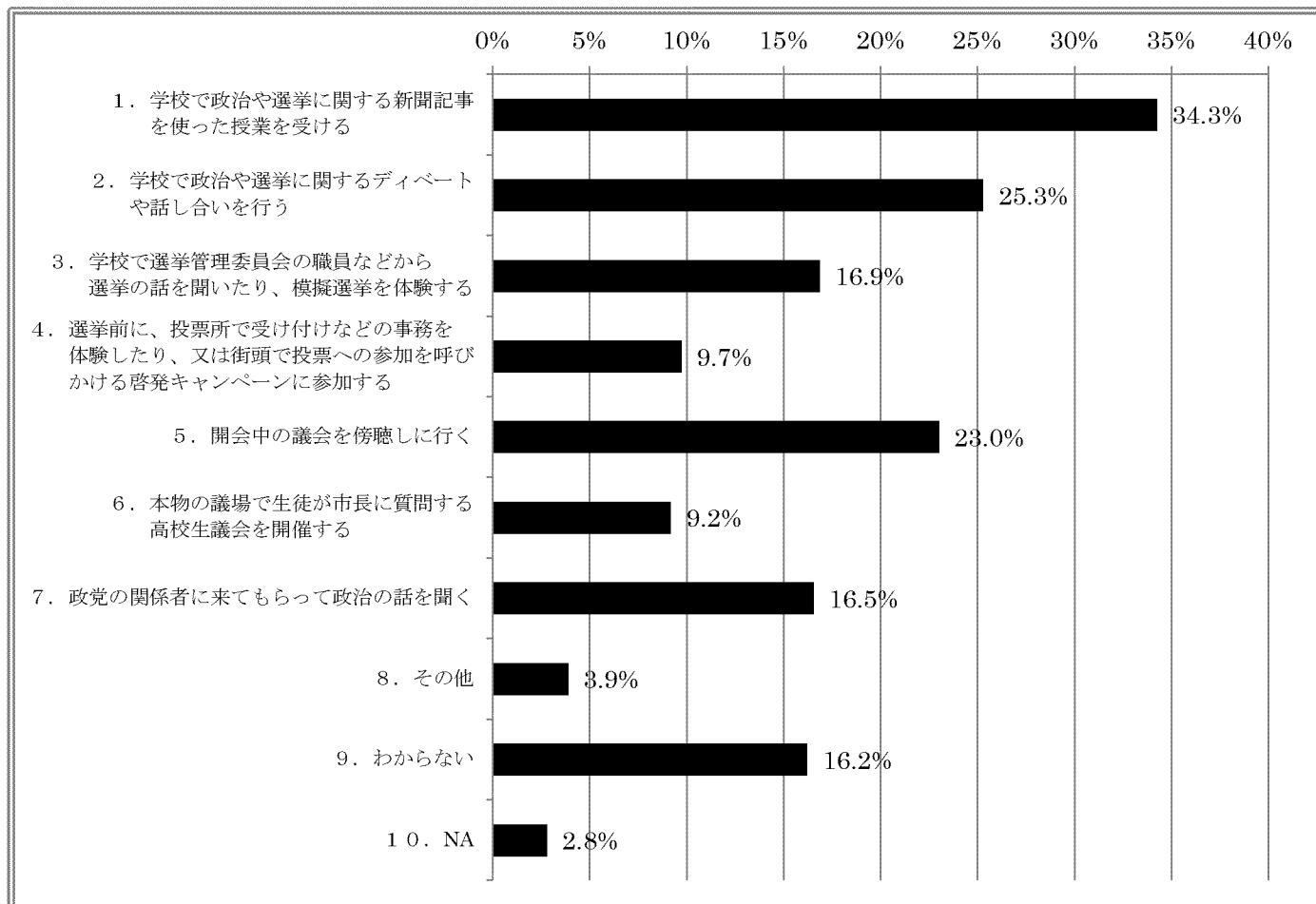


【学年別】



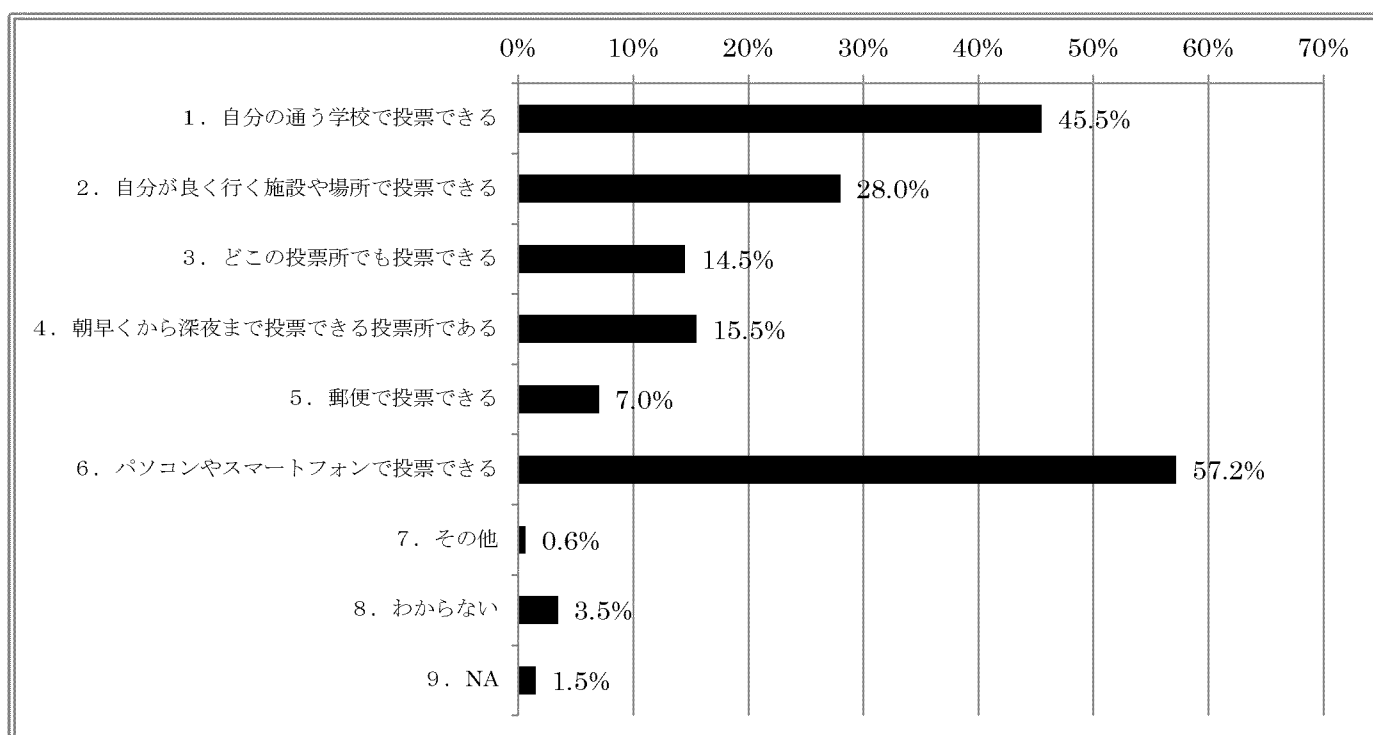
**Q 17. あなたは、高校生が政治や選挙に関心を持つためには、何をすればよいと思いますか。
あなたの考えに近い番号を2つまで選んで○をつけてください。**

※複数回答を求める設問であるため、学年別集計を行いません。



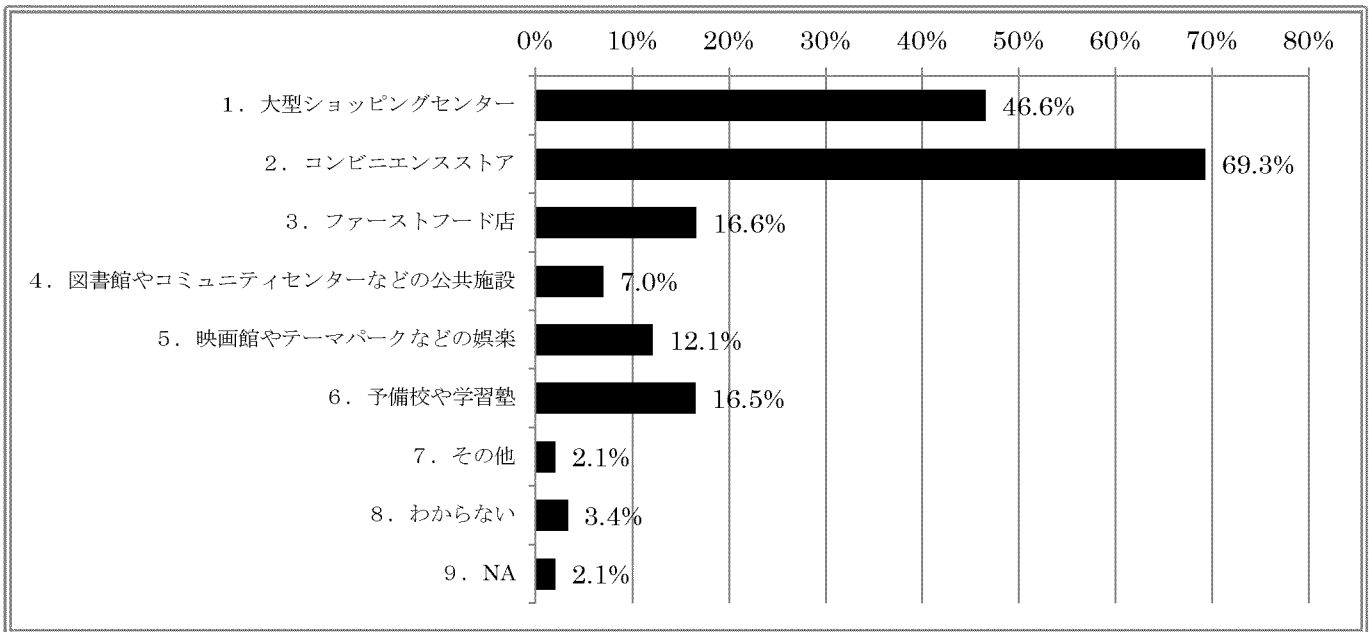
**Q 18. あなたは、どのような環境であれば投票しやすいと感じますか。
あなたの考えに近い番号を2つまで選んで○をつけてください。**

※複数回答を求める設問であるため、学年別集計を行いません。



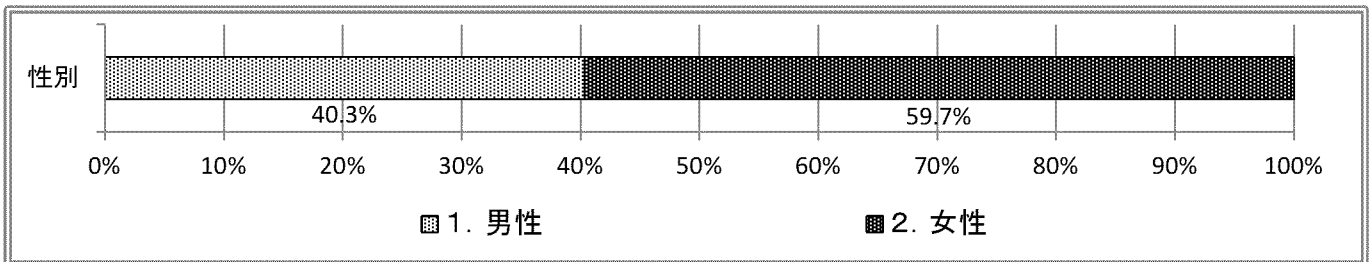
Q 19. あなたがよく行く施設や場所はどこですか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

※複数回答を求める設問であるため、学年別集計を行いません。



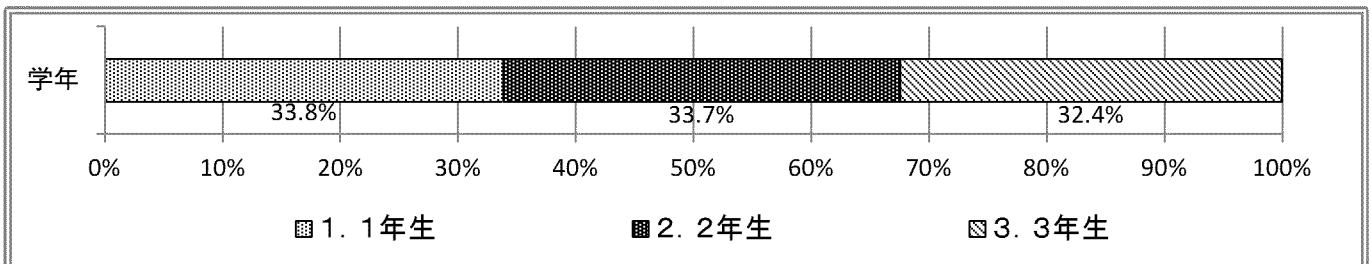
F 1. あなたは男性ですか、女性ですか。

※属性に関する設問であるため、学年別集計を行いません。



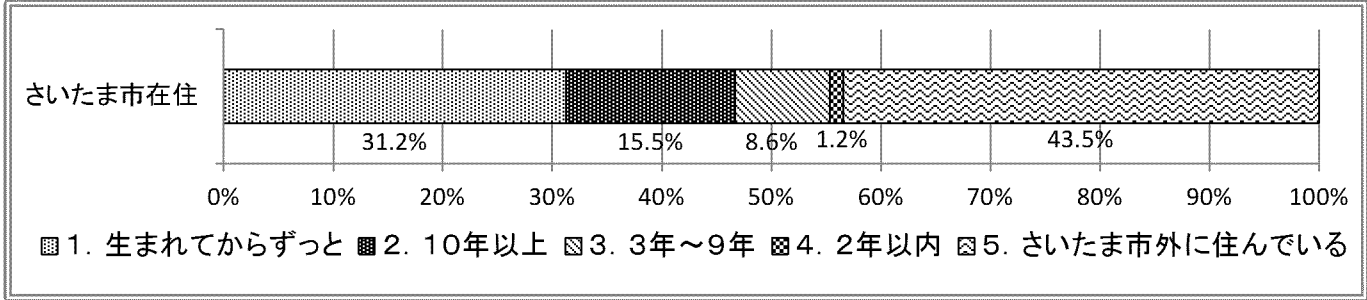
F 2. あなたは、何年生ですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

※属性に関する設問であるため、学年別集計を行いません。

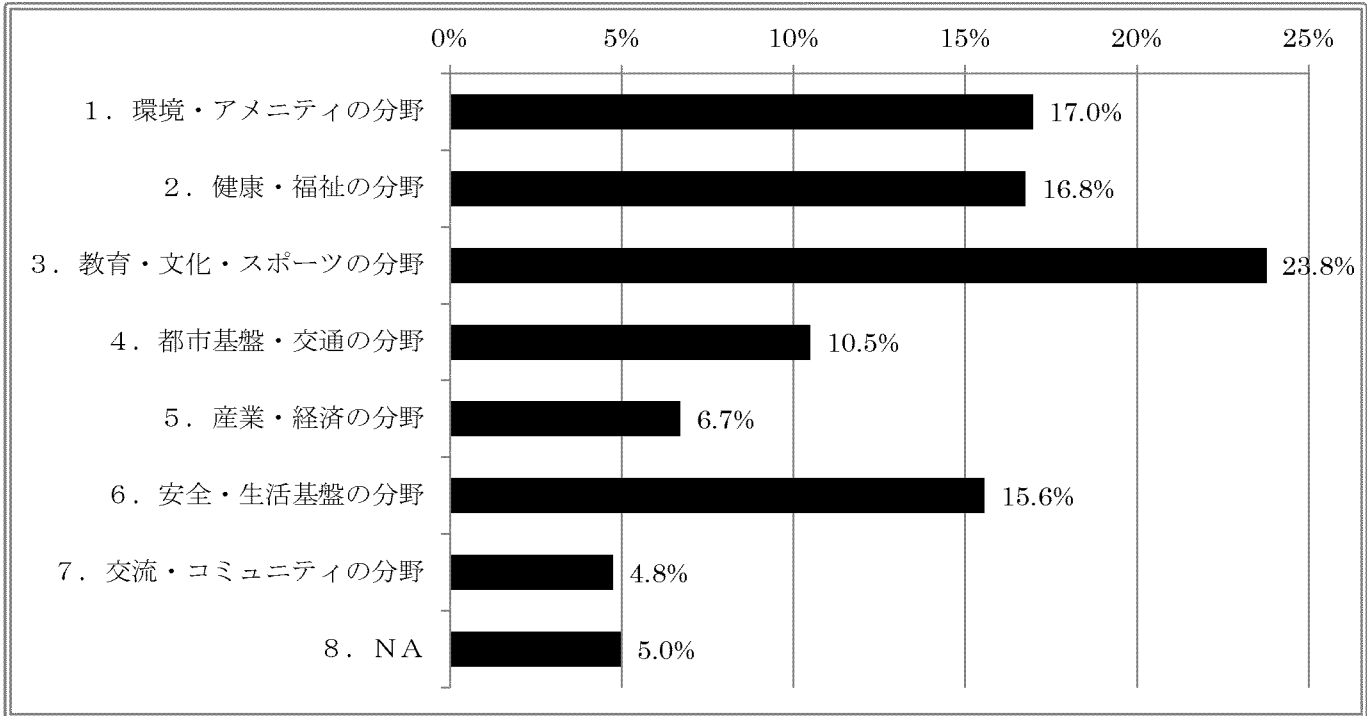


F 3. あなたはさいたま市に住んで何年になりますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

※属性に関する設問であるため、学年別集計を行いません。



F 4. さいたま市は、様々な施策に取り組んでいますが、あなたが特に力を入れて欲しいと思う施策の分野はどれですか。1つ選んで番号に○をつけてください。



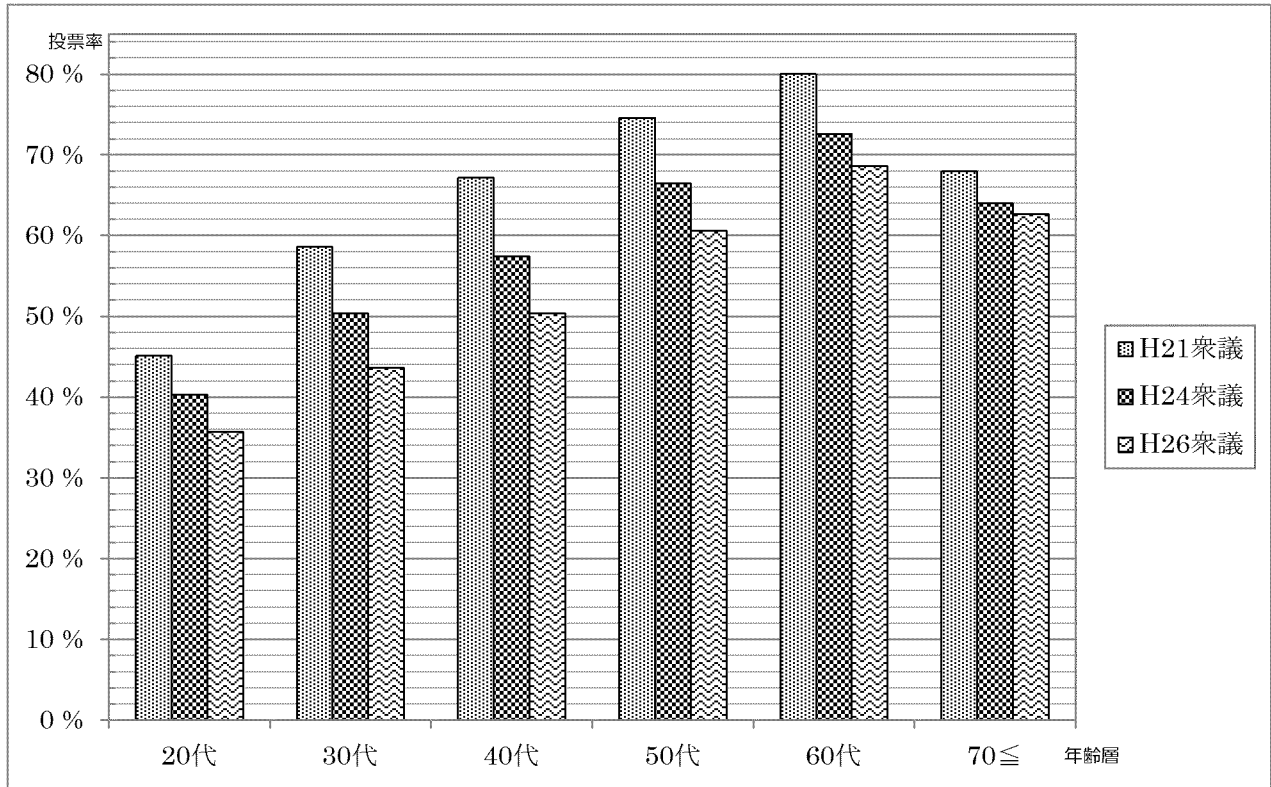
【IV. 参考資料】

● 年代別投票率の状況（同一選挙による比較）

1. 衆議院議員総選挙／小選挙区・さいたま市・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7 1
2. 参議院議員通常選挙／埼玉県選出・さいたま市・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7 2
3. さいたま市長選挙・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7 3
4. さいたま市議会議員一般選挙・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7 4

年代別投票率の状況 (同一選挙による比較)

1. 衆議院議員総選挙／小選挙区・さいたま市

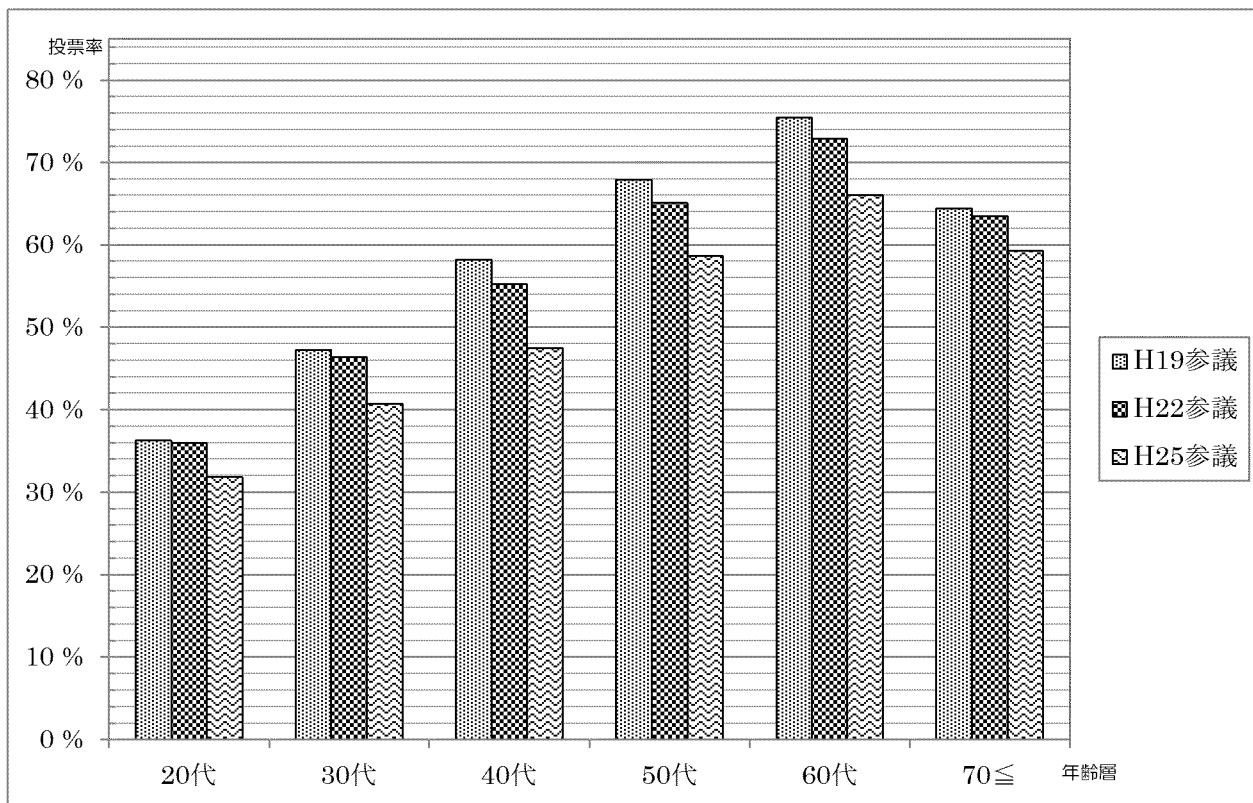


	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	平均
H 2 1	45.13 %	58.58 %	67.16 %	74.61 %	80.05 %	67.95 %	65.56 %
H 2 4	40.27 %	50.33 %	57.39 %	66.45 %	72.63 %	64.04 %	58.67 %
H 2 6	35.67 %	43.59 %	50.33 %	60.62 %	68.58 %	62.66 %	53.87 %

	20▶30代	30▶40代	40▶50代	50▶60代	60▶70代
H 2 1	13.45 %	8.58 %	7.45 %	5.44 %	-12.10 %
H 2 4	10.06 %	7.06 %	9.06 %	6.18 %	-8.59 %
H 2 6	7.92 %	6.74 %	10.29 %	7.96 %	-5.92 %

※「20▶30代」は、30代の投票率から20代の投票率を引いた差分を表します。

2. 参议院議員通常選挙／埼玉県選出・さいたま市

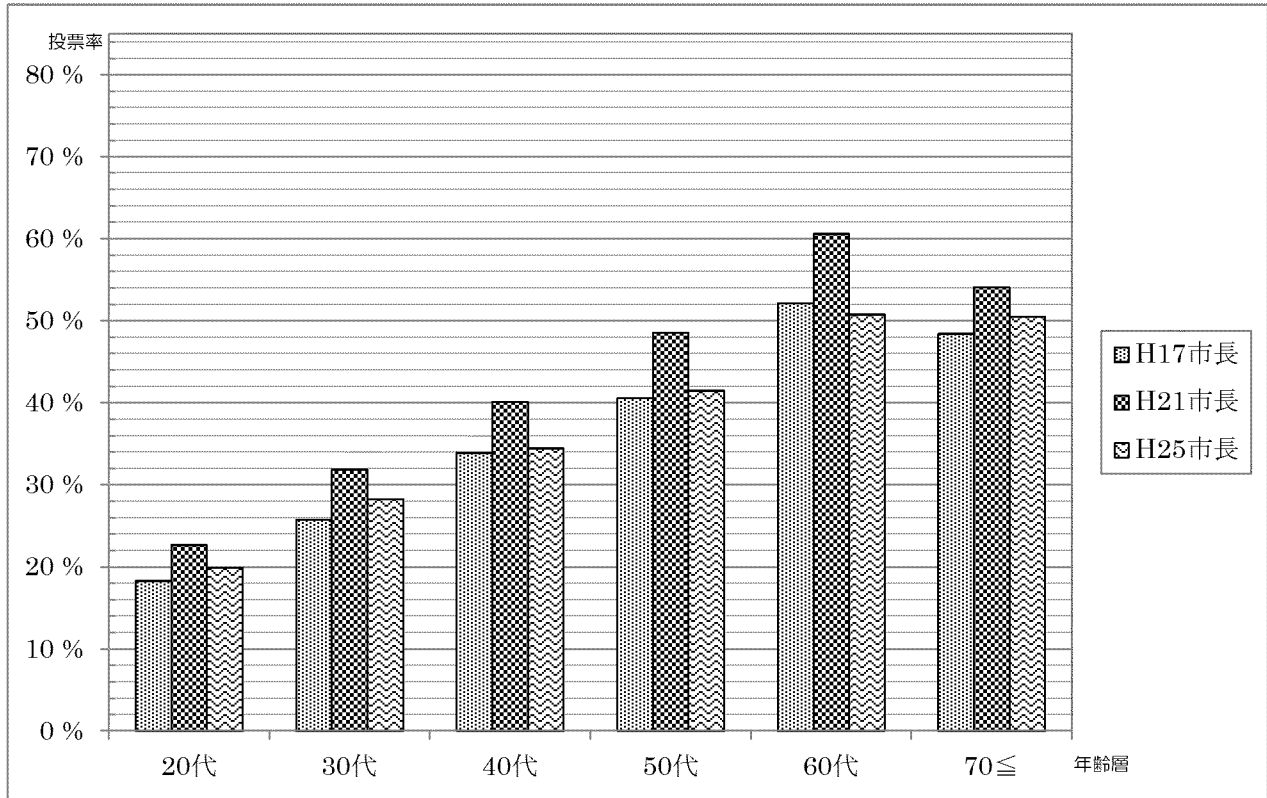


	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	平均
H19	36.28 %	47.26 %	58.21 %	67.91 %	75.43 %	64.43 %	57.65 %
H22	36.00 %	46.39 %	55.21 %	65.07 %	72.86 %	63.50 %	56.39 %
H25	31.83 %	40.68 %	47.49 %	58.62 %	66.03 %	59.27 %	50.81 %

	20▶30代	30▶40代	40▶50代	50▶60代	60▶70代
H19	10.98 %	10.95 %	9.70 %	7.52 %	-11.00 %
H22	10.39 %	8.82 %	9.86 %	7.79 %	-9.36 %
H25	8.85 %	6.81 %	11.13 %	7.41 %	-6.76 %

※「20▶30代」は、30代の投票率から20代の投票率を引いた差分を表します。

3. さいたま市長選挙

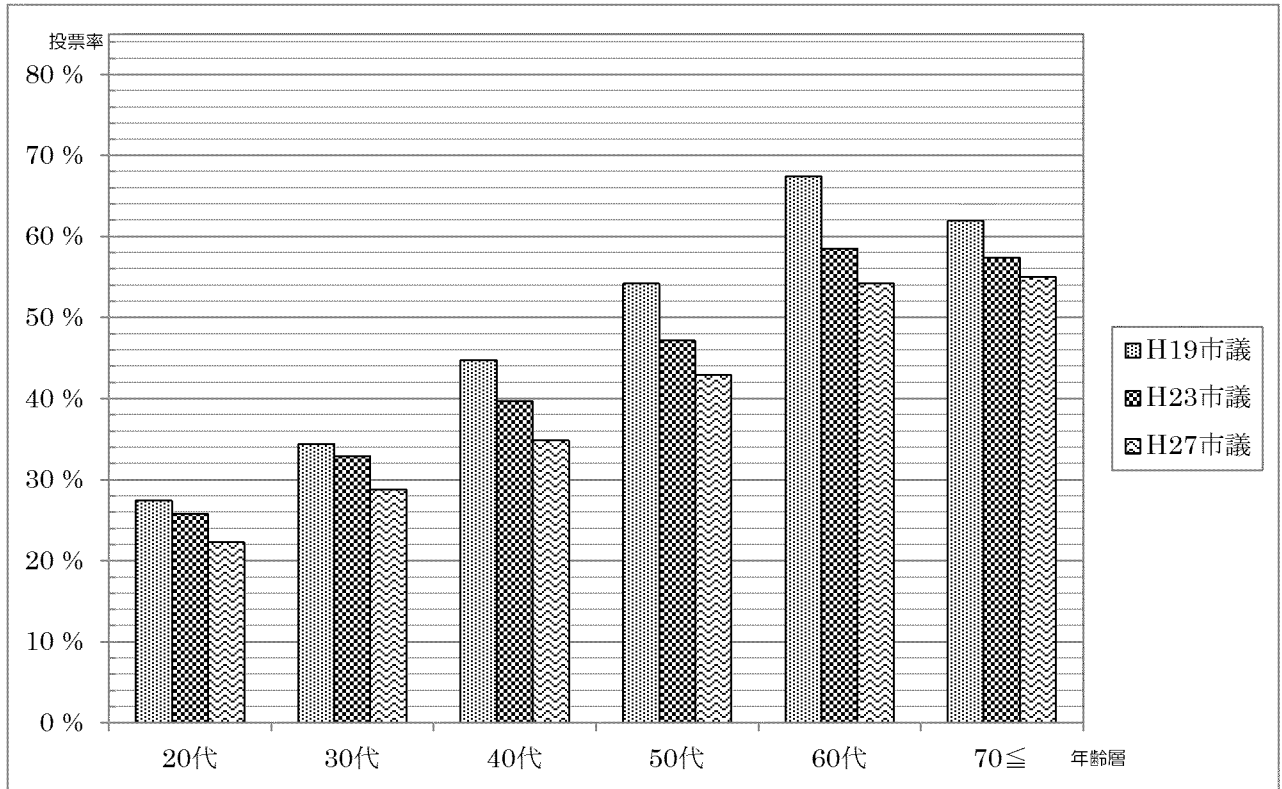


	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	平均
H17	18.29%	25.75%	33.92%	40.59%	52.12%	48.42%	35.51%
H21	22.68%	31.90%	40.13%	48.56%	60.59%	54.08%	42.78%
H25	19.90%	28.25%	34.47%	41.47%	50.79%	50.50%	37.98%

	20>30代	30>40代	40>50代	50>60代	60>70代
H17	7.46%	8.17%	6.67%	11.53%	-3.70%
H21	9.22%	8.23%	8.43%	12.03%	-6.51%
H25	8.35%	6.22%	7.00%	9.32%	-0.29%

※「20>30代」は、30代の投票率から20代の投票率を引いた差分を表します。

4. さいたま市議会議員一般選挙



	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	平均
H19	27.40%	34.40%	44.75%	54.20%	67.39%	61.93%	47.44%
H23	25.80%	32.92%	39.69%	47.16%	58.48%	57.39%	43.60%
H27	22.30%	28.80%	34.84%	42.92%	54.18%	55.03%	40.39%

	20▶30代	30▶40代	40▶50代	50▶60代	60▶70代
H19	7.00%	10.35%	9.45%	13.19%	-5.46%
H23	7.12%	6.77%	7.47%	11.32%	-1.09%
H27	6.50%	6.04%	8.08%	11.26%	0.85%

※「20▶30代」は、30代の投票率から20代の投票率を引いた差分を表します。

平成 27 年度

高校生の政治・選挙に関する意識調査（報告書）

平成 28 年 3 月発行

集計・分析 埼玉大学社会調査研究センター長 松本 正生

編集・発行 さいたま市選挙管理委員会

〒330-9588

さいたま市浦和区常盤 6 丁目 4 番 4 号

電話番号 048-829-1773

メールアドレス senkyo@city.saitama.lg.jp

この冊子は300部作成し、1部あたりの印刷経費は182円（概算）です。